

柏崎刈羽原子力発電所 6 号炉及び 7 号炉

敷地内の断層に関する分析結果（資料集 1）

平成 27 年 5 月 22 日

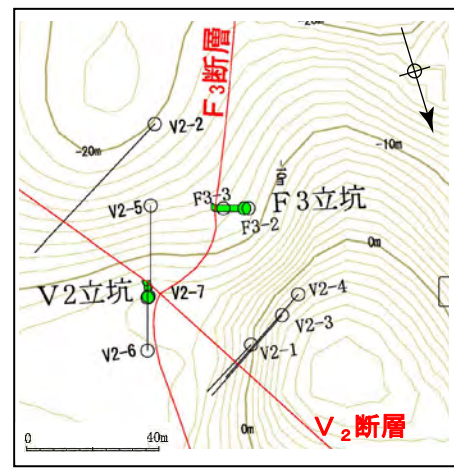
東京電力株式会社

V 2 立坑

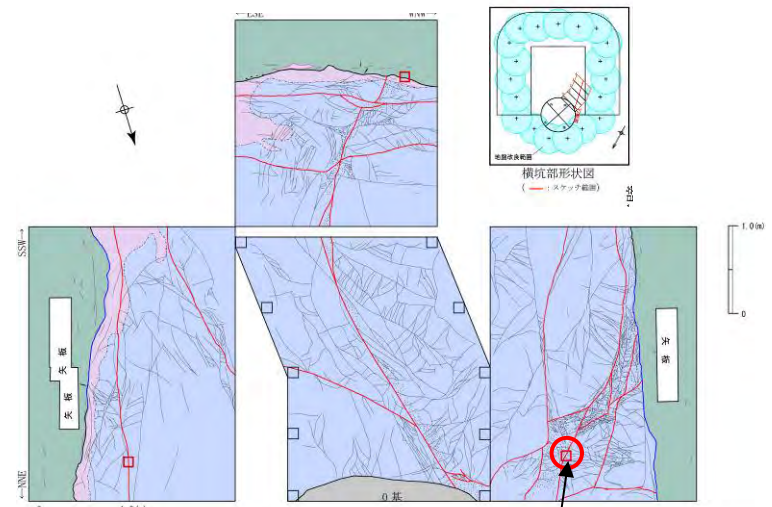
低角度断層の性状分析（４）

分析目的及び内容（低角度②-２）

- 目的：低角度断層②の条線等の把握
- 内容：横坑壁面詳細観察，定方位試料採取，CT画像分析，条線観察，研磨片・薄片観察

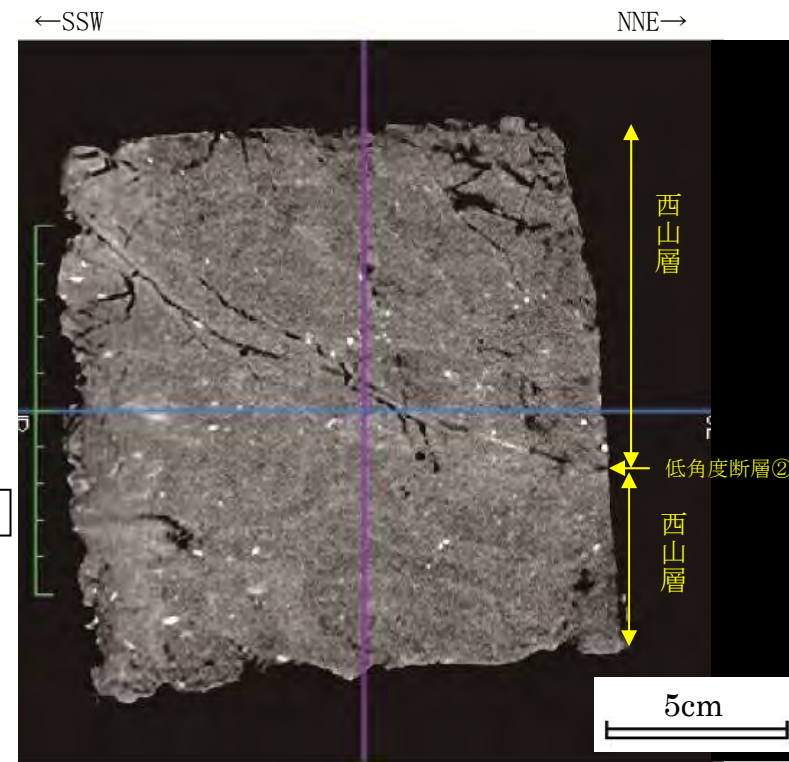


V2立坑位置図

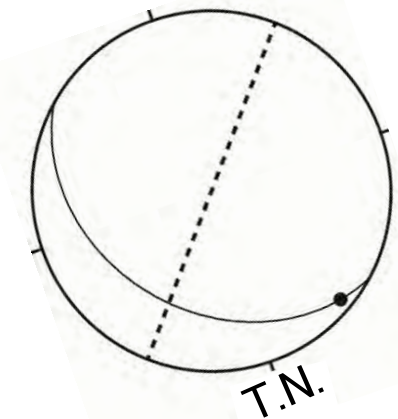


低角度②-２

低角度②-２試料採取位置

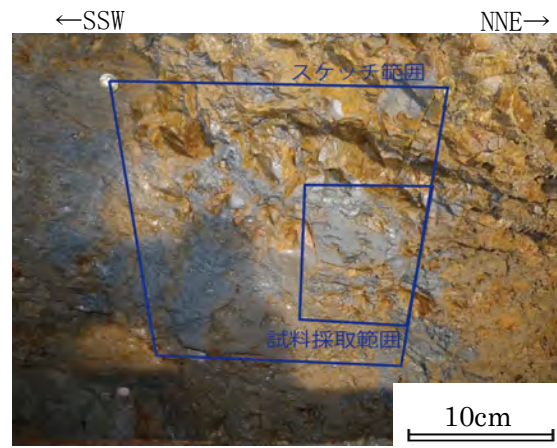


低角度②-２ CTスキャン画像 (スケッチ面の画像)

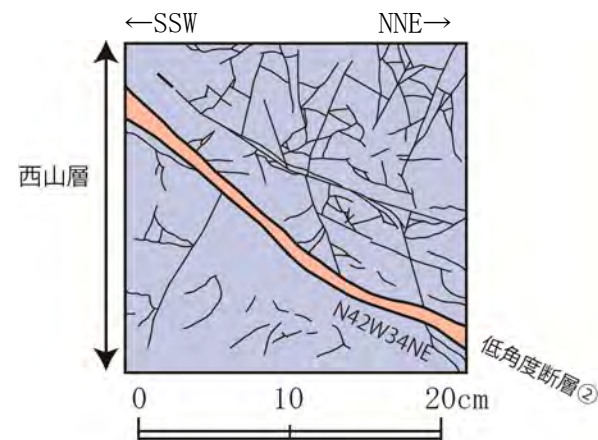


----- : 後谷背斜軸の方向

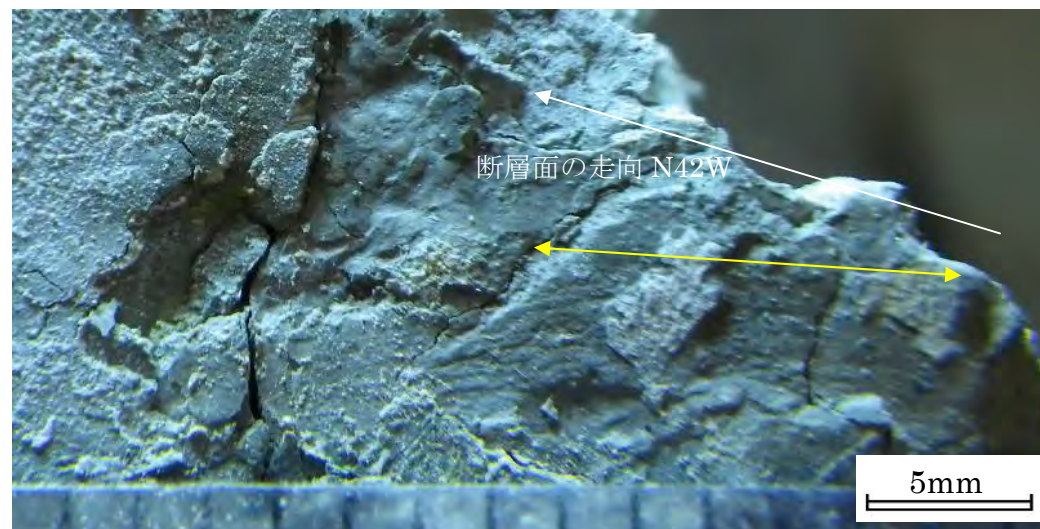
低角度②-２の断層面の走向・傾斜と条線方向 (シュミットネット 下半球投影)



低角度②-２試料採取面写真



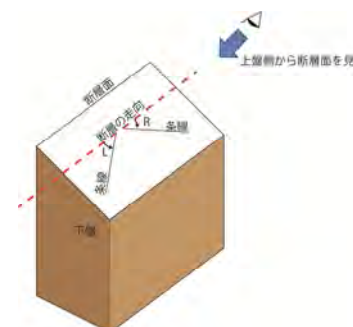
低角度②-２試料採取面スケッチ



低角度断層②下面の条線 (黄色矢印方向)

断層面の走向傾斜：N42W34E

条線のレイク角：13R (本面は下盤側から見ている)

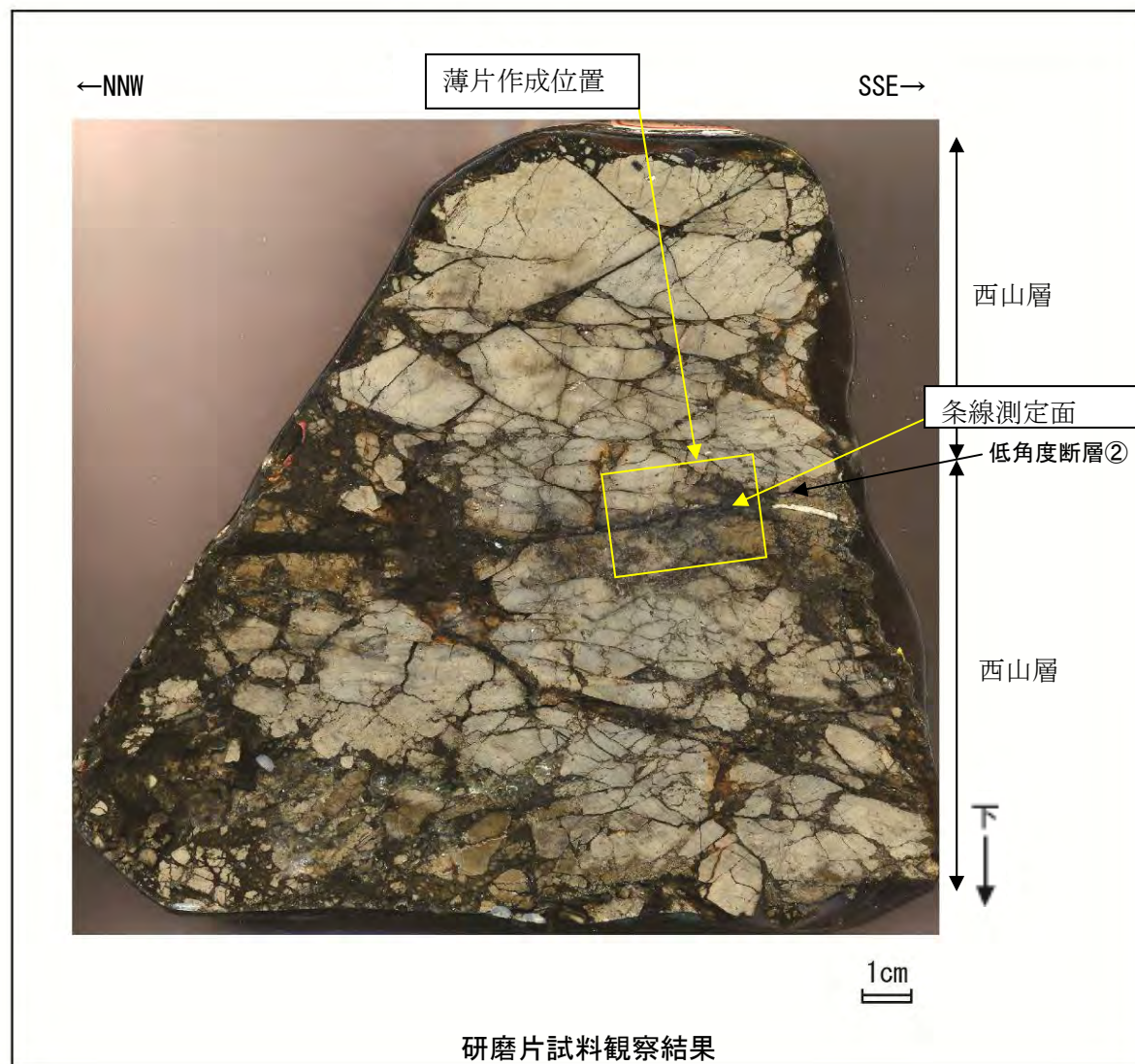
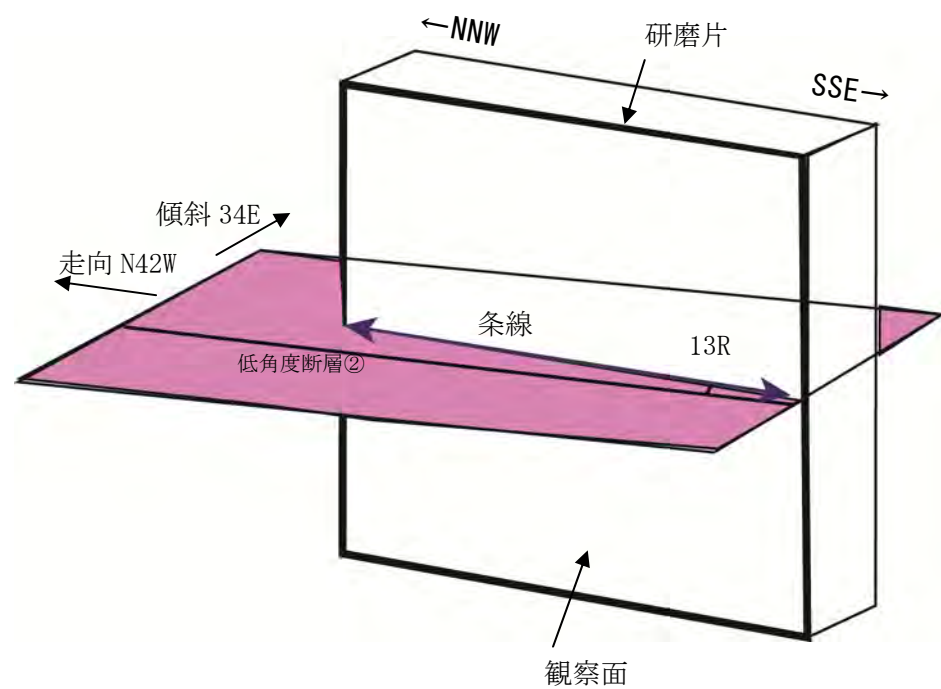


本試料のレイク角の表示方法

低角度②-２（低角度断層②）の分析結果

- 横坑西壁面では，低角度断層②は幅 1cm 程度の細片状部と薄い粘土を挟み，上下面は鏡肌を伴う平滑な面からなる。
- ブロック試料のCT画像では，断層面の上面境界は不明瞭，下面境界は比較的明瞭である。
- 低角度断層②粘土部の下面付近には，不明瞭な条線が分布する。条線の方法は，面の走向傾斜 N42W34E に対してレイク角 13R である。
- 条線は NW-SE 方向を示し，後谷背斜の背斜軸に高角度で交差する関係にある。

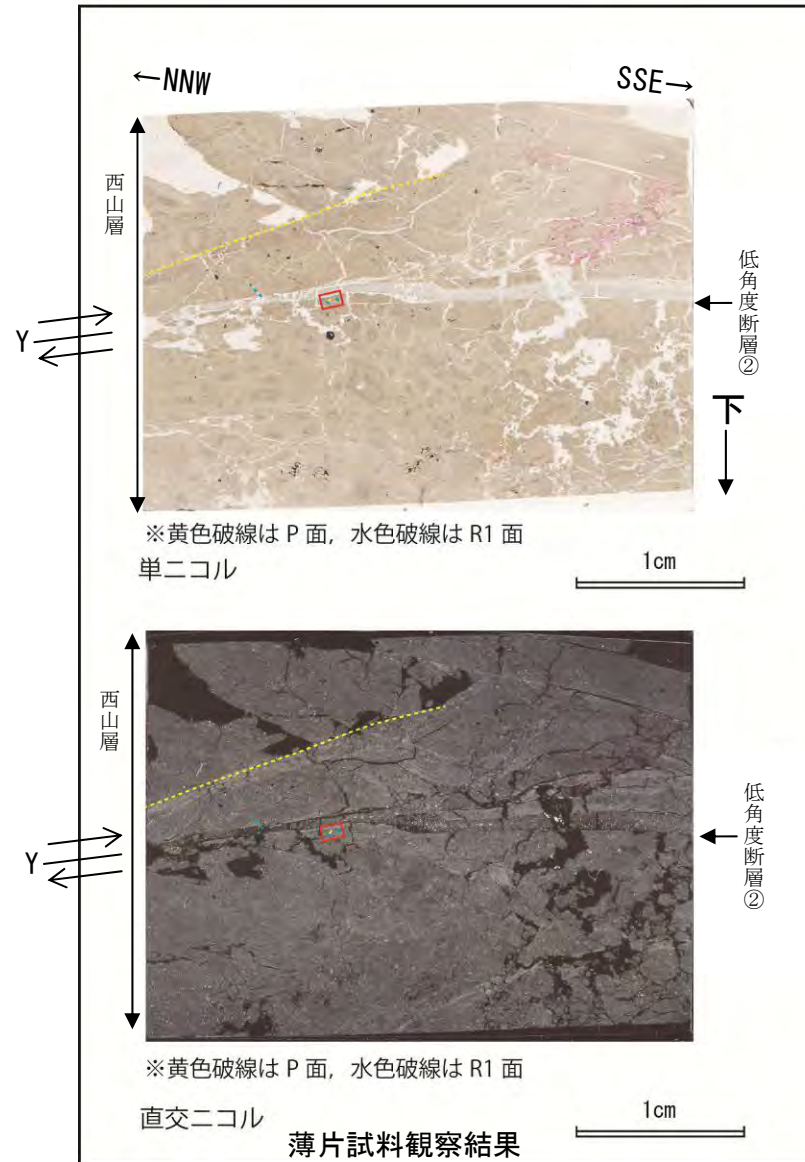
低角度断層の性状分析（5）



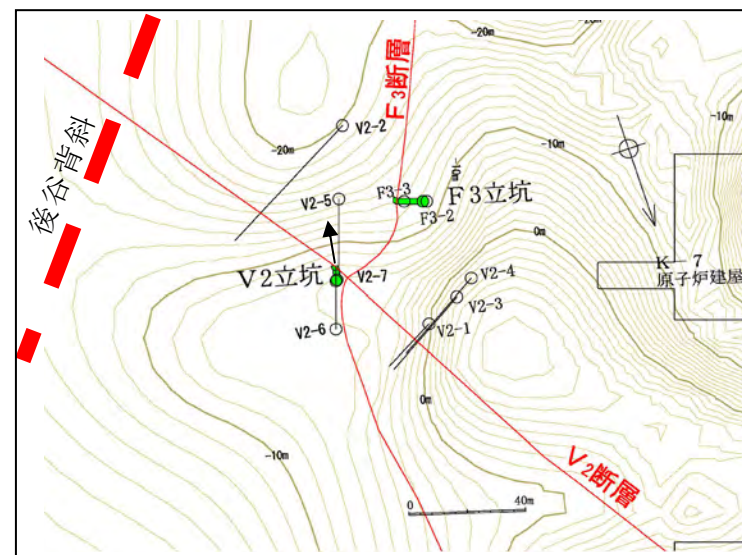
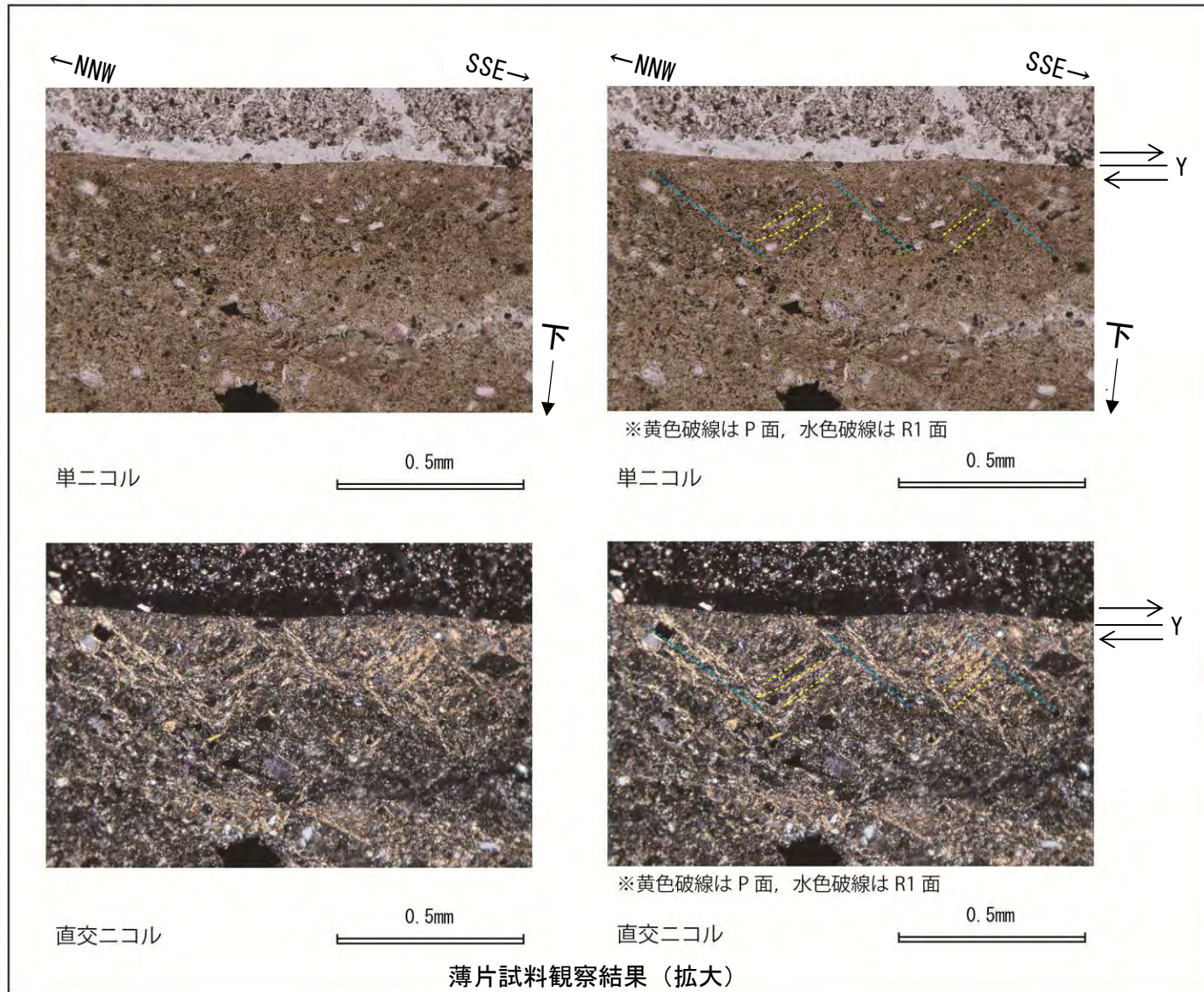
研磨片試料観察結果

低角度②-2（低角度断層②研磨片）の分析結果
 ○断層面に直交かつ、条線に平行な研磨片を作製した。
 ○研磨片では、低角度断層②付近に複合面構造が確認されないため、変位センスは不明である。

低角度断層の性状分析（6）

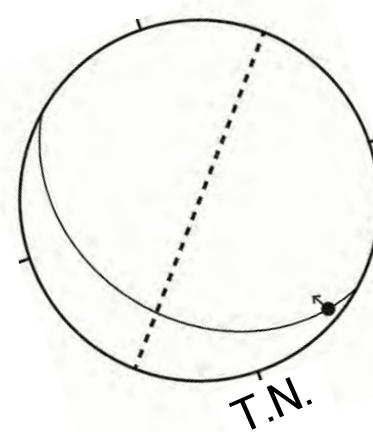


赤枠内の拡大



V2立坑付近の西山層上限面の最大傾斜方向

V2立坑位置図



----- : 後谷背斜軸の方向

← : 断層上盤側の変位方向

低角度②-2の断層面の走向・傾斜と変位センス
(シュミットネット 下半球投影)

低角度②-2（低角度断層②薄片）の分析結果

○断層面に直交、かつ条線に平行な薄片を作製した。

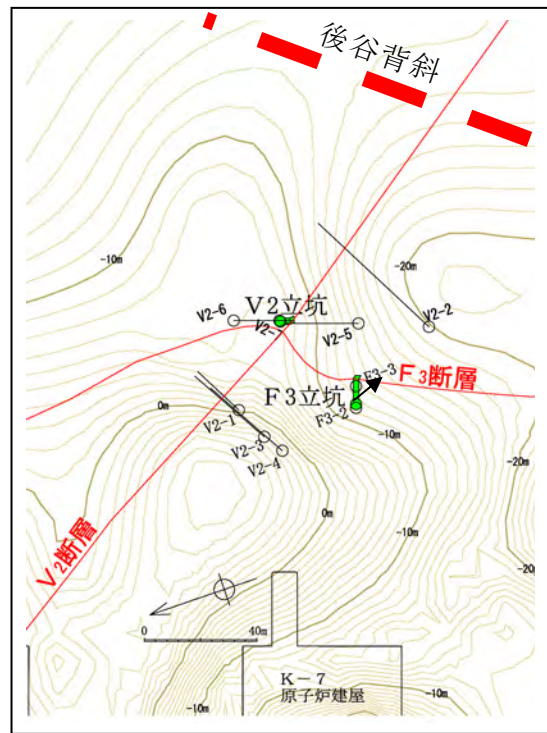
○低角度断層②粘土部に認められるSSE下がり及びNNW下がり粘土鉱物の配列は、それぞれR1面及びP面と判断され、断層面との配置から上盤側がSSE方向へ向かう変位が推定される。

F 3 立坑

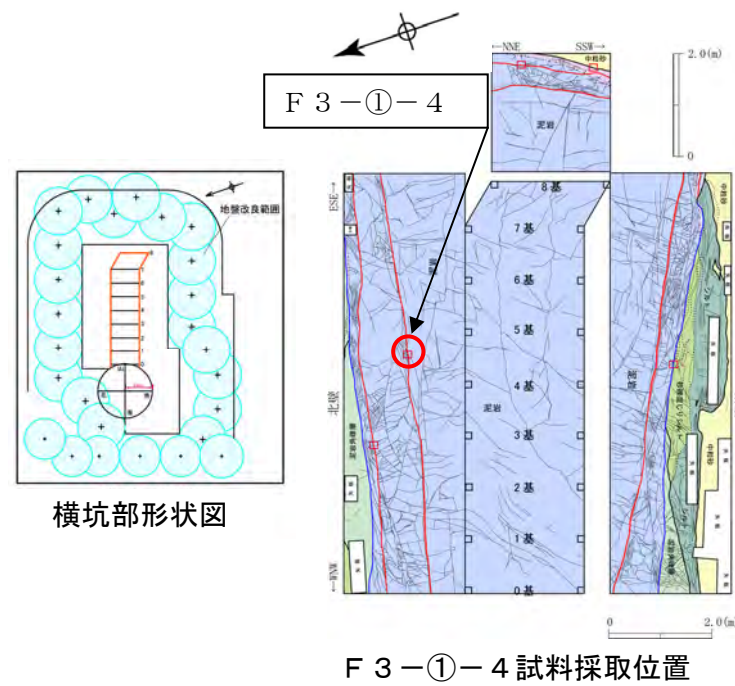
F₃断層の運動像の分析 (6)

分析目的及び内容 (F3-①-4)

- 目的：F₃断層①の条線等の詳細分析
- 分析内容：横坑壁面詳細観察，定方位試料採取，CT画像分析，条線観察，研磨片・薄片観察

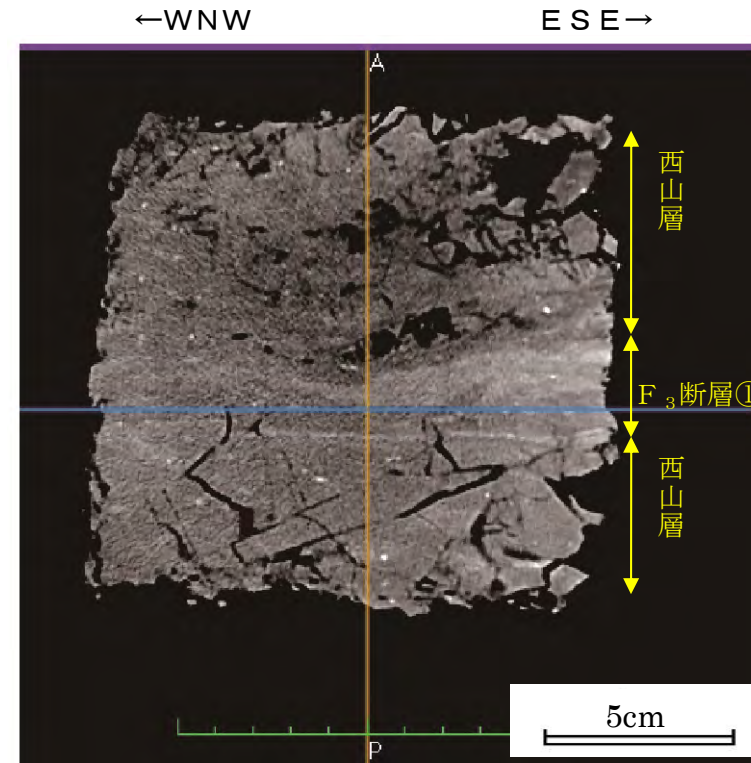


↗ F3立坑付近の西山層上限面の最大傾斜方向
F3立坑位置図

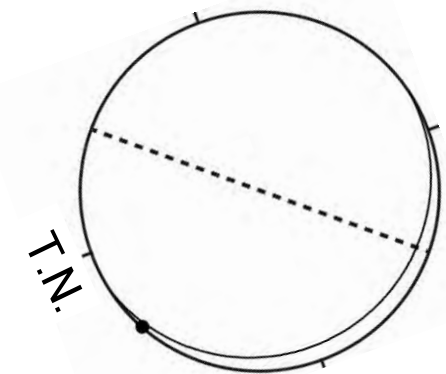


横坑部形状図

F3-①-4試料採取位置

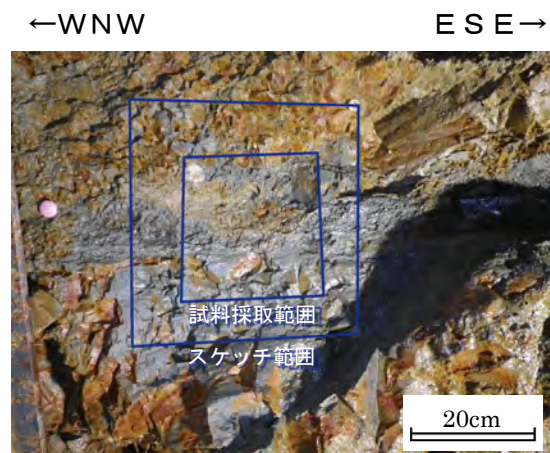


F3-①-4 CTスキャン画像(スケッチ面の画像)

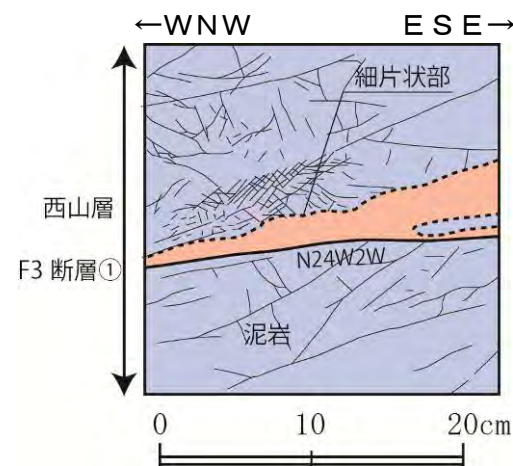


----- : 後谷背斜軸の方向
※F3立坑付近のF₃断層の全体的な走向傾斜はN14W9Wである。

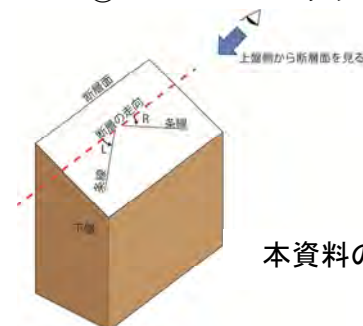
F₃断層の走向・傾斜と
F3-①-4のF₃断層①の条線方向
(シュミットネット 下半球投影)



F3-①-4試料採取面写真



F3-①-4試料採取面スケッチ



本資料のレイク角の表示方法



F₃断層①の条線 (黄色矢印方向)

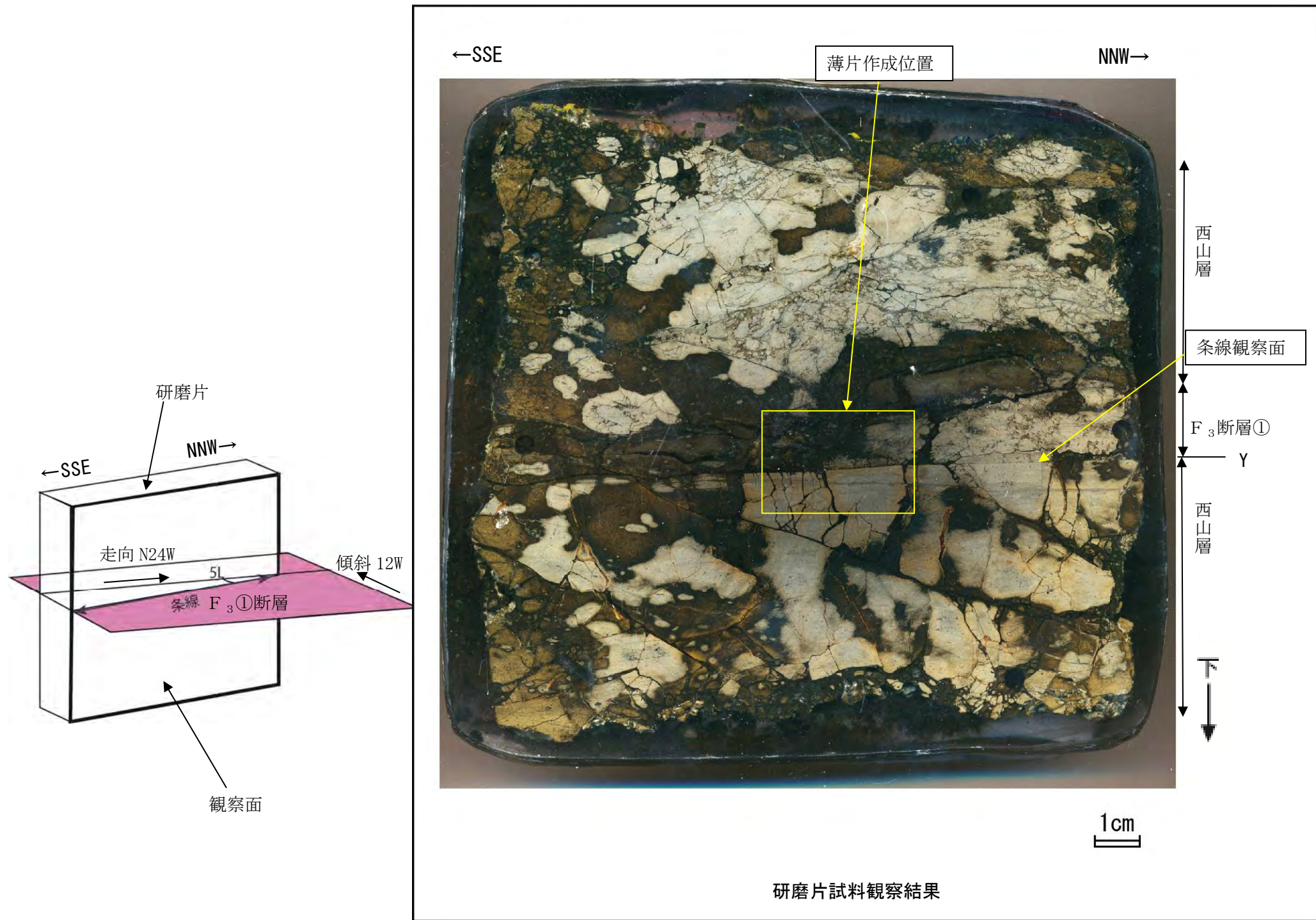
断層面の走向・傾斜：N24W2W

条線のレイク角：5L (上盤側から下盤側を見る)

※F3立坑付近のF₃断層の全体的な走向傾斜はN14W9Wである。

F₃断層① (F3-①-4) の分析結果
○横坑壁面では、F₃断層①は幅0.5mmの粘土と幅1~3cmの細片状部を伴う平滑な面が分布する。
○ブロック試料のCT画像では、F₃断層①は粘土部及び細片状部の密度がやや高い薄層として認められる。
○条線は不明瞭であるものの、NNW-SSE方向を示し、後谷背斜の背斜軸に高角度で交差する関係にある。

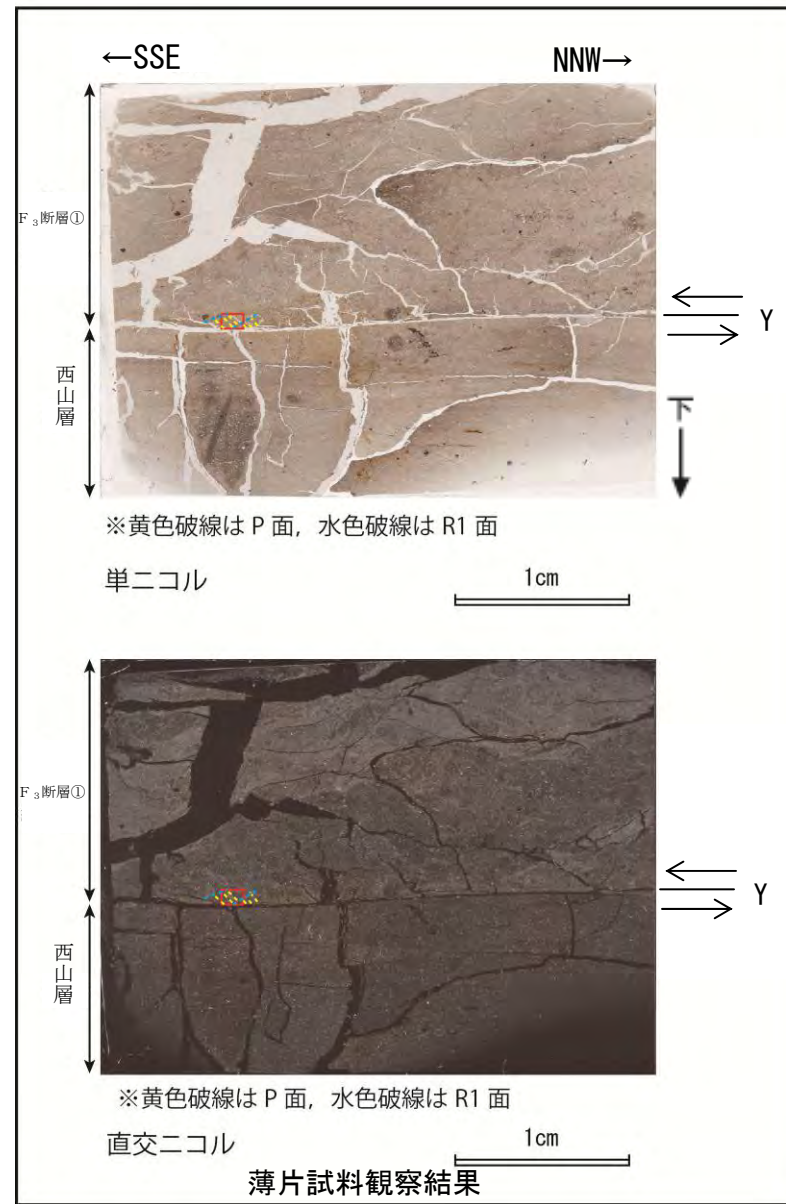
F₃断層の運動像の分析 (7)



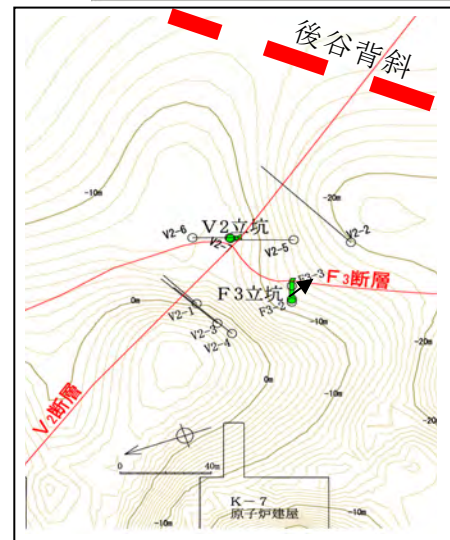
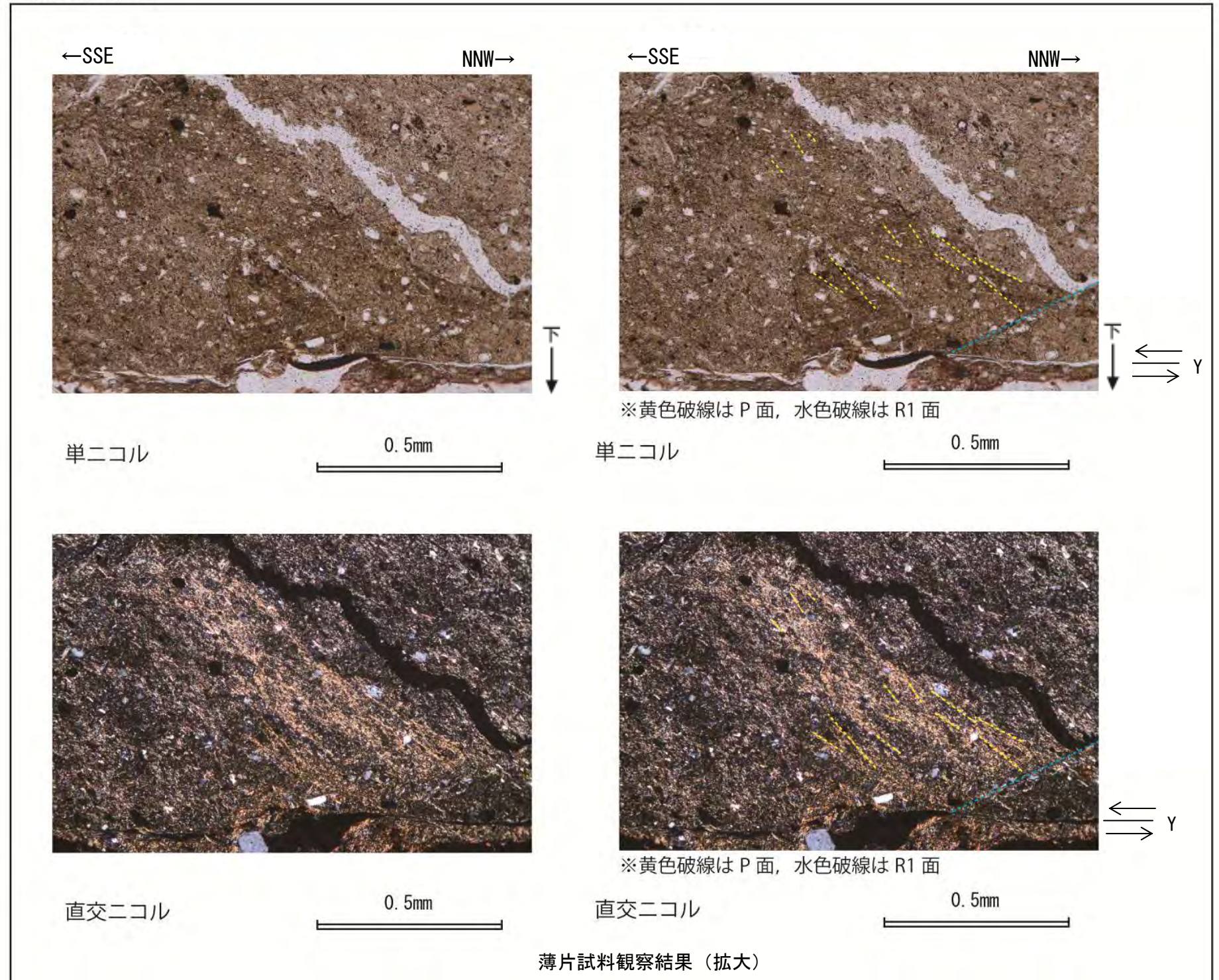
研磨片試料観察結果

F₃-①-4 分析結果
 (F₃断層①の研磨片観察結果)
 ○断層面に直交、かつ条線に平行な研磨片を作製した。
 ○研磨片では、F₃断層①付近に複合面構造が確認されないため、変位センスは不明である。

F₃断層の運動像の分析 (8)

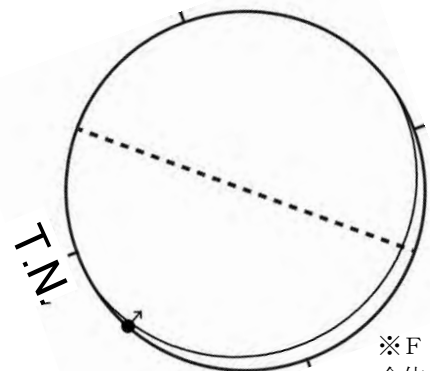


赤枠内の拡大



↗ F₃立坑付近の西山層上限面の最大傾斜方向

F₃立坑位置図



※F₃立坑付近のF₃断層の全体的な走向傾斜はN14W9Wである。

- : 後谷背斜軸の方向
- ← : F₃断層①上盤側の変位センス
- F₃断層の走向・傾斜とF₃-①-4のF₃断層①の変位センス (シュミットネット 下半球投影)

F₃-①-4分析結果 (F₃断層①の研磨片観察結果)

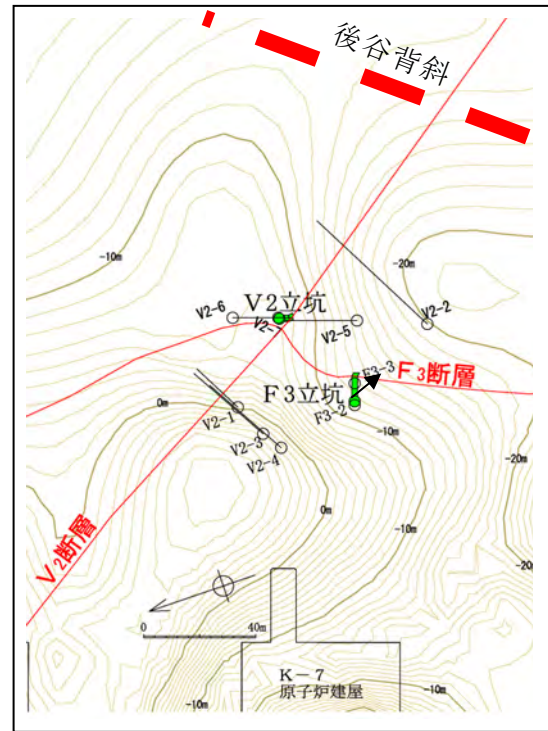
- 断層面に直交, かつ条線に平行な薄片を作製した。
- F₃断層①粘土部に認められる NNW 下がりの粘土鉱物の配列及びこの構造を切る SSE 下がりのせん断断面は, それぞれP面, R1面と判断され, 断層面との配置から上盤側が SSE 方向へ向かう変位が推定される。

F₃断層の運動像の分析 (9)

目的及び内容 (F3-②-2)

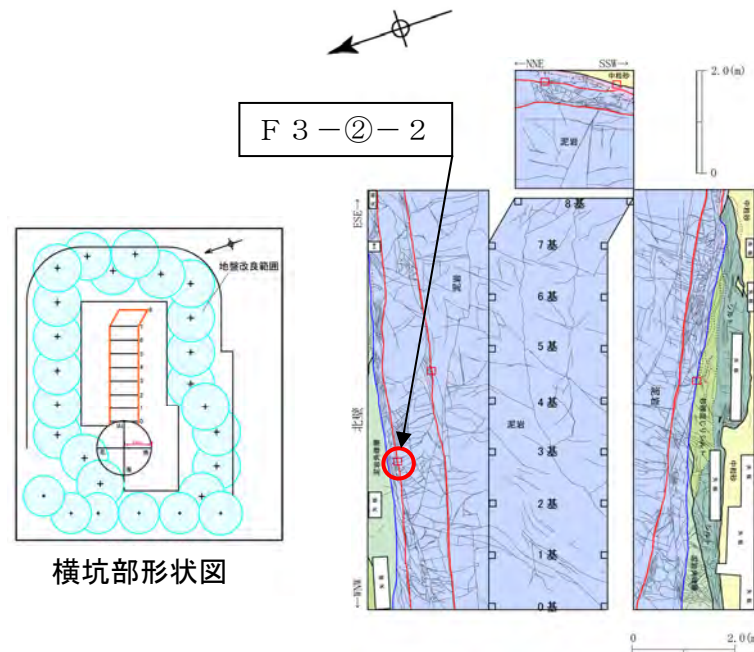
○目的：F₃断層②の条線等の詳細分析

○分析内容：横坑壁面詳細観察，定方位試料採取，CT画像分析，条線観察

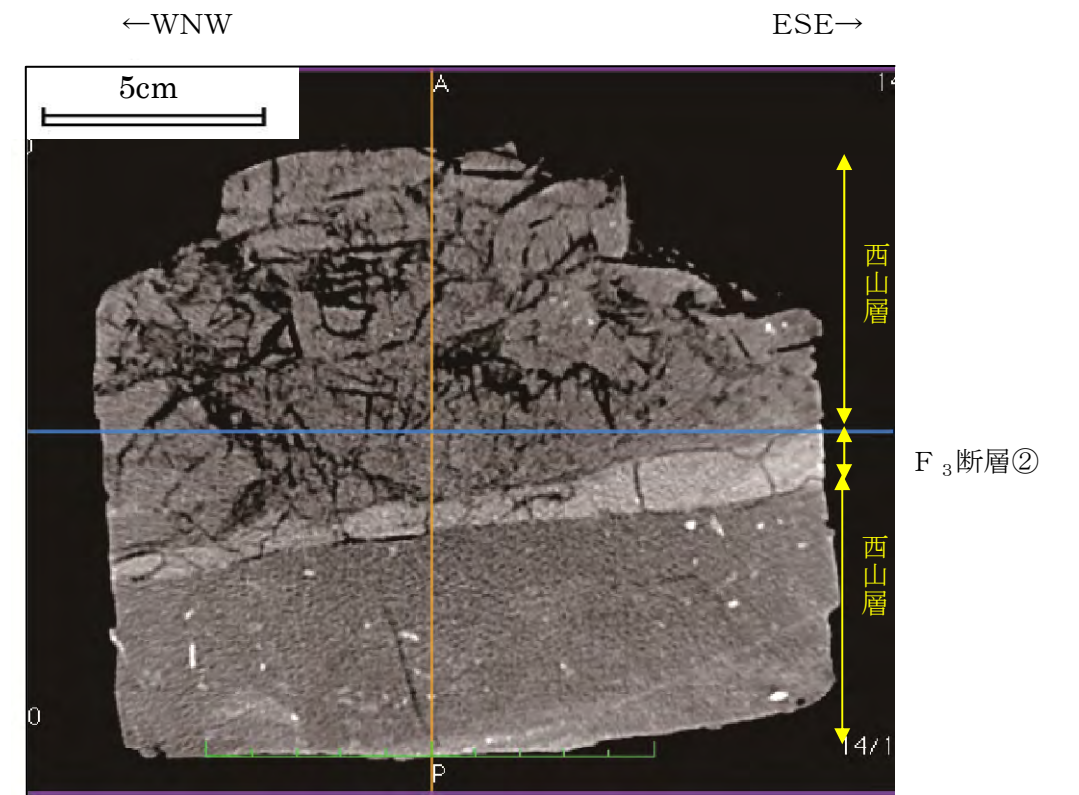


↗ F3立坑付近の西山層上限面の最大傾斜方向

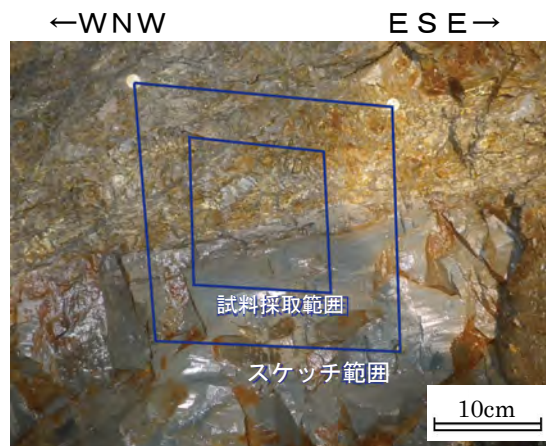
F3立坑位置図



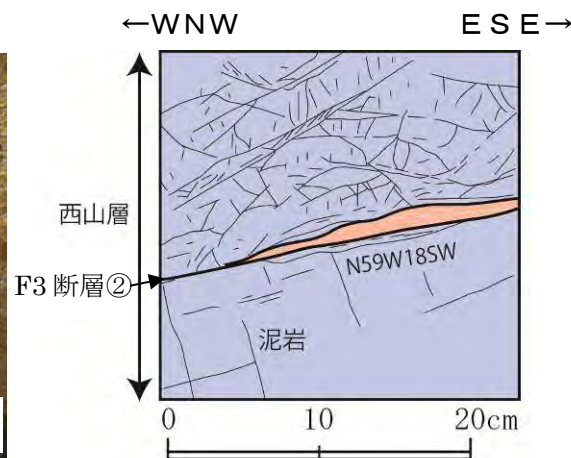
F3-②-2 試料採取位置図



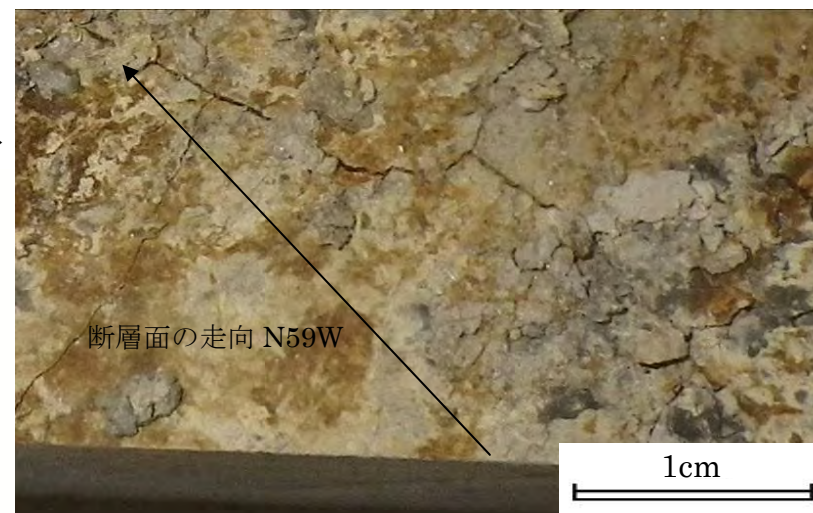
F3-②-2 CTスキャン画像 (スケッチ面の画像)



F3-②-2 試料採取面写真



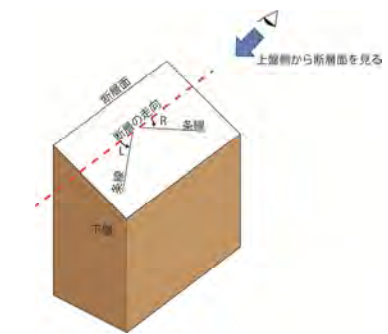
F3-②-2 試料採取面スケッチ



F₃断層②下面接写真

断層面の走向・傾斜：N59W18SW

断層面は平滑で鏡肌が認められるが，条線は確認されない。



本資料のレイク角の表示

F₃断層② (F3-②-2) の分析結果

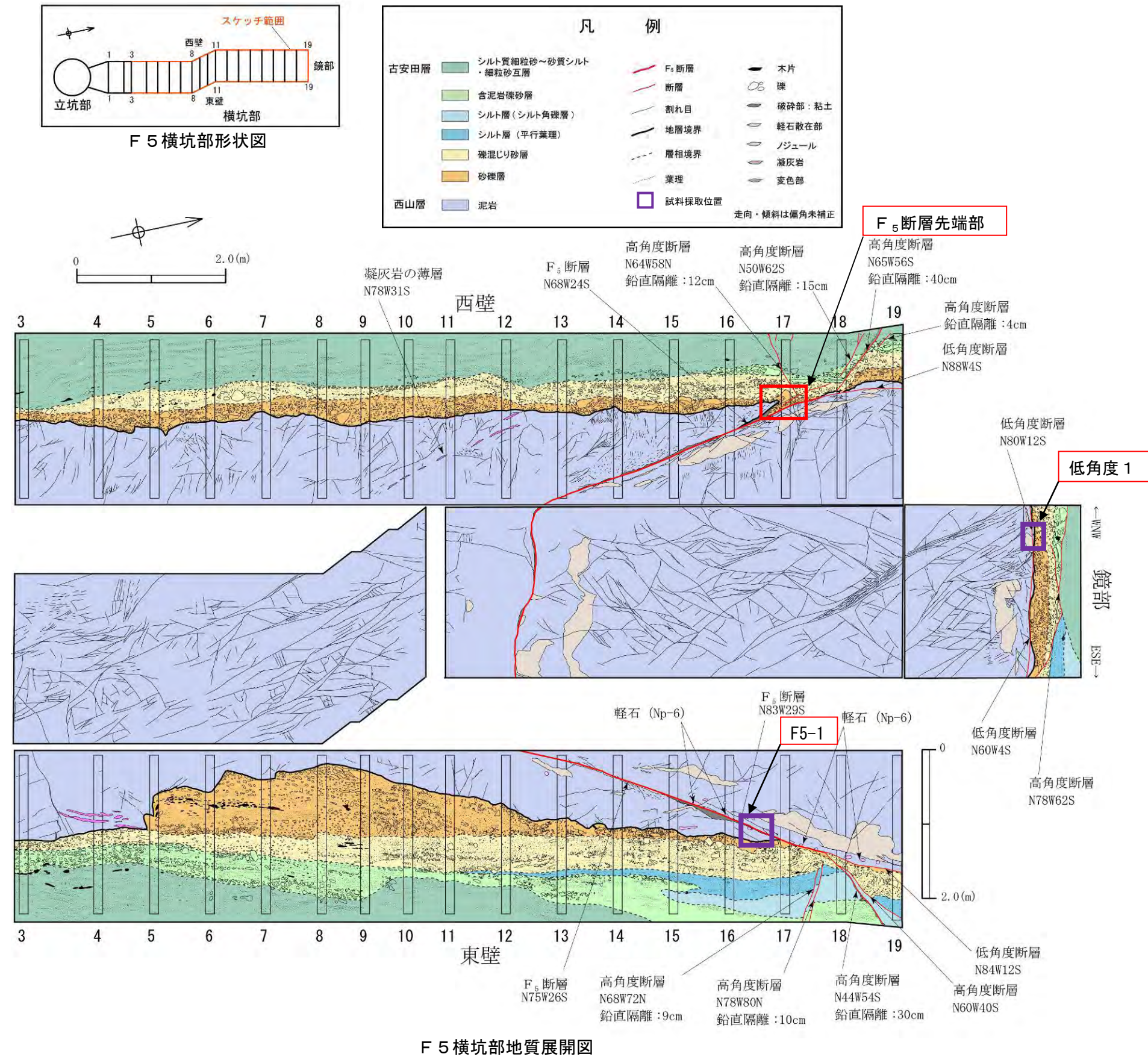
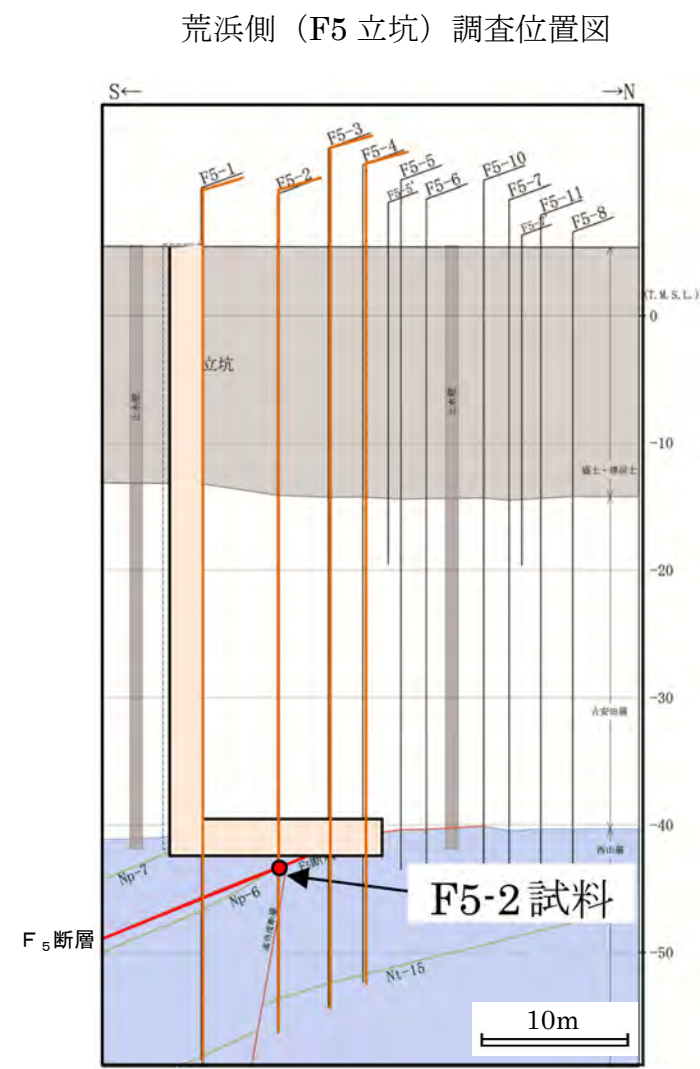
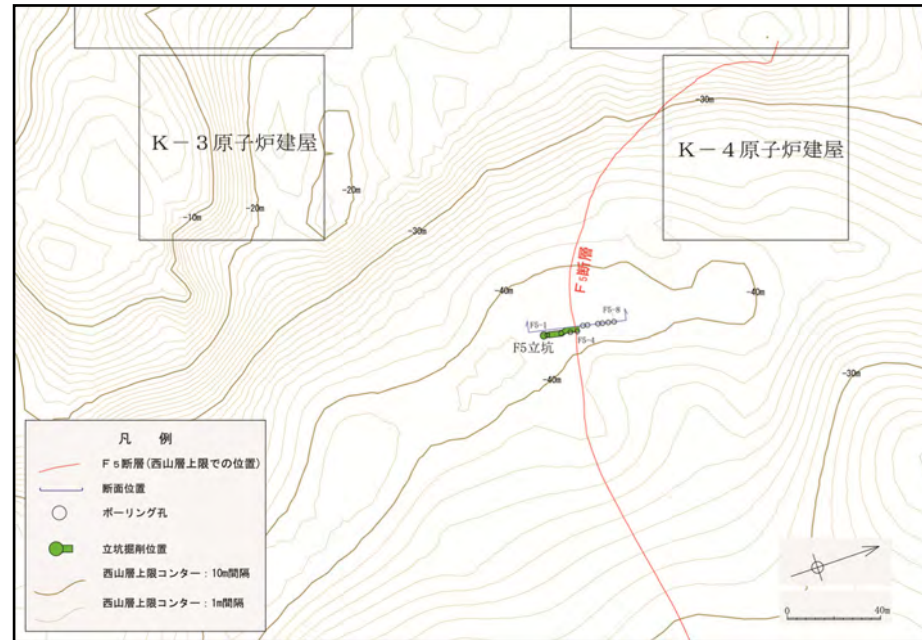
- 横坑壁面では，F₃断層②は幅0~3cmの粘土を伴う平滑な面からなる。
- ブロック試料のCT画像では，F₃断層②の粘土部は密度が高く，断層面は平滑である。
- 断層面には，鏡肌が認められるが，条線は確認されない。

F 5 立坑

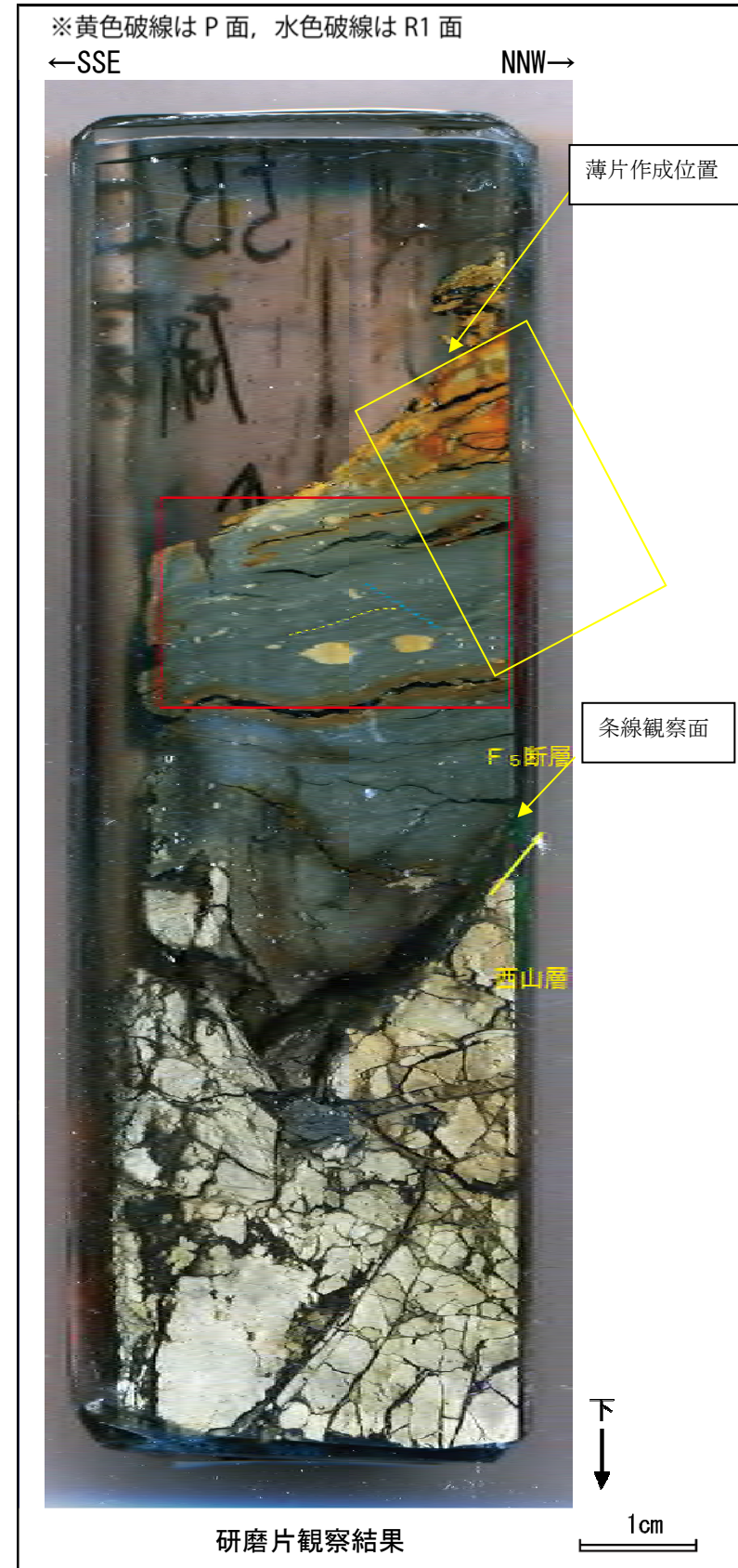
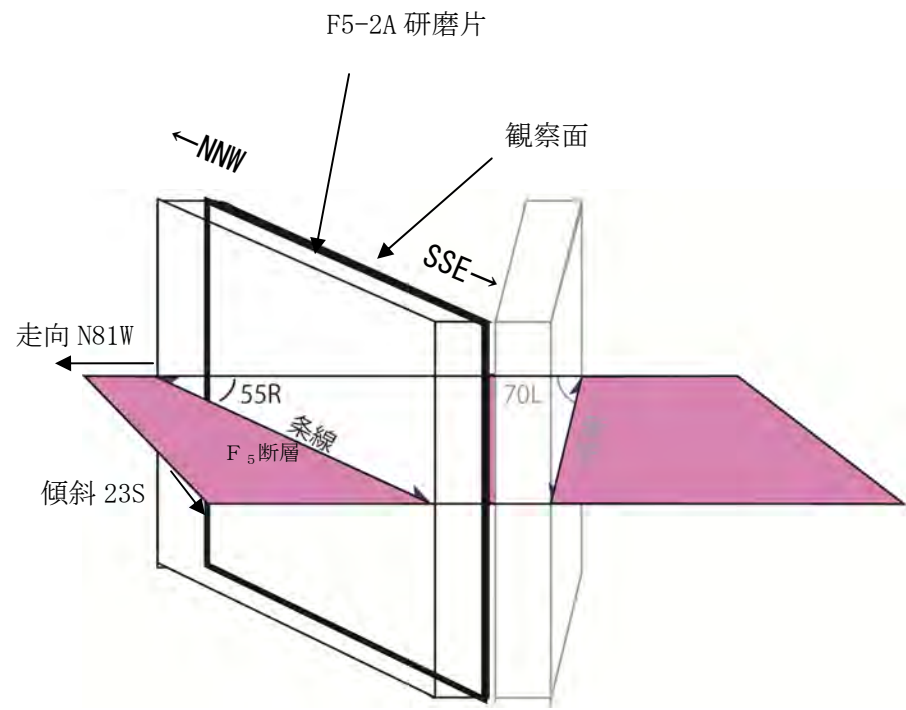
F₅断層と低角度断層の運動像の分析 (12)

F₅立坑の分析内容

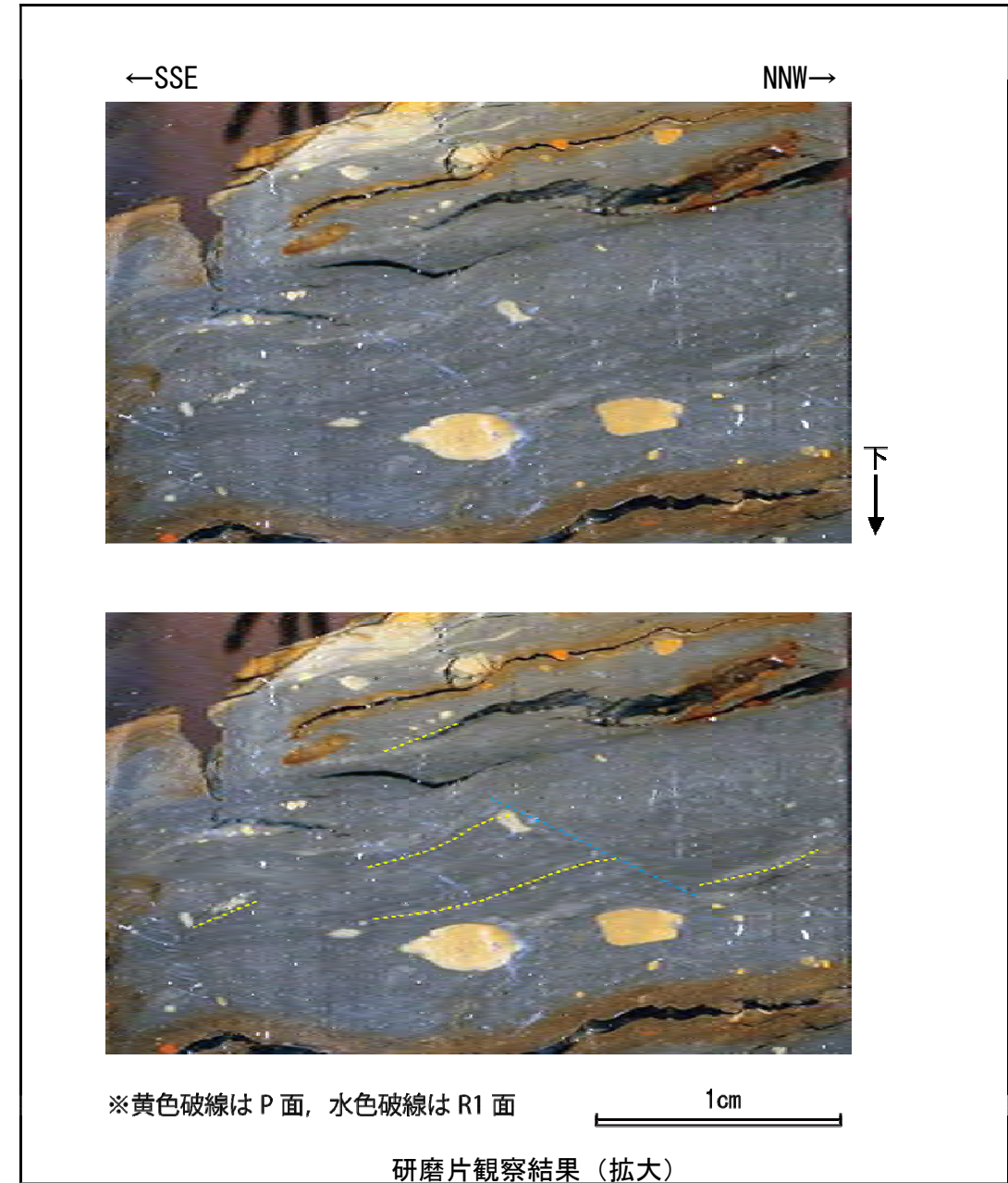
- ・ F₅断層と低角度断層の運動像の分析 (F5-1, F5-2, 低角度1)
- ・ F₅断層先端部の性状の分析 (詳細観察)



F₅断層と低角度断層の運動像の分析 (13)



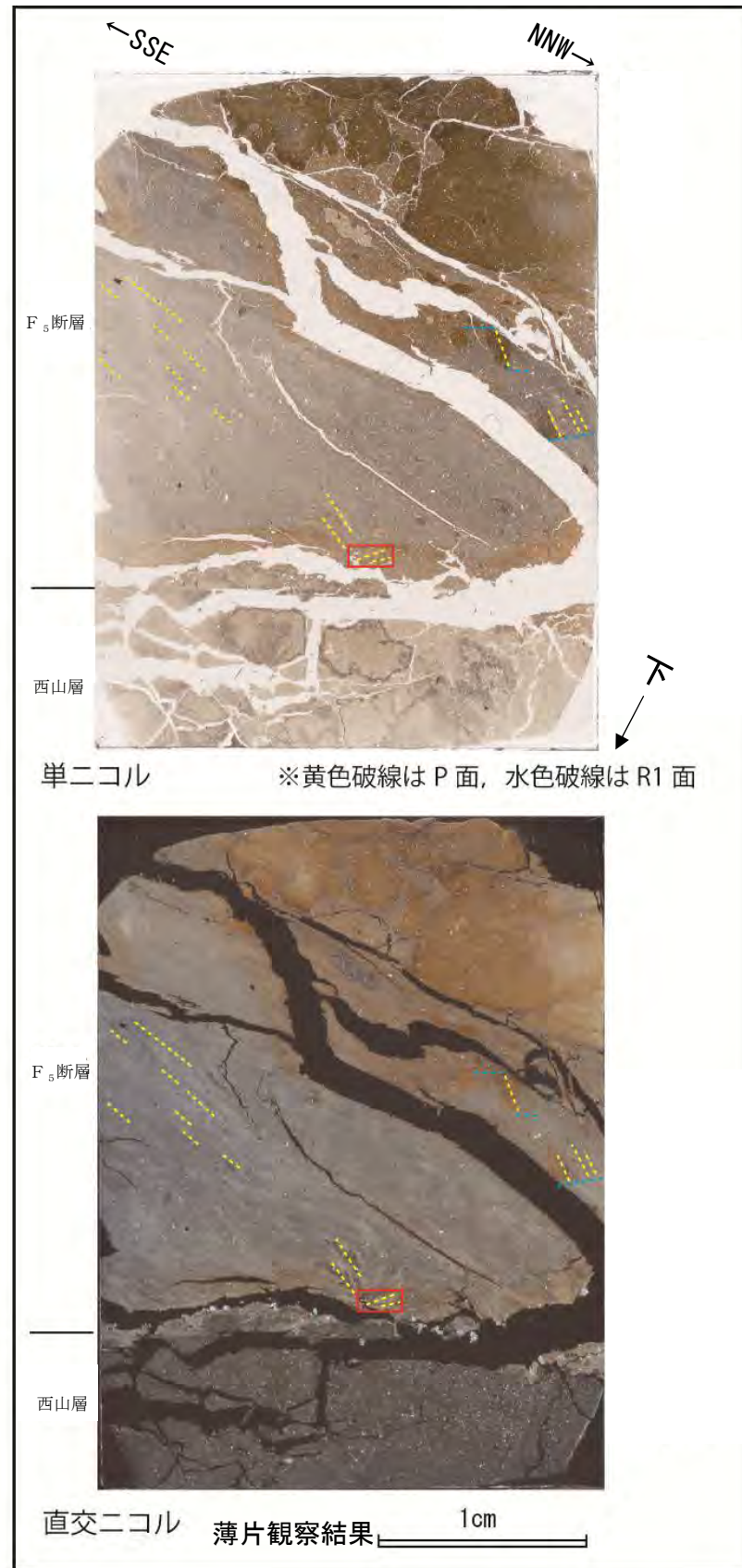
赤枠内の拡大



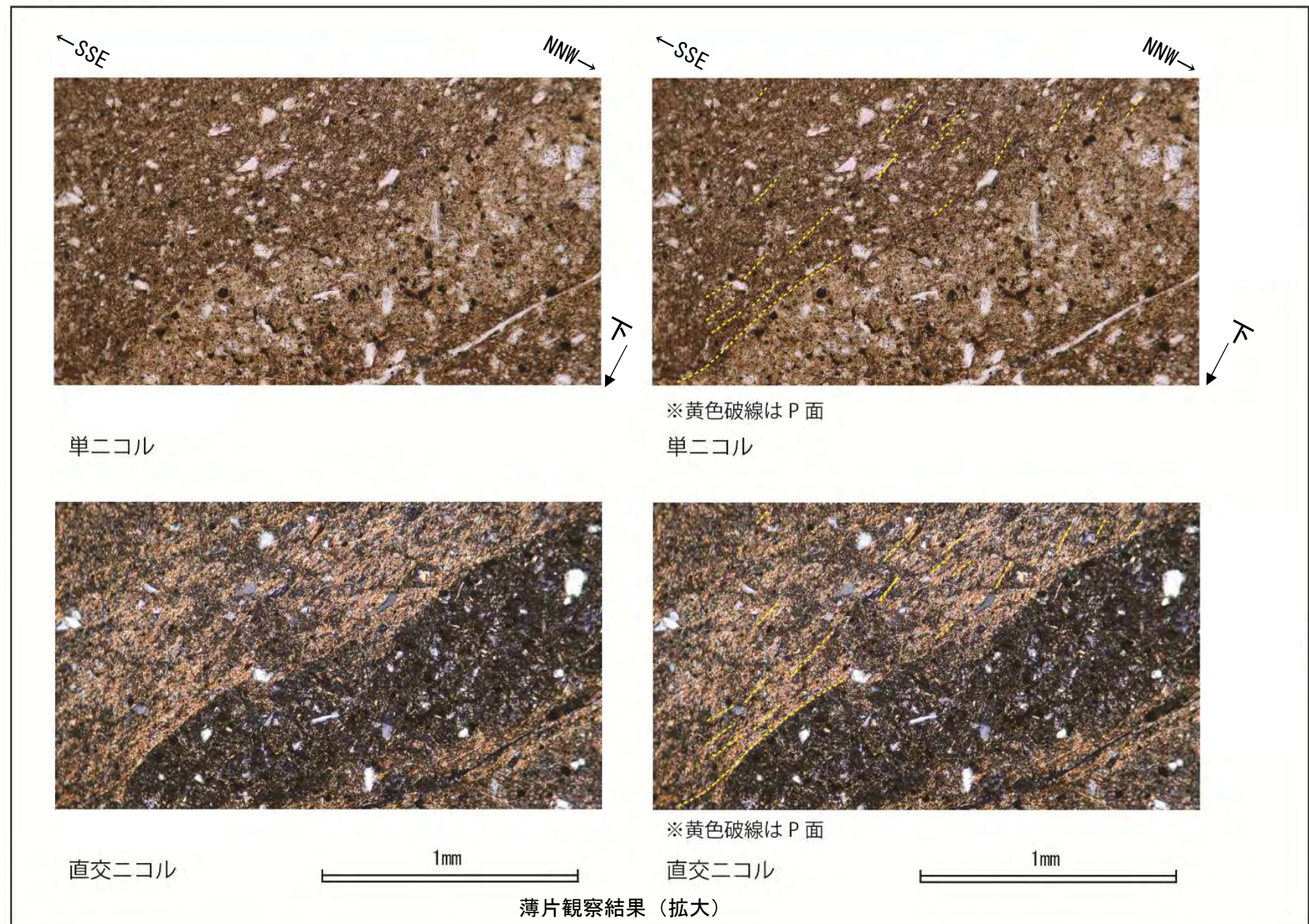
F5-2A (F₅断層研磨片) の分析結果

- 断層面に直交, かつ条線に平行な研磨片を作製した。
- F₅断層上部の粘土部に認められる SSE 下がりの灰色シルト薄層の配列及びこの構造を切る NNW 下がりのせん断面は, それぞれ P 面と R1 面と判断され, 断層面との配置から上盤側が NNW 方向へ向かう逆断層変位が推定される。

F₅断層と低角度断層の運動像の分析 (14)



赤枠内の拡大

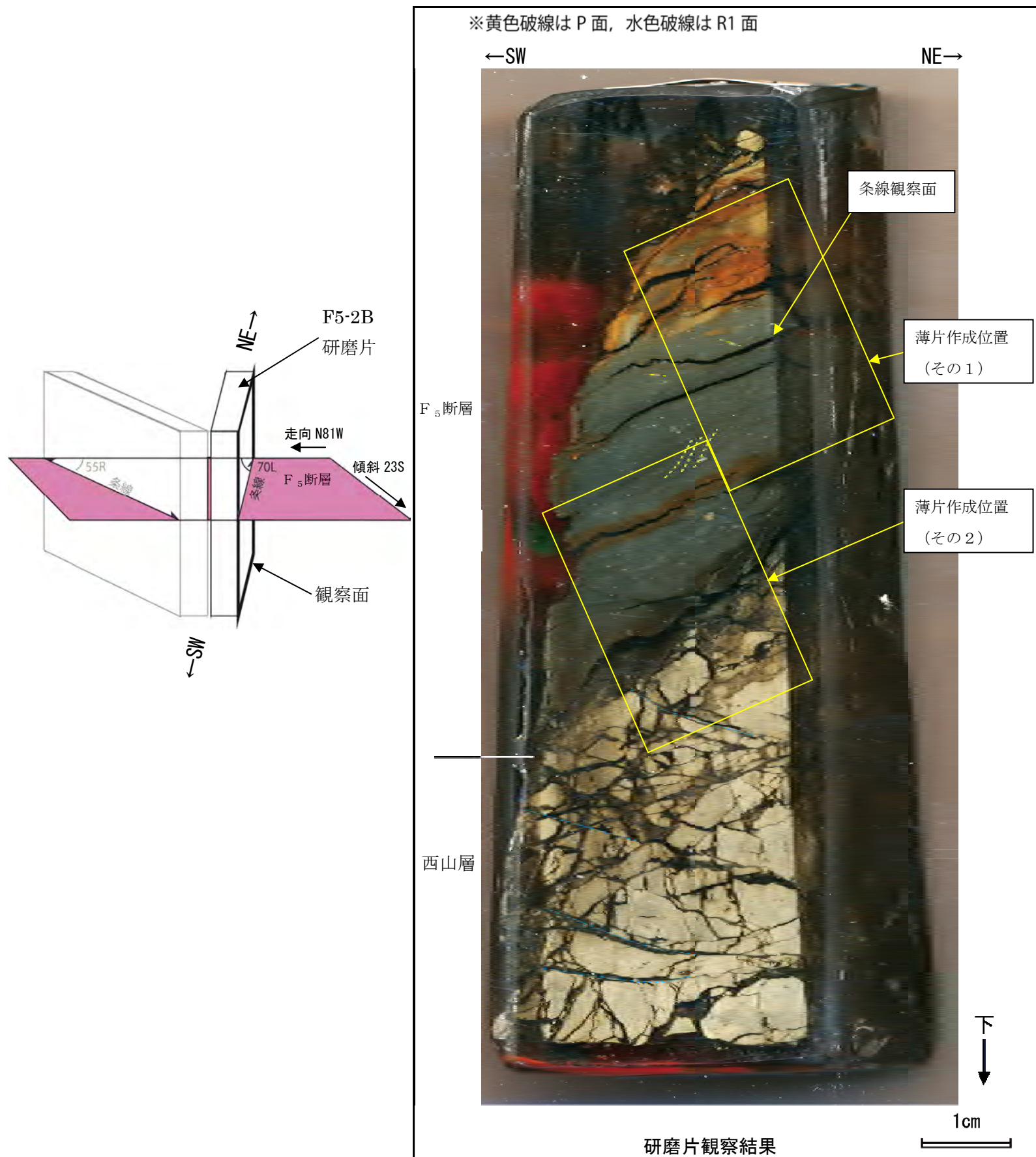


F5-2A (F₅断層薄片) の分析結果

○断層面に直交, かつ条線に平行な研磨片を作製した。

○F₅断層上部の粘土に認められる NNW 下りの粘土鉱物の配列及びこの構造を切る SSE 下りのせん断面は, それぞれ P 面及び R1 面と判断されるが, 断層面との対応がつかないため変位センスを推定できない。また, 粘土最下部に認められる SSE 下りの粘土鉱物の配列は P 面と判断され, 断層面との配置から, 上盤側が NNW 方向へ向かう逆断層変位が推定される。

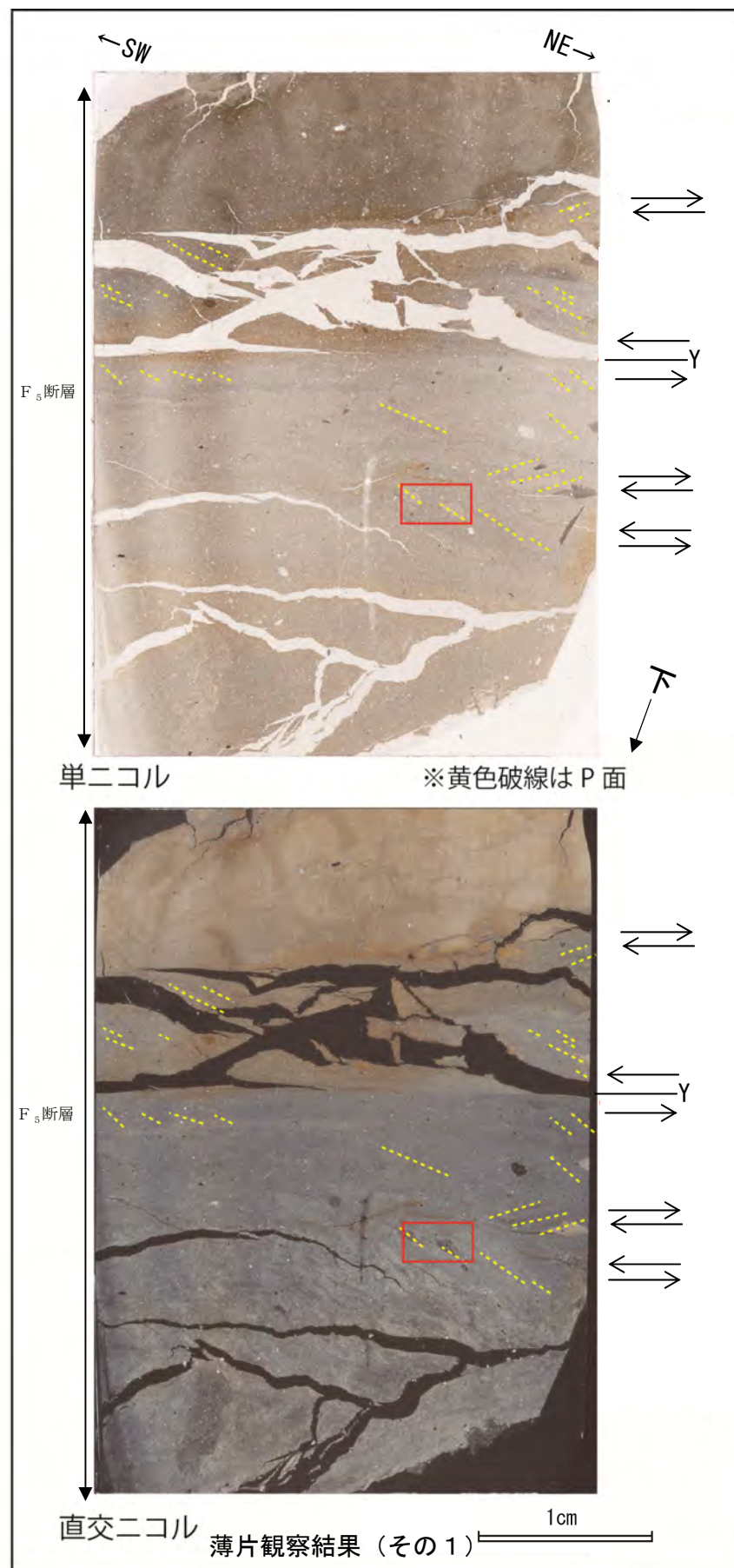
F₅断層と低角度断層の運動像の分析（15）



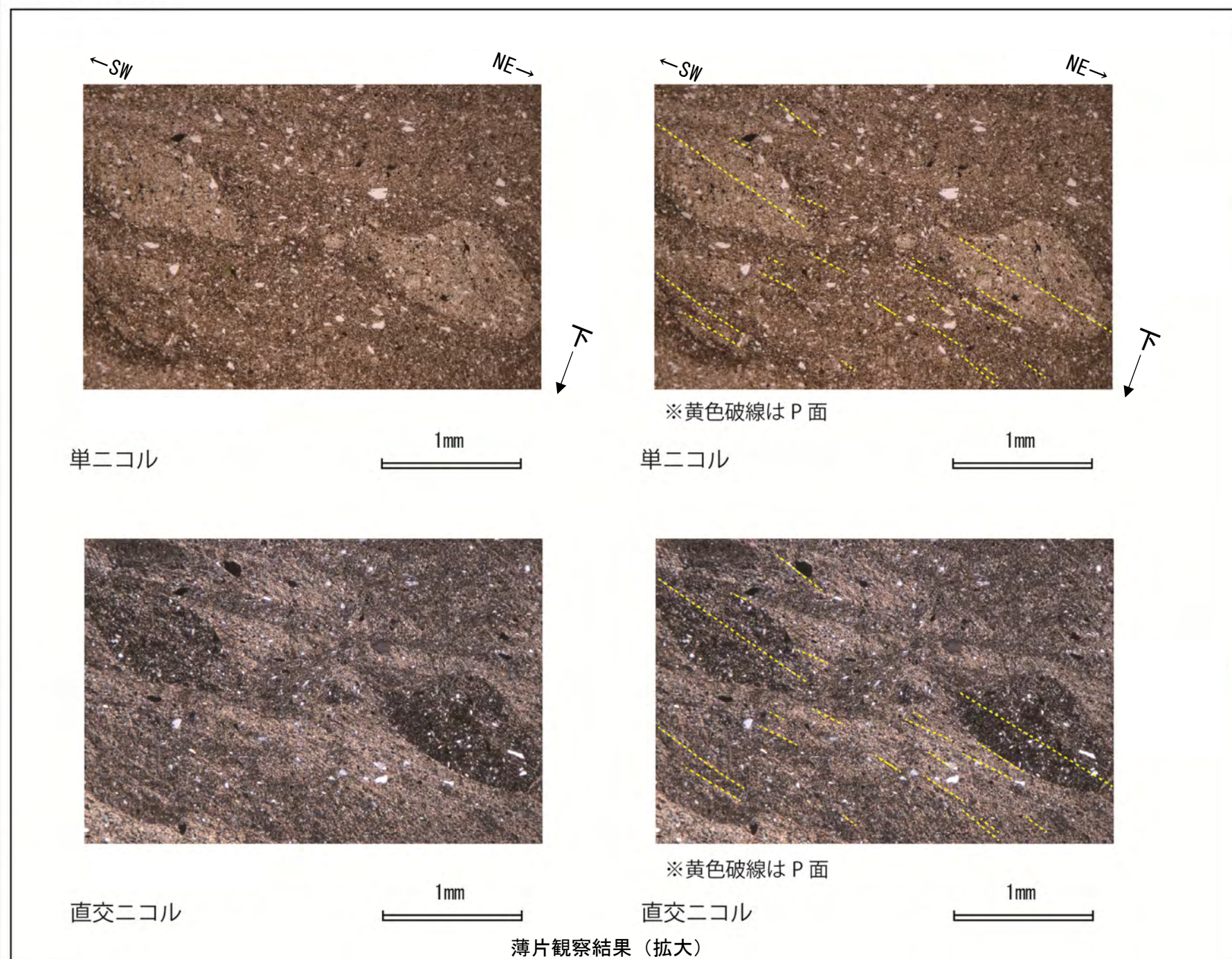
F5-2B (F₅断層の研磨片) の分析結果

- 断層面に直交, かつ条線に平行な薄片を作製した。
- F₅断層粘土上部に認められるNE下がりの細片の長軸方向の配列はP面と判断され, 断層面との配置から上盤側がSW方向へ向かう正断層変位が推定される。一方, 粘土の中部付近には, 不明瞭ながらSW下がりの砂粒の配列が認められ, 断層下盤の泥岩にはNE下がりのせん断面が認められる。これらはそれぞれP面, R1面と判断され, 断層面との配置から, 上盤側がNE方向へ向かう逆断層変位が推定される。

F₅断層と低角度断層の運動像の分析 (16)



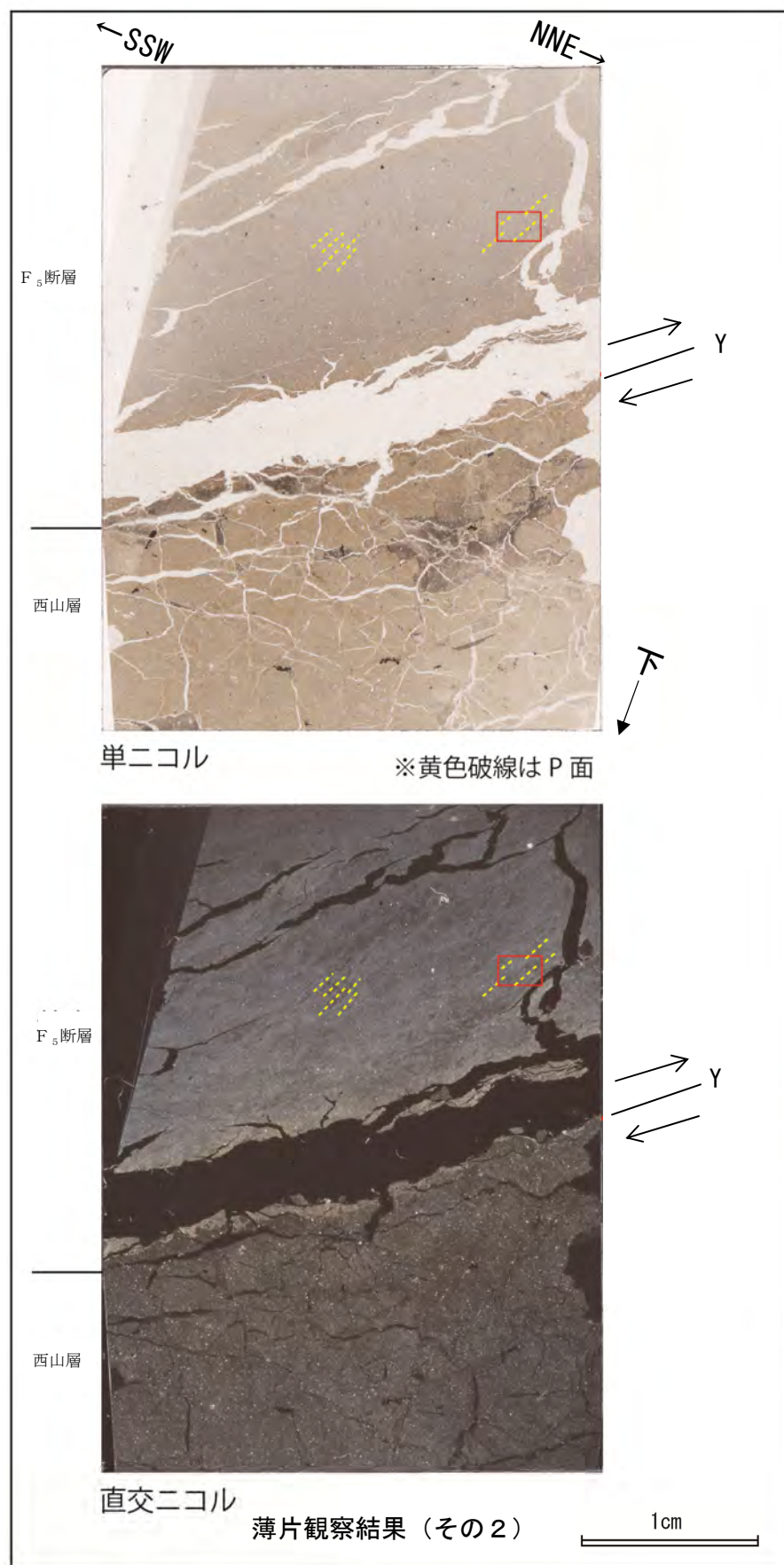
赤枠内の拡大



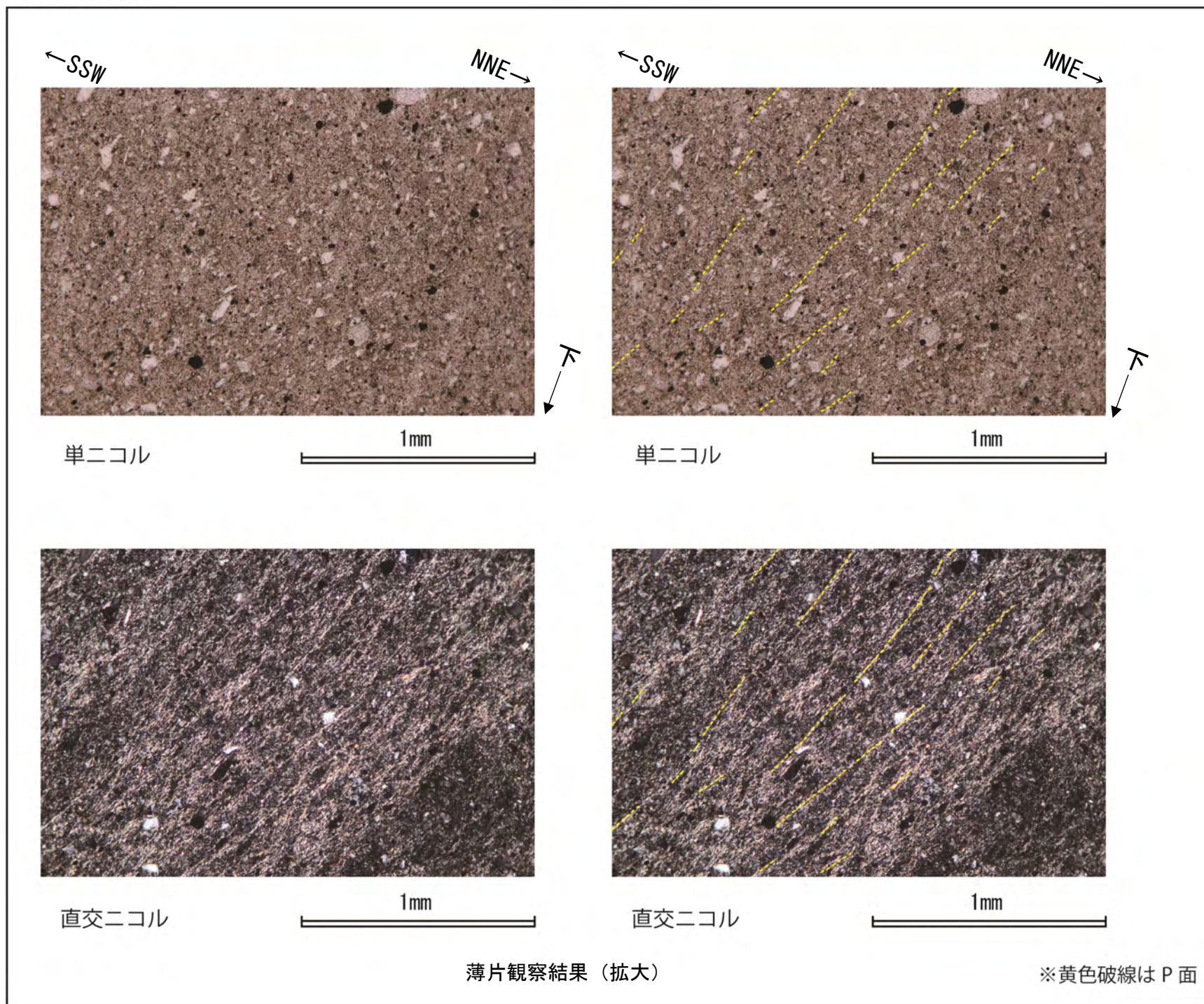
F5-2B (F₅断層薄片) の分析結果その1

- 断層面に直交、かつ条線に平行な薄片を作製した。
- F₅断層粘土部には、薄片の中央のY面付近に認められるNE下がりの粘土鉱物の配列はP面と判断され、断層面との配置から、上盤側がSW方向へ向かう正断層変位が推定される。一方、薄片の上部と中部に認められるSW下がりの粘土鉱物の配列はP面と判断され、断層面との配置から上盤側がNE方向へ向かう逆断層変位が推定される。

F₅断層と低角度断層の運動像の分析 (17)



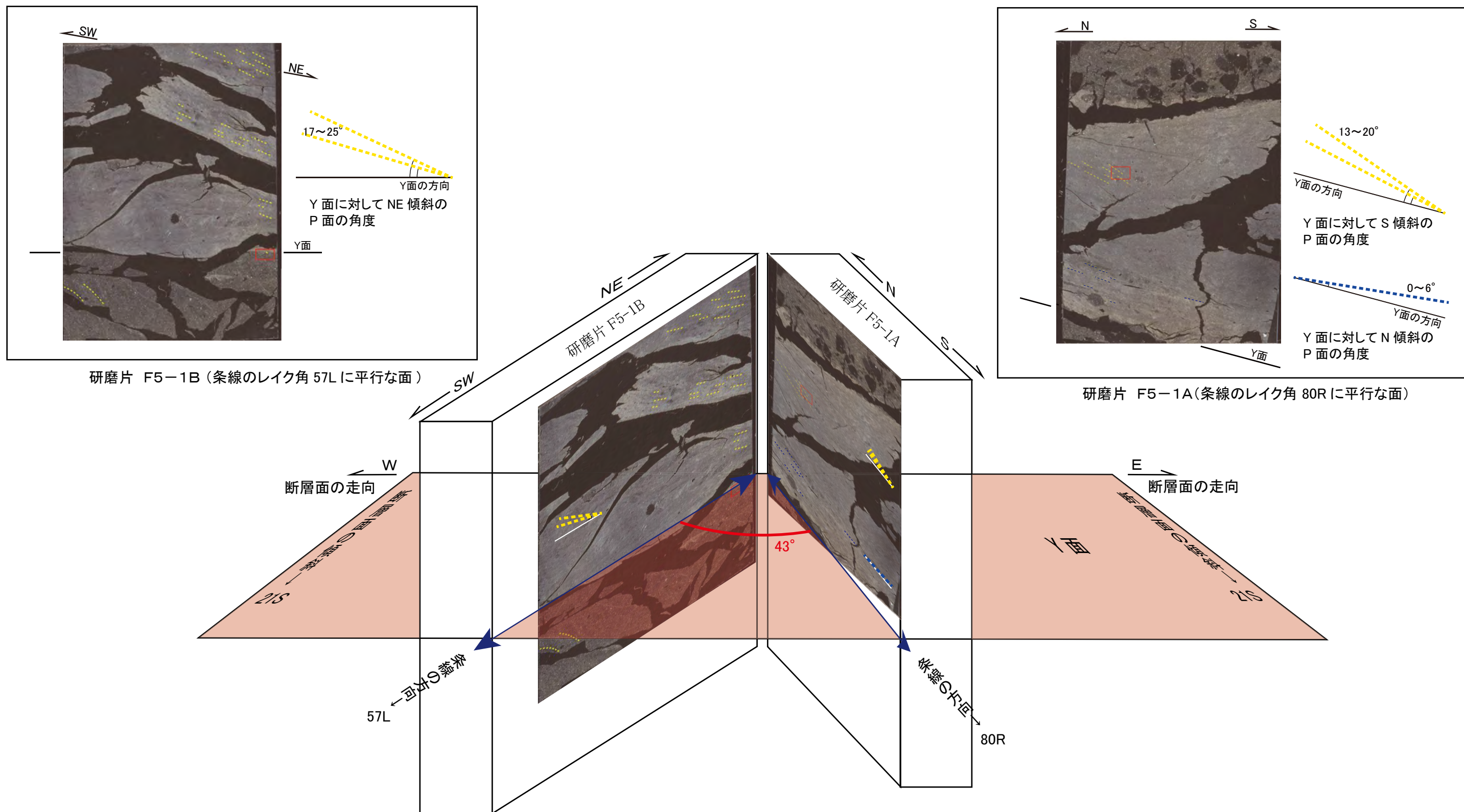
赤枠内の拡大



F5-2B (F₅断層薄片) の分析結果その2
 ○断層面に直交, かつ条線に平行な薄片を作製した。
 ○F₅断層粘土部に認められるSSW下がりの平行な粘土鉱物の配列はP面と判断され, 断層面との配置から, 上盤側がNNE方向へ向かう逆断層変位が推定される。

F₅断層と低角度断層の運動像の分析 (18)

F5-1 研磨片 (F5-1A, F5-1B)におけるP面の関係



研磨片 F5-1B (条線のレイク角 57L に平行な面)

研磨片 F5-1A (条線のレイク角 80R に平行な面)

Y面に対してNE～N方向に傾くP面について

F5-1B 切断面 (レイク角 57L) におけるY面に対してNE傾斜のP面の角度: 17～25°

F5-1B 切断面 (レイク角 57L) とF5-1A 切断面 (レイク角 80R) のY面上の交角: 43°

F5-1A 切断面 (レイク角 80R) におけるY面に対してN傾斜のP面の計算上の見かけの傾斜: 13～19°

F5-1A 切断面 (レイク角 80R) において認められるN傾斜のP面のY面に対する角度: 0～6°

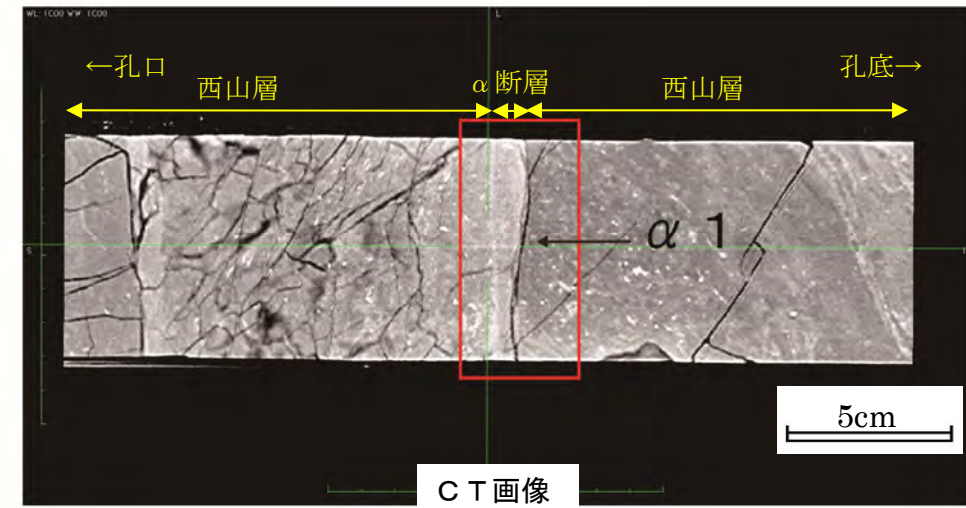
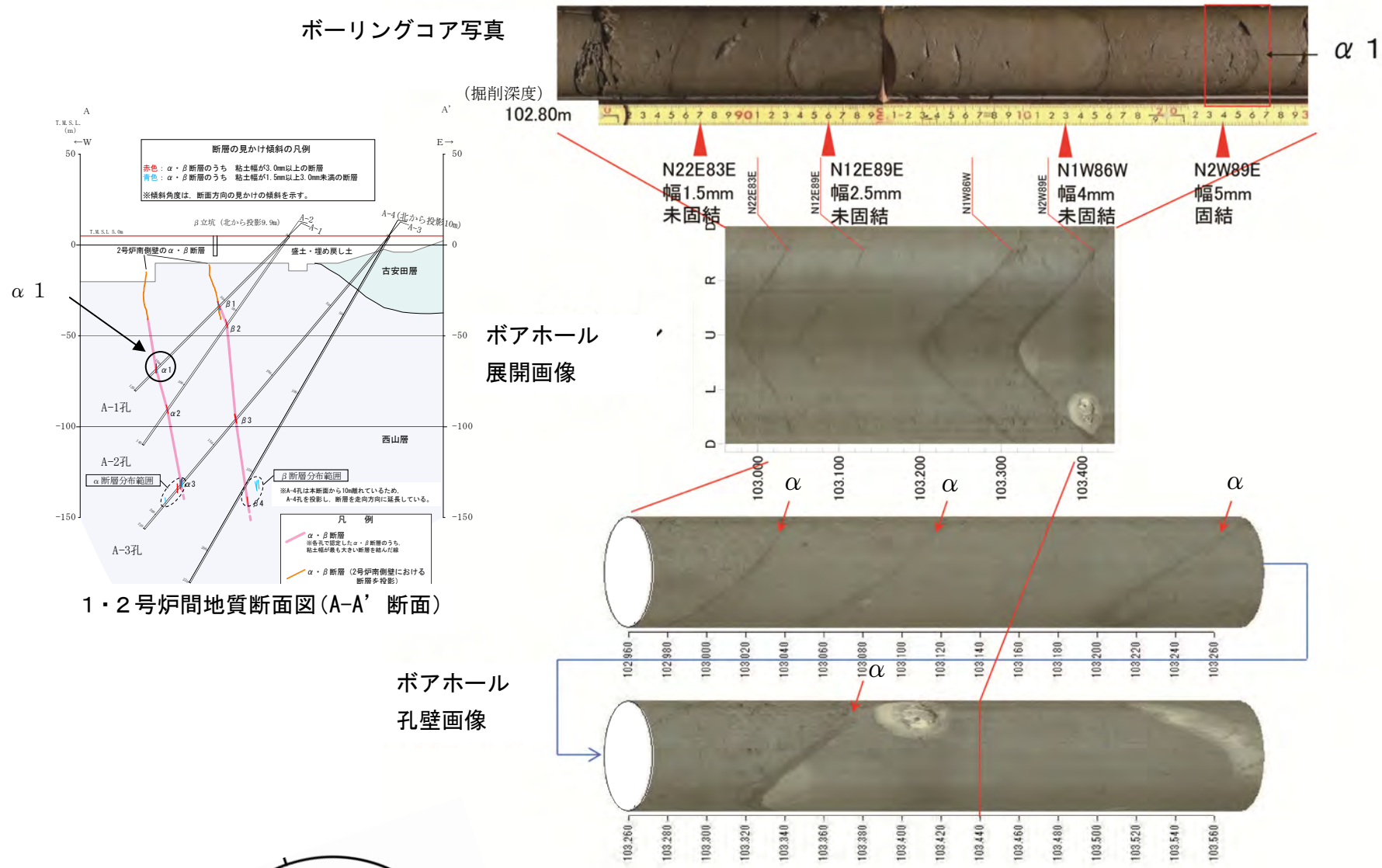
F5-1A 切断面とF5-1B 切断面に認められるN傾斜のP面は、計算上の見かけ傾斜と実測された傾斜がやや異なっているが、いずれもN方向に傾斜していること、P面はY面に近づくにつれてY面との交角が小さくなる場合があることから、同じ面構造を見ていると考えられる。

$\alpha \cdot \beta$ 断層

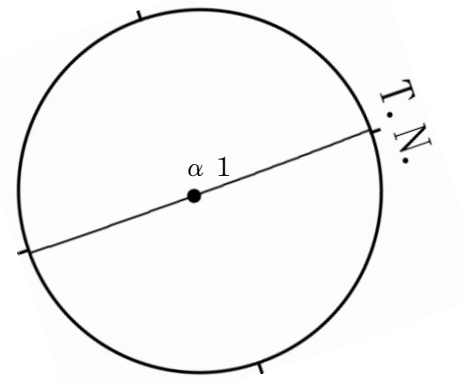
α 1 分析結果 (1)

○目的：A-1 孔における α 断層 (α 1) の条線等の詳細分析

○分析内容：ボーリングコア詳細観察, 定方位試料採取, CT画像分析, 条線観察, 研磨片・薄片観察



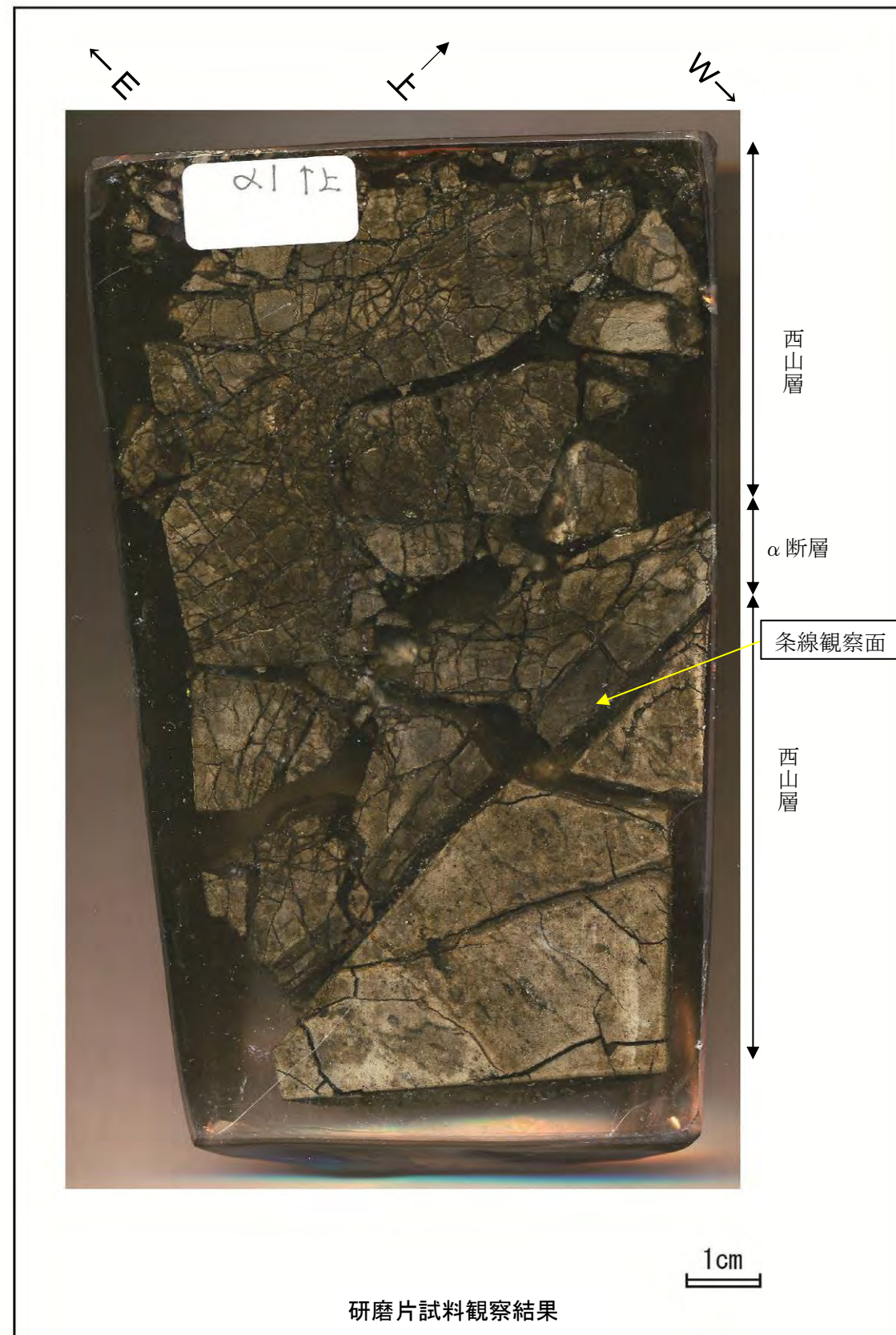
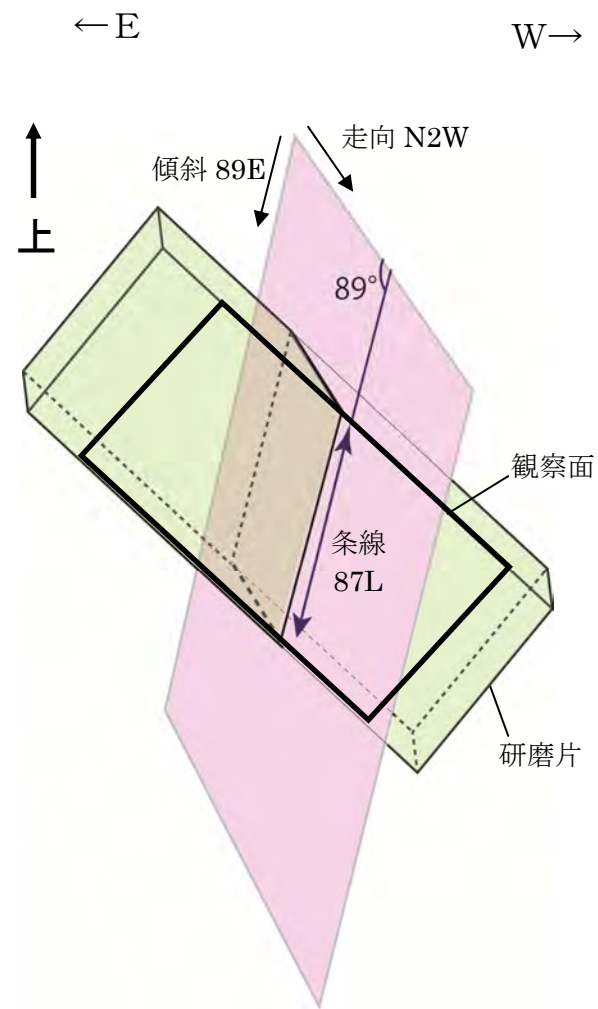
α 断層 (α 1) の条線 (黄色矢印方向)
 断層面の走向・傾斜：N2W89E
 条線のレイク角：87L (本面は下盤側から見ている)



α 1 の走向・傾斜と条線方向
 (シュミットネット 下半球投影)

α 1 詳細観察結果
 ○ボーリングコアでは、幅 5mm の固結した粘土からなり、断層の下面が平滑である。
 ○CT画像では、西山層よりやや明るい色調を呈し、密度がやや高い。断層下面は開口し、境界が明瞭である。
 ○α 断層粘土部の下面には、不明瞭な条線が分布する。条線の方法は、断層面の走向・傾斜 N2W89E に対してレイク角 87L である。

α 1 分析結果 (2)

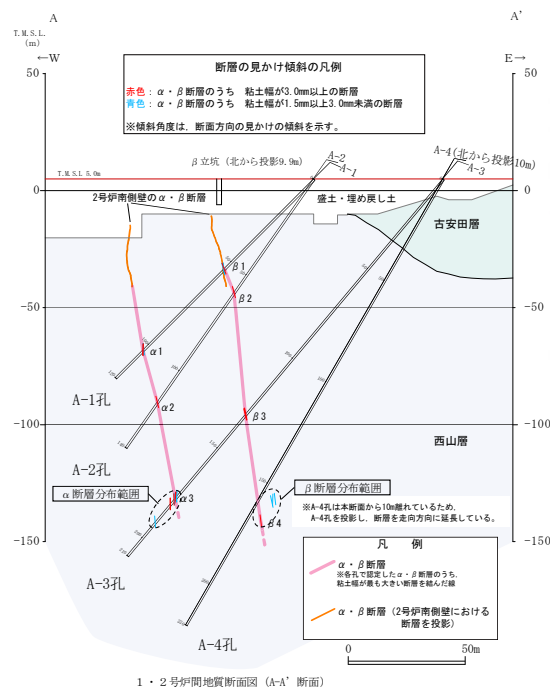


α 1 (A-1 孔研磨片) の分析結果
 ○断層面に直交、かつ条線に平行な研磨片を作製した。
 ○研磨片では、α断層沿いに複合面構造が確認されないため、変位センスは不明である。

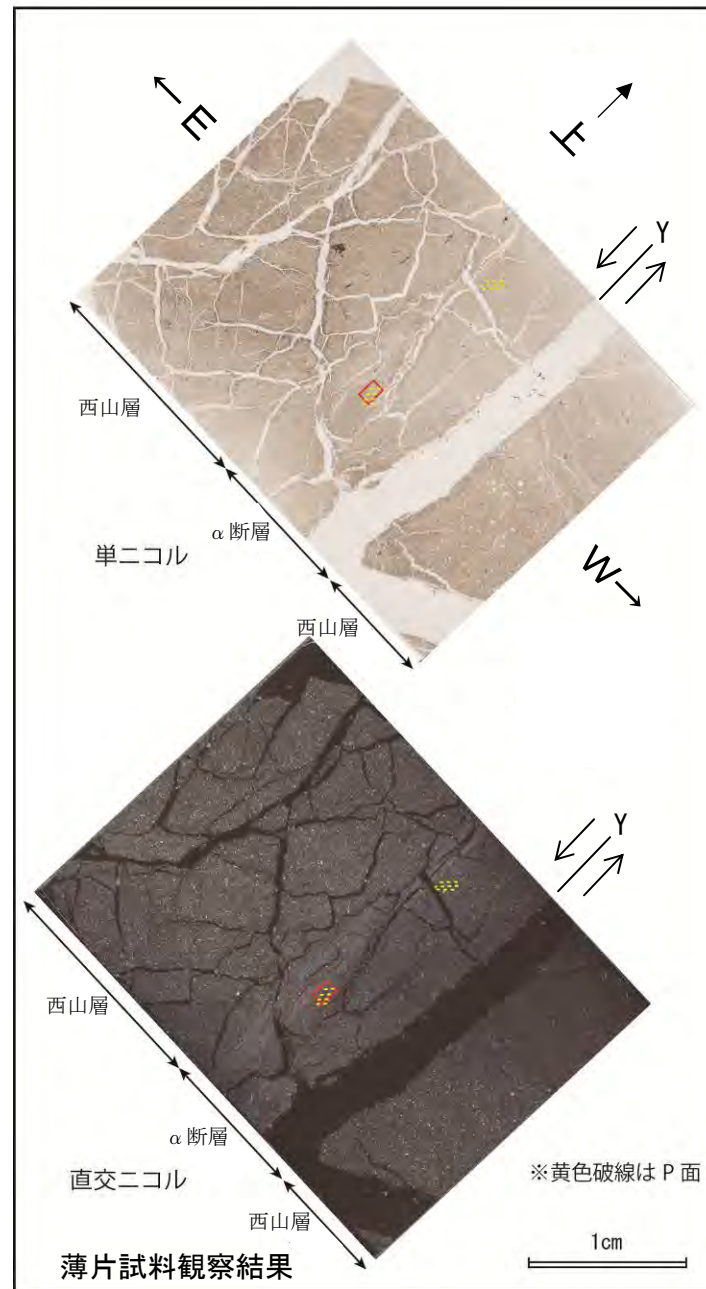
α 1 分析結果 (3)



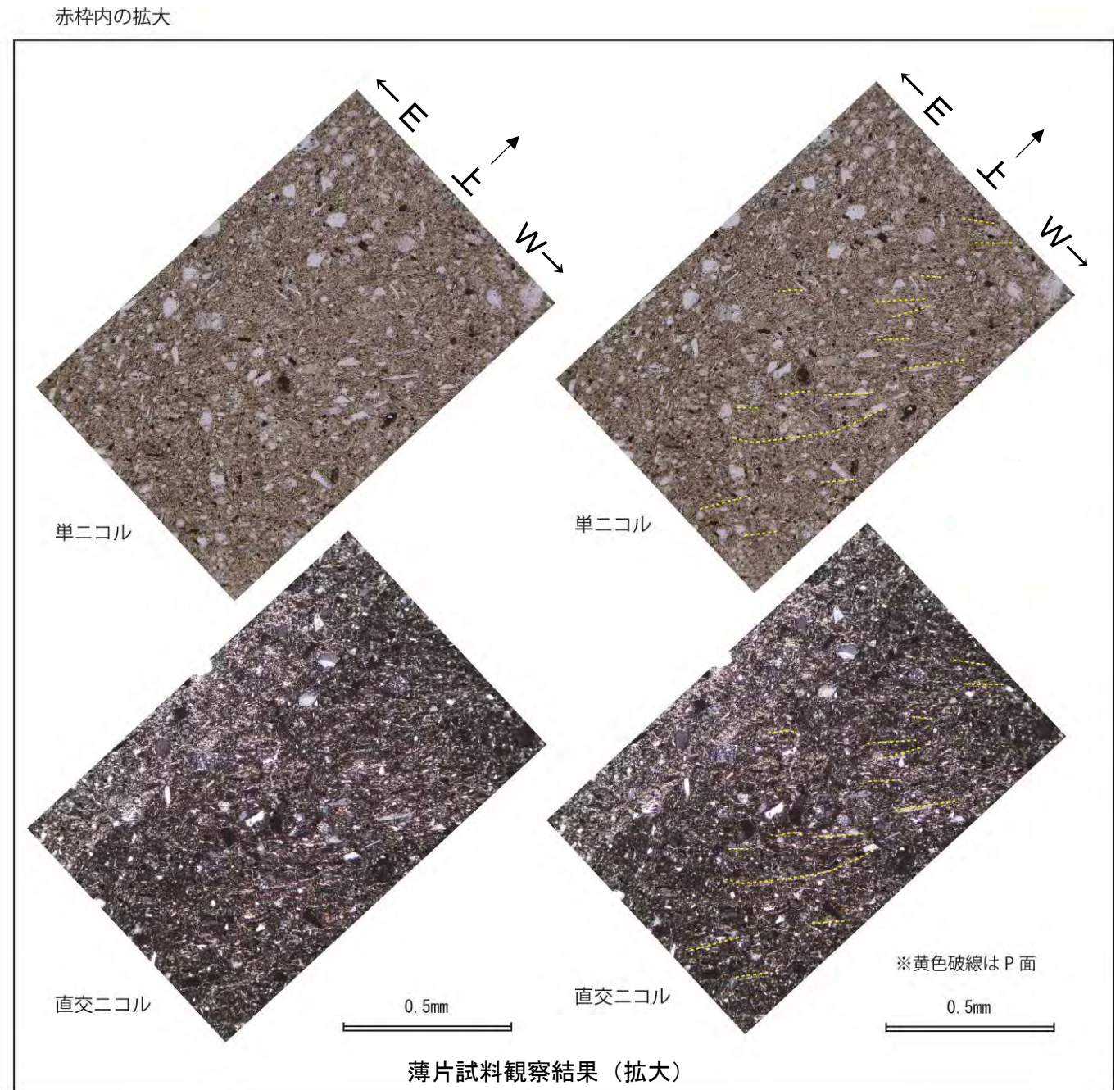
薄片試料採取位置



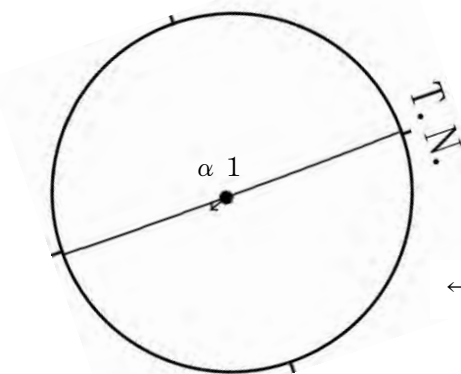
1・2号炉間地質断面図(A-A' 断面)



薄片試料観察結果



薄片試料観察結果 (拡大)



← : α 1 上盤側の変位センス

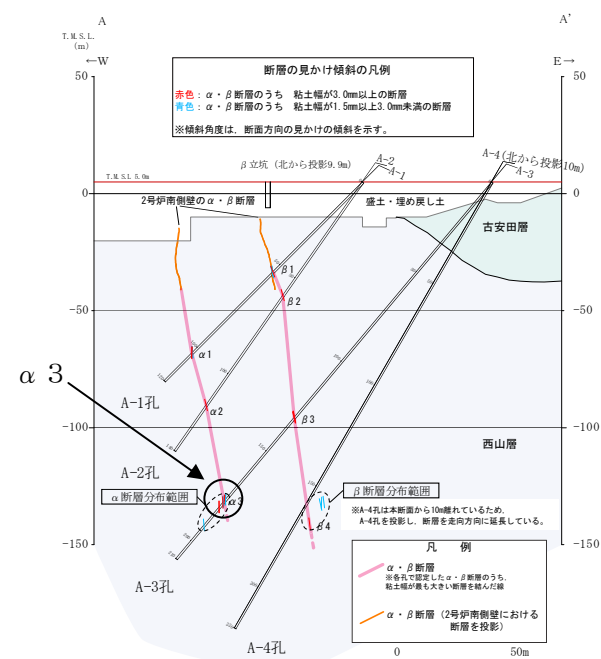
α 1 の走向・傾斜と変位センス
(シュミットネット 下半球投影)

α 1 (A-1 孔薄片) の分析結果
○断層面に直交、かつ条線に平行な薄片を作製した。
○α断層粘土部に認められる右下がりの系統的な粘土鉱物の配列は P 面と判断され、断層面との配置から、東落ちの変位が推定される。

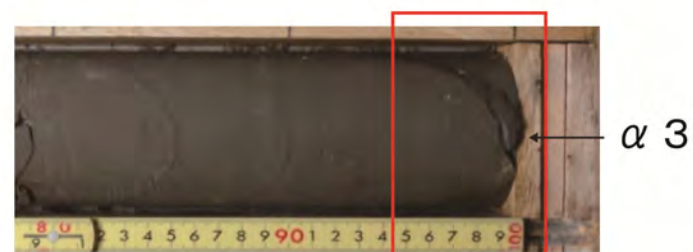
α 3 分析結果 (1)

○目的：A-3 孔における α 断層 (α 3) の条線等の詳細分析

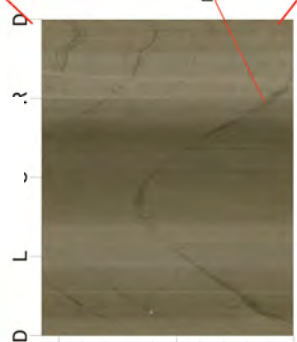
○分析内容：ボーリングコア詳細観察、定方位試料採取、CT画像分析、条線観察、研磨片・薄片観察



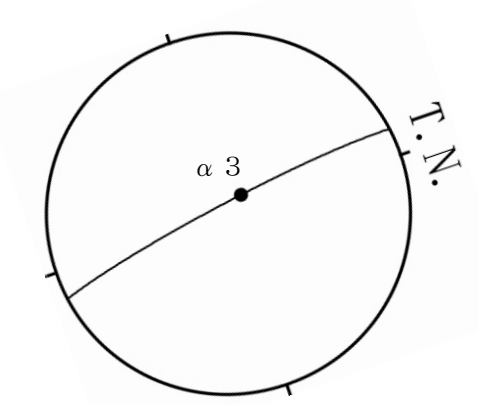
ボーリング
コア写真



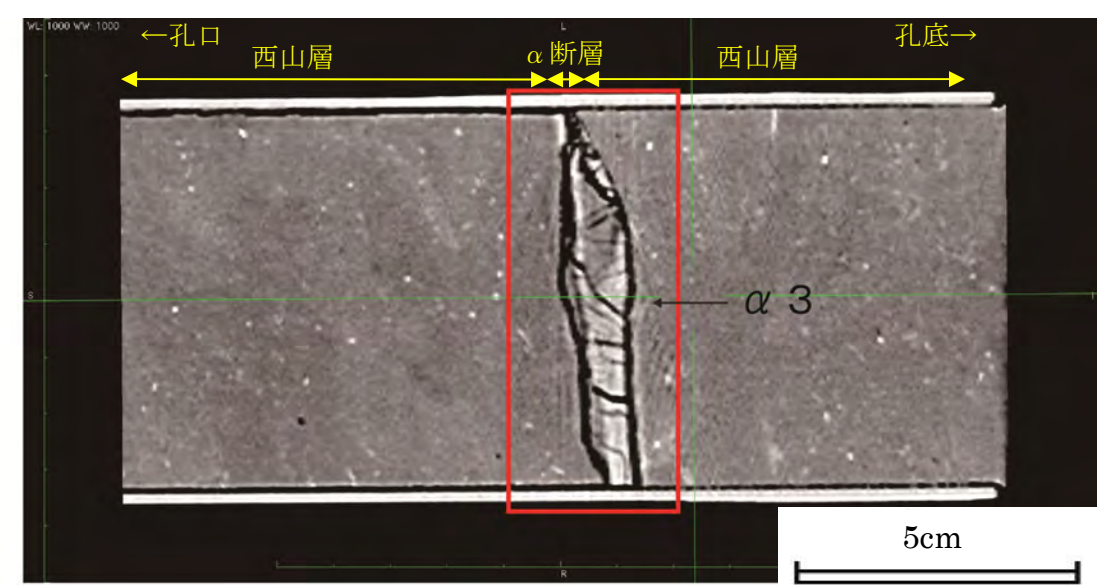
ボアホール
展開画像



ボアホール
孔壁画像



α 2 の走向・傾斜と条線方向
(シュミットネット 下半球投影)



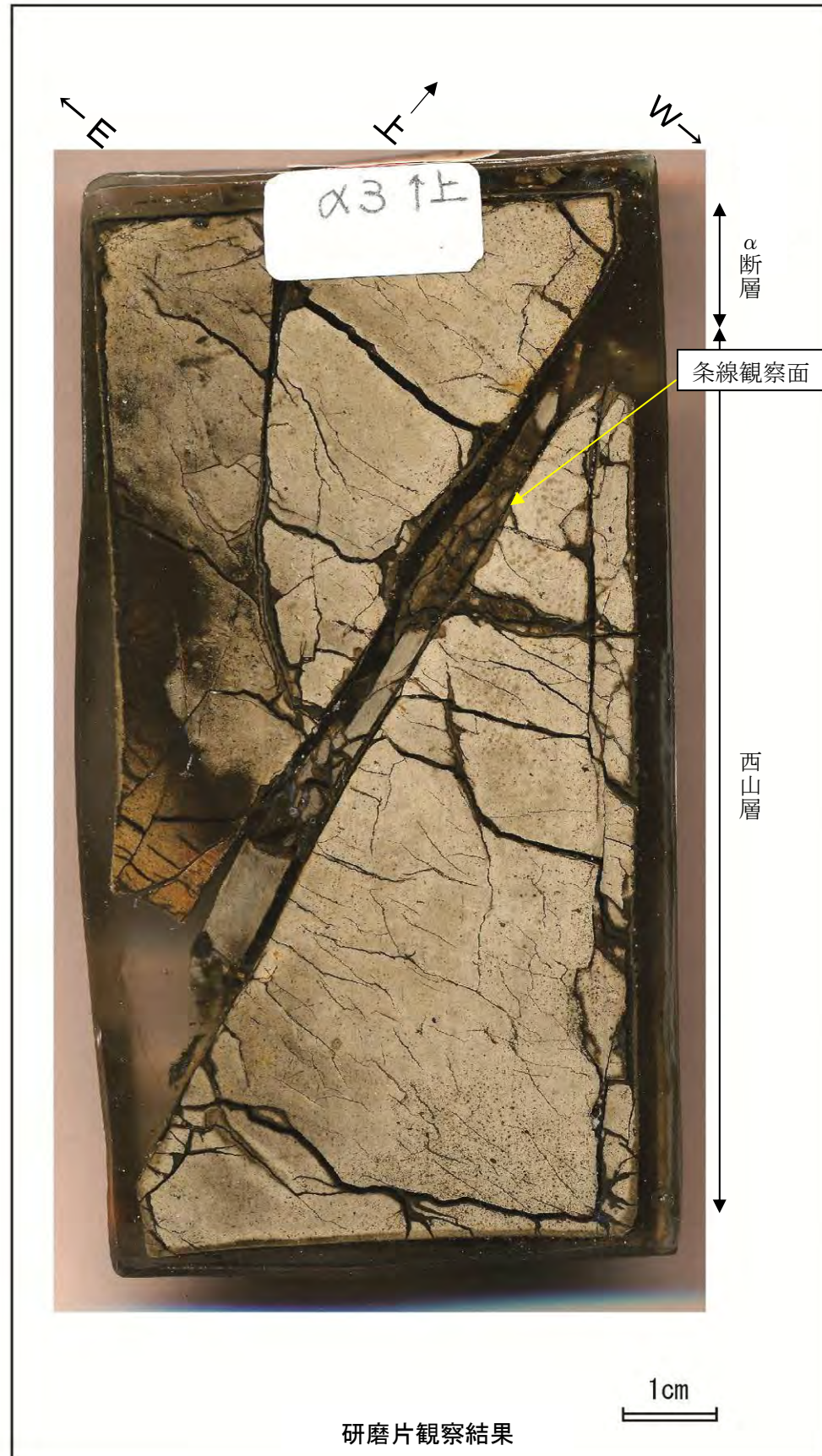
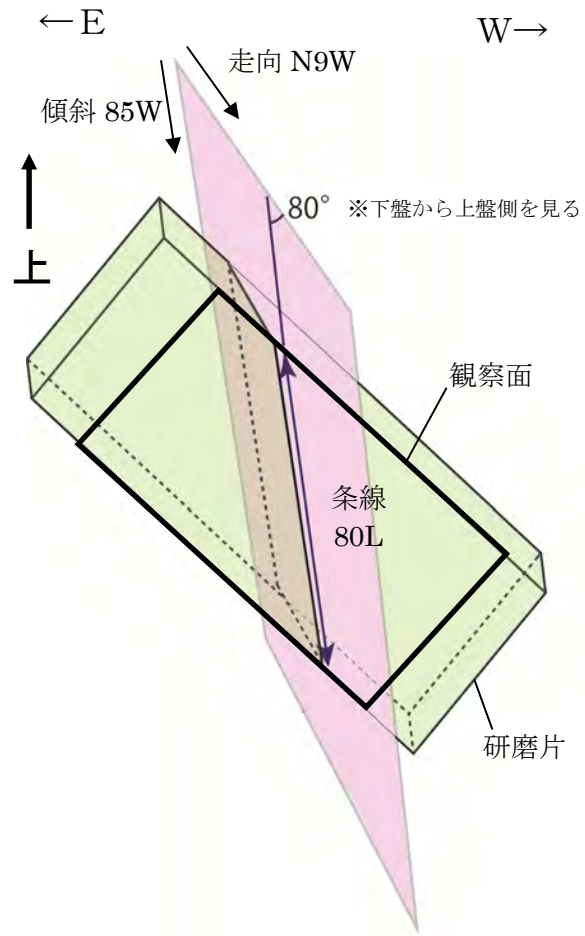
CT画像



α 断層 (α 3) の条線 (黄色矢印方向)
断層面の走向・傾斜：N9W85W
条線のレイク角：80L

α 3 詳細観察結果
 ○ボーリングコアでは、幅 7mm の固結した粘土からなり、断層面はやや湾曲する。
 ○コア試料の CT 画像では、西山層より明るい色調を呈し、密度が高い。断層面は上下面ともに湾曲する。
 ○α 断層粘土部の上下面には、不明瞭な条線が分布する。条線の方法は、断層面の走向・傾斜 N9W85W に対してレイク角 80L である。

α 3 分析結果 (2)



研磨片観察結果

α 3 (A-3孔の研磨片) の分析結果

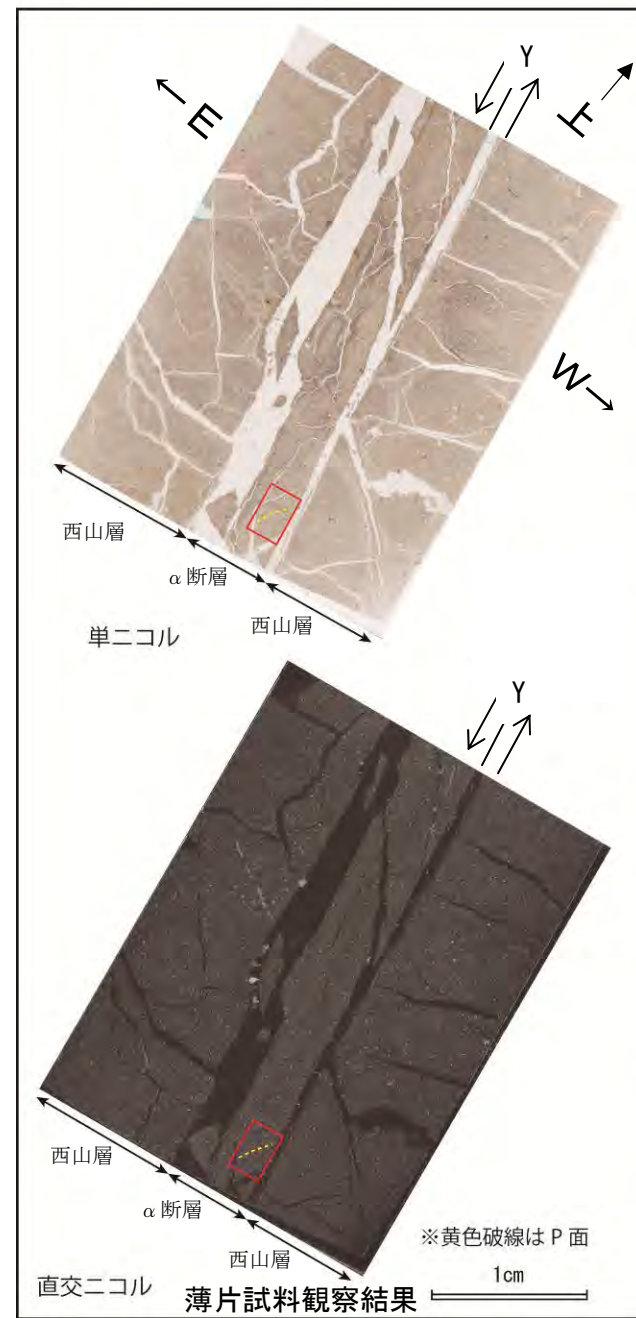
○断層面に直交、かつ条線に平行な研磨片を作製した。

○研磨片では、α断層沿いに複合面構造が確認されないため、変位センスは不明である。

α 3 分析結果 (3)

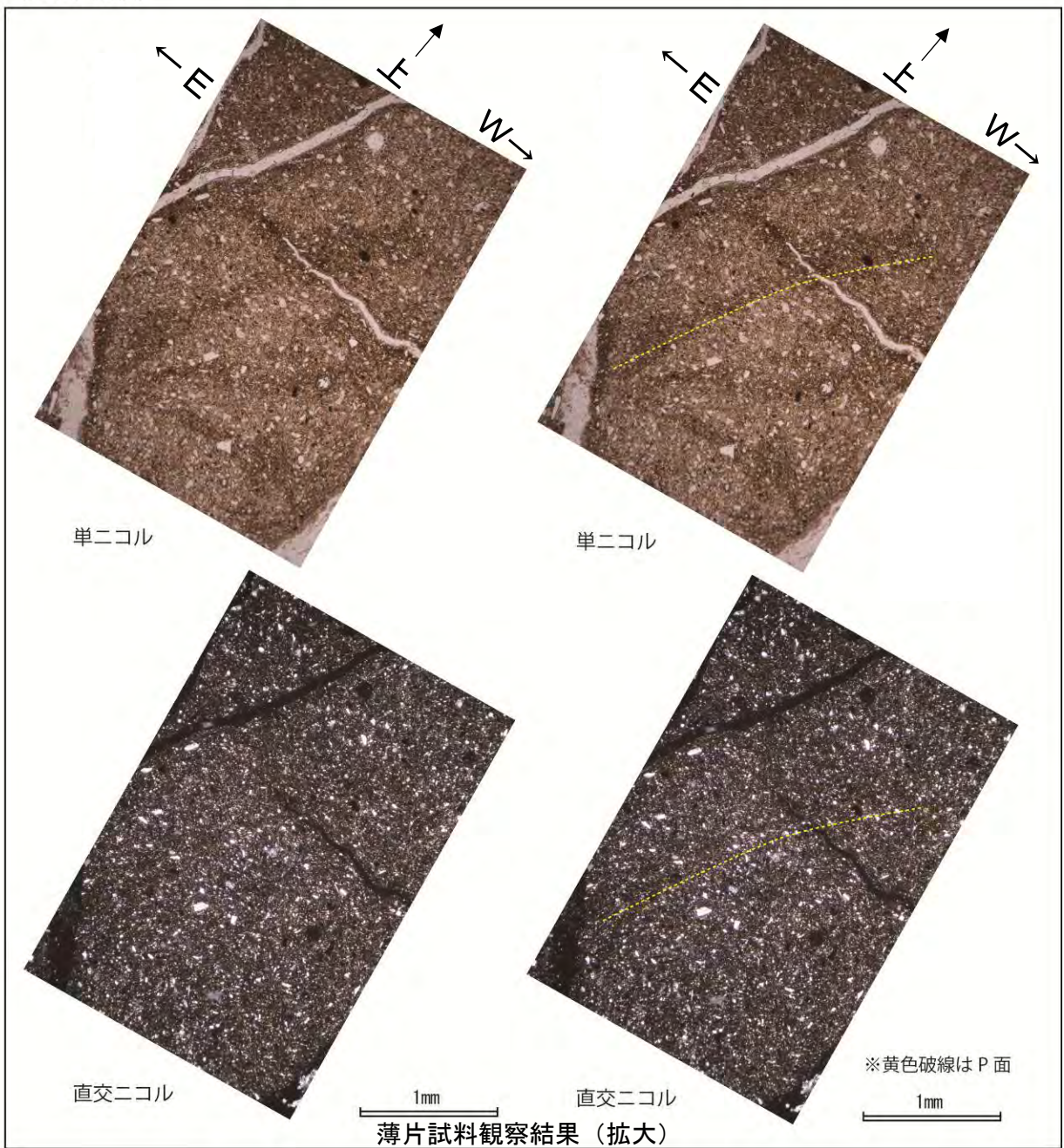


薄片試料採取位置

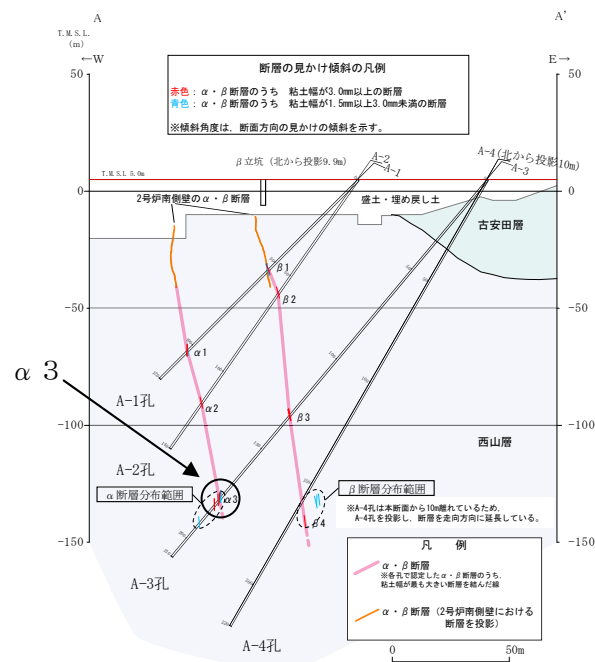


薄片試料観察結果

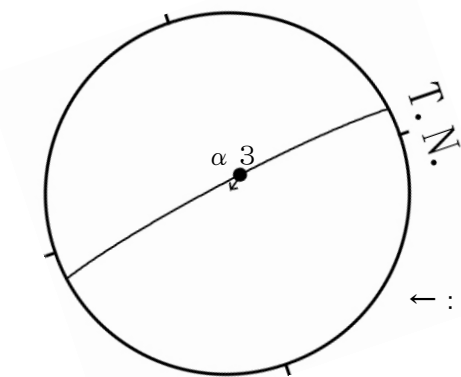
赤枠内の拡大



薄片試料観察結果 (拡大)



1・2号炉間地質断面図(A-A' 断面)



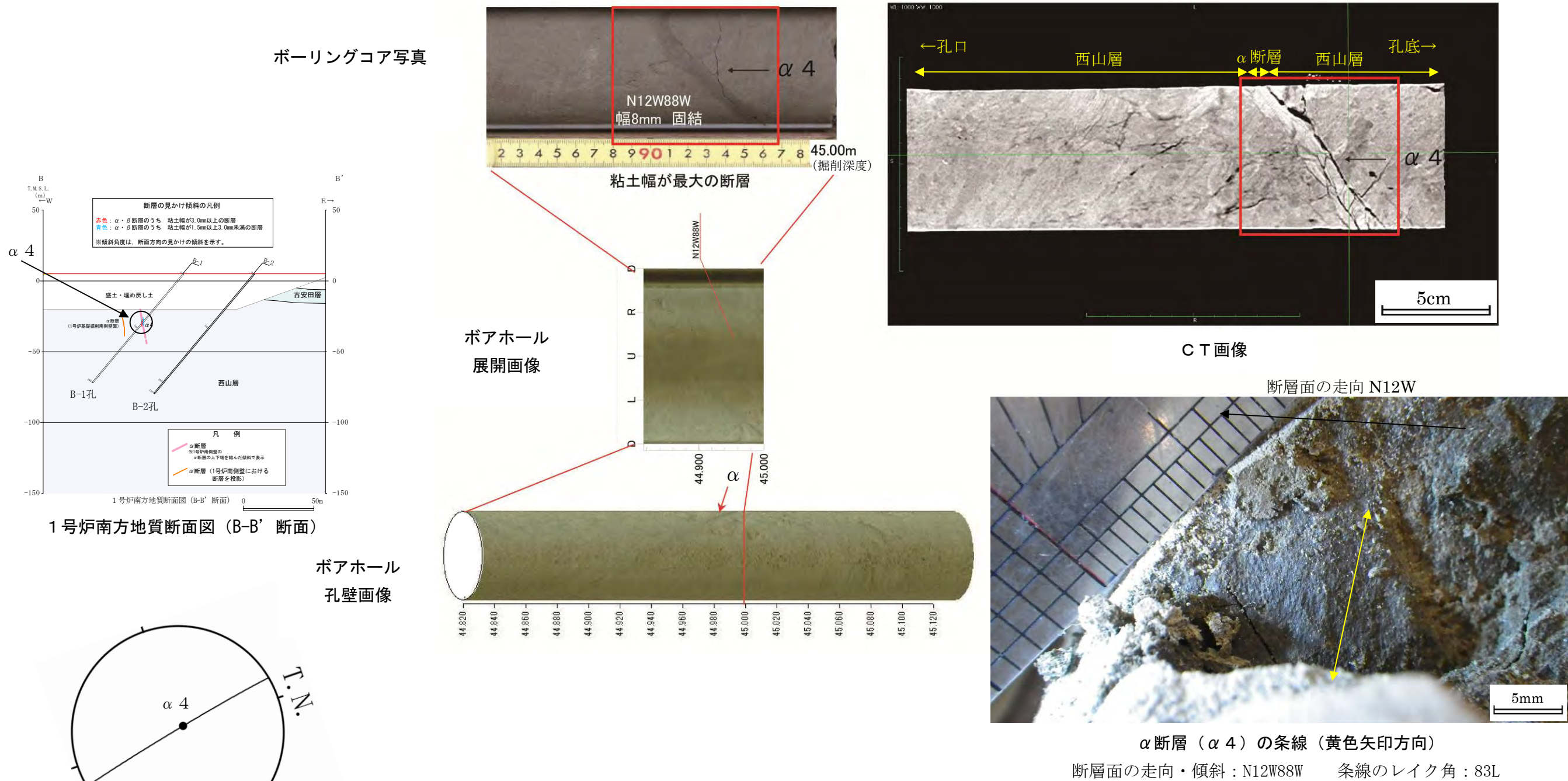
α 3 の走向・傾斜と変位センス
(シュミットネット 下半球投影)

α 3 (A-3 孔の薄片) の分析結果
 ○断層面に直交, かつ条線に平行な薄片を作製した。
 ○α断層粘土部に認められる右下がりの系統的な石英粒子の配列は P 面と判断され, 断層面との配置から東落ちの変位が推定される。

α 4 分析結果 (1)

○目的：B-1 孔における α 断層 (α 4) の条線等の詳細分析

○分析内容：ボーリングコア詳細観察, 定方位試料採取, CT画像分析, 条線観察, 研磨片・薄片観察

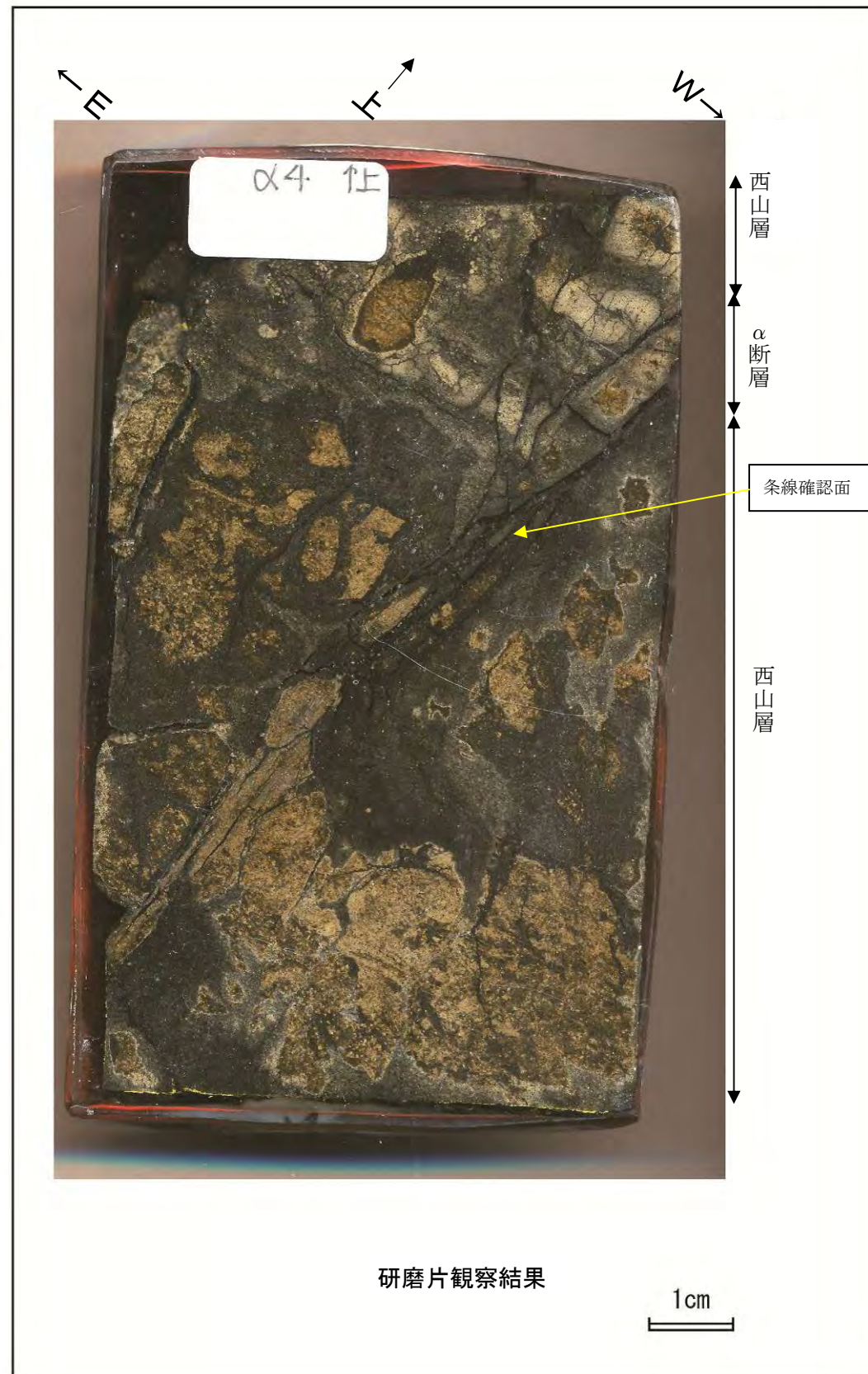
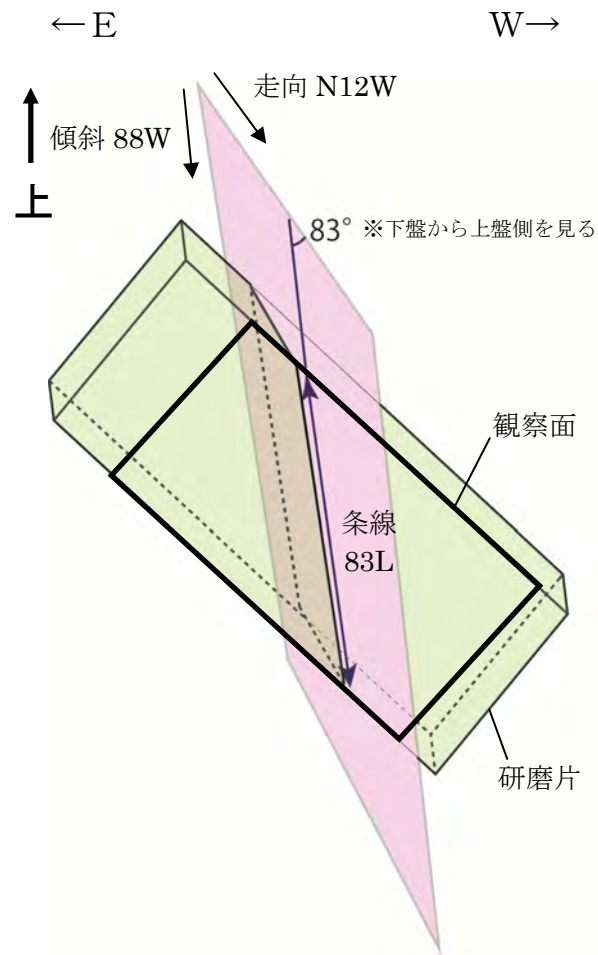


α 4 詳細観察結果

- ボーリングコアでは、幅 8mm の固結した粘土からなり、断層面は湾曲する。
- コア試料のCT画像では、西山層よりやや明るい色調を呈し、密度がやや高い。断層面は上下面ともに湾曲する。
- α断層粘土部の上下面には、やや不明瞭な条線が分布する。条線の方法は、断層面の走向・傾斜 N12W88W に対してレイク角 83L である。
- 条線は、ほぼ断層面の最大傾斜方向を示すことから、鉛直成分が卓越する断層と判断される。

α 4 の走向・傾斜と条線方向
(シュミットネット 下半球投影)

α 4 分析結果 (2)



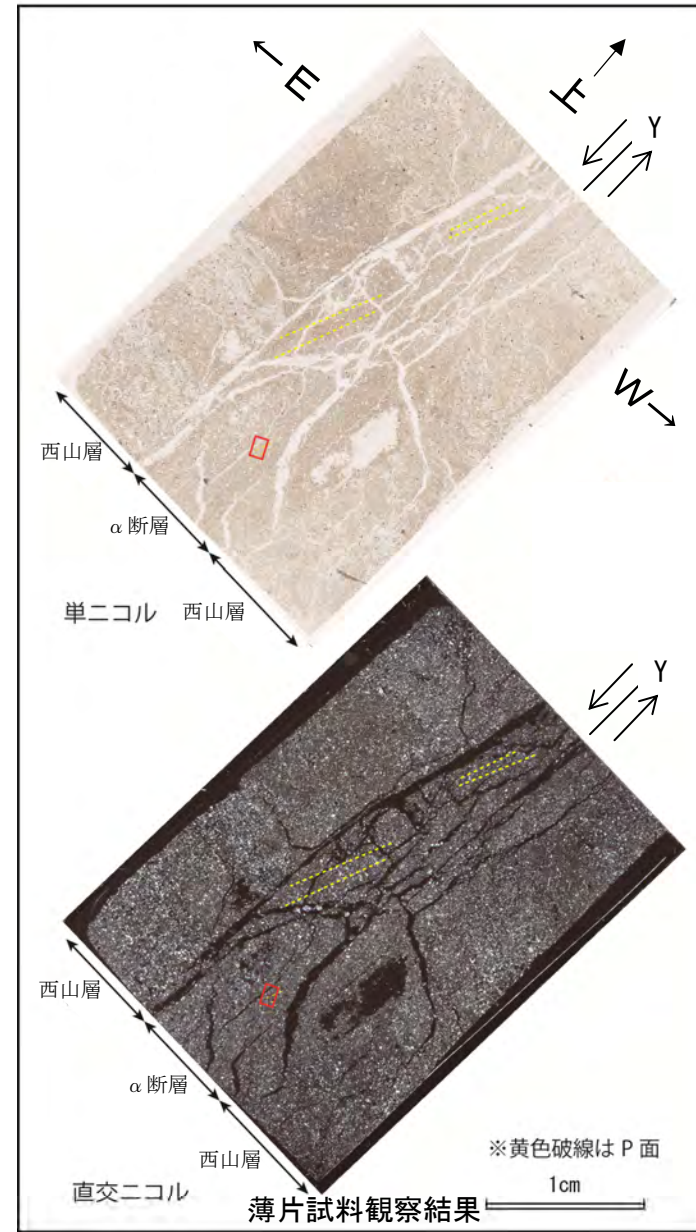
α 4 (B-1 孔研磨片) の分析結果

- 断層面に直交, かつ条線に平行な研磨片を作製した。
- 研磨片では, α断層沿いに複合面構造が確認されないため, 変位センスは不明である。

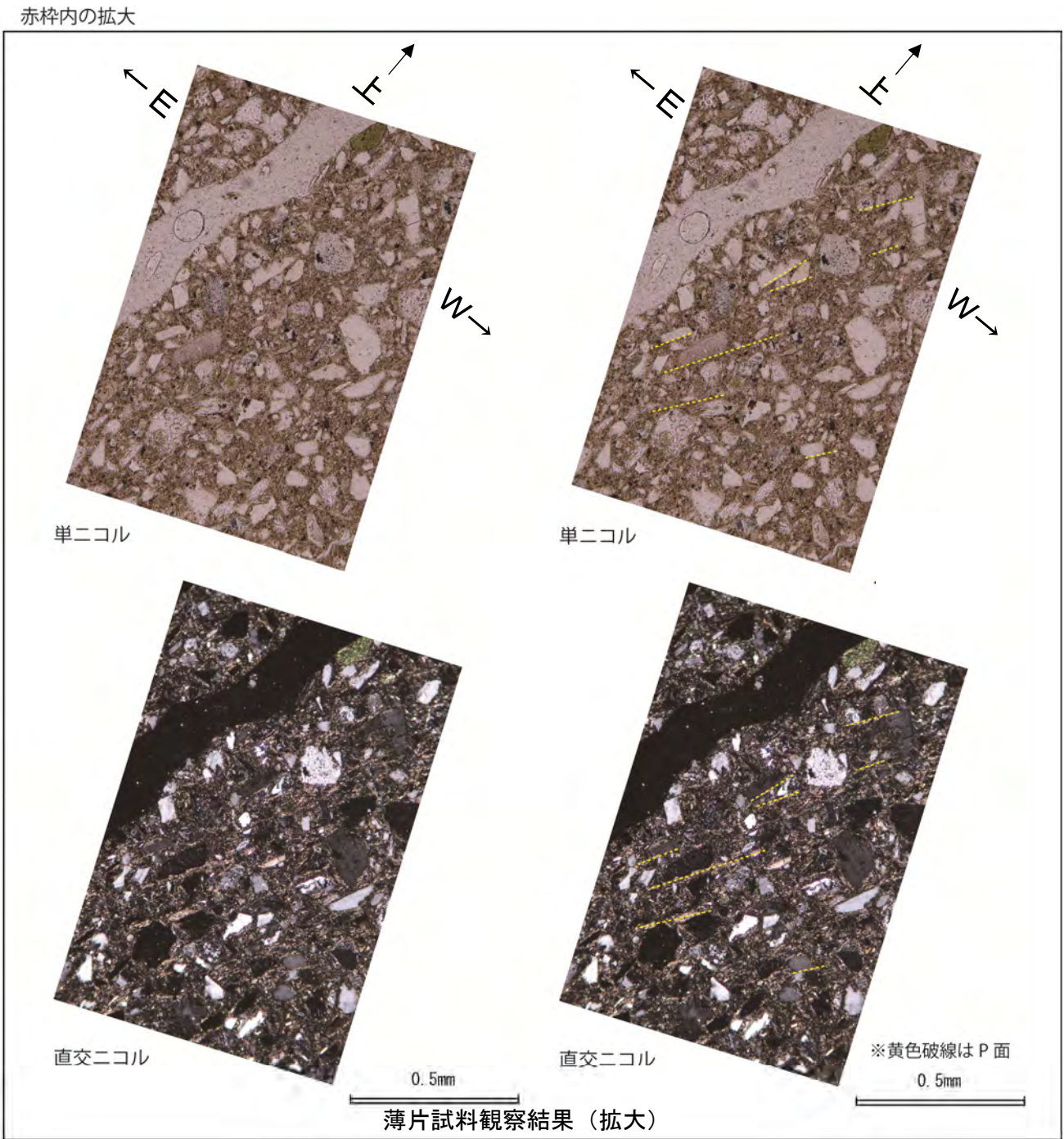
α 4 分析結果 (3)



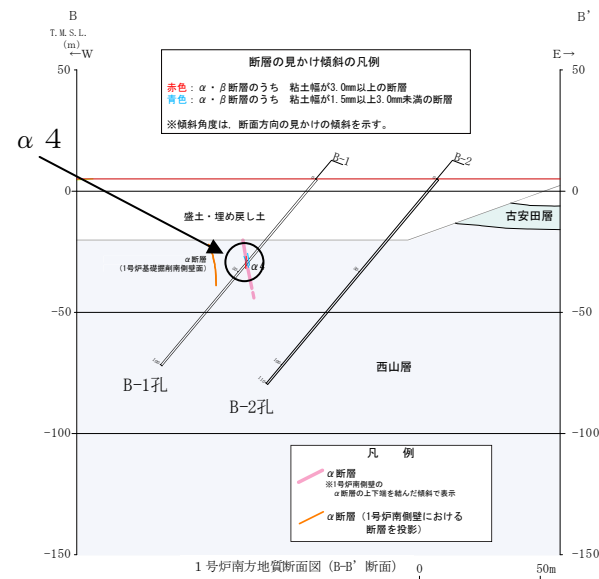
薄片試料採取位置



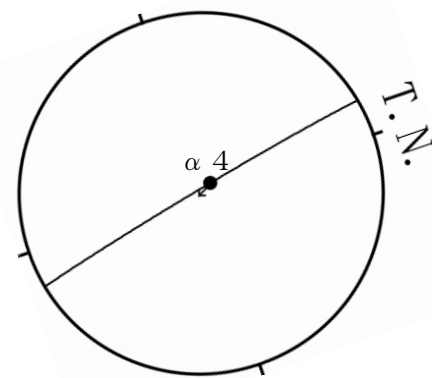
薄片試料観察結果



薄片試料観察結果 (拡大)



1号炉南方地質断面図 (B-B' 断面)

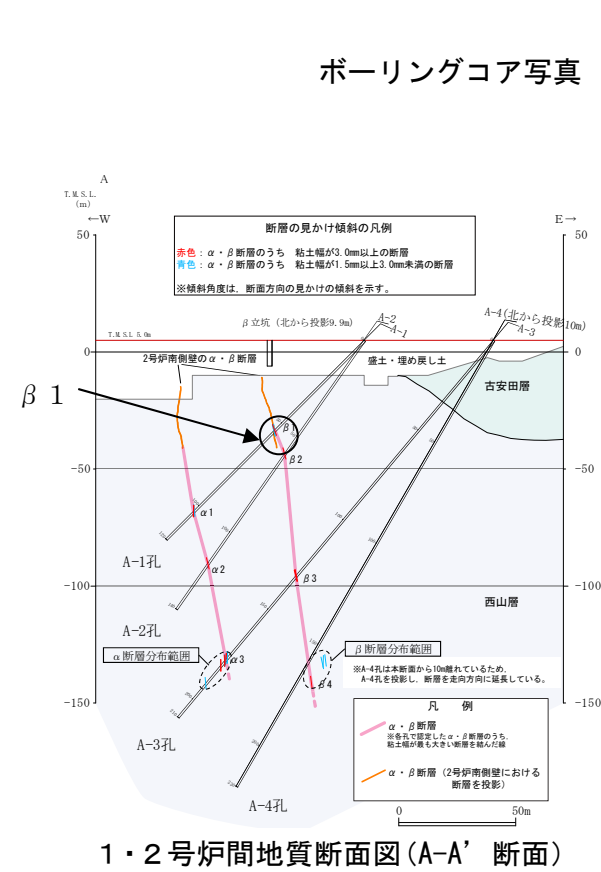


←: α 4 上盤側の変位センス
α 4 の走向・傾斜と変位センス
(シュミットネット 下半球投影)

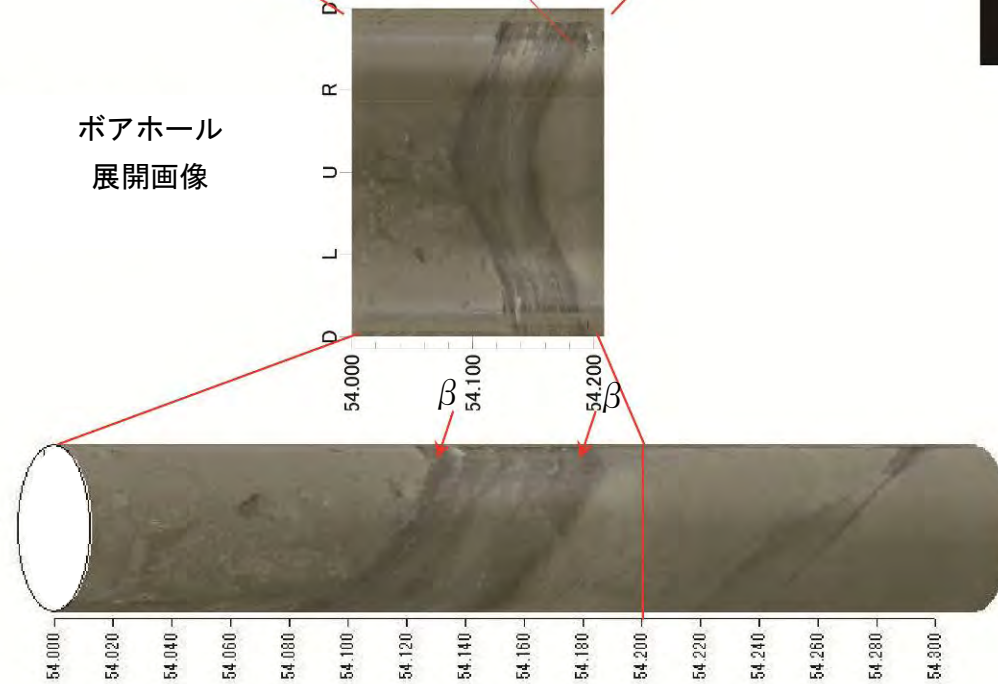
α 4 (B-1 孔薄片) の分析結果
○断層面に直交、かつ条線に平行な薄片を作製した。
○α断層粘土部に認められる不明瞭な右下がりの粘土鉱物と石英の長軸の配列は P 面と判断され、断層面との配置から東落ちの変位が推定される。

β 1 分析結果 (1)

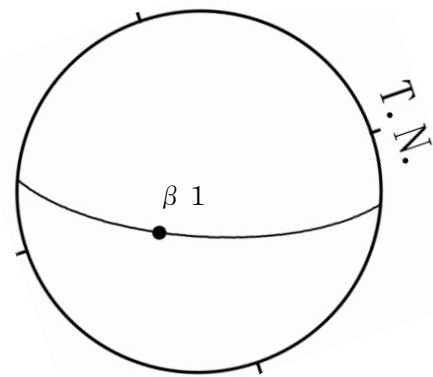
- 目的：A-1 孔における β 断層 (β 1) の条線等の詳細分析
- 分析内容：ボーリングコア詳細観察, 定方位試料採取, CT画像分析, 条線観察, 研磨片・薄片観察



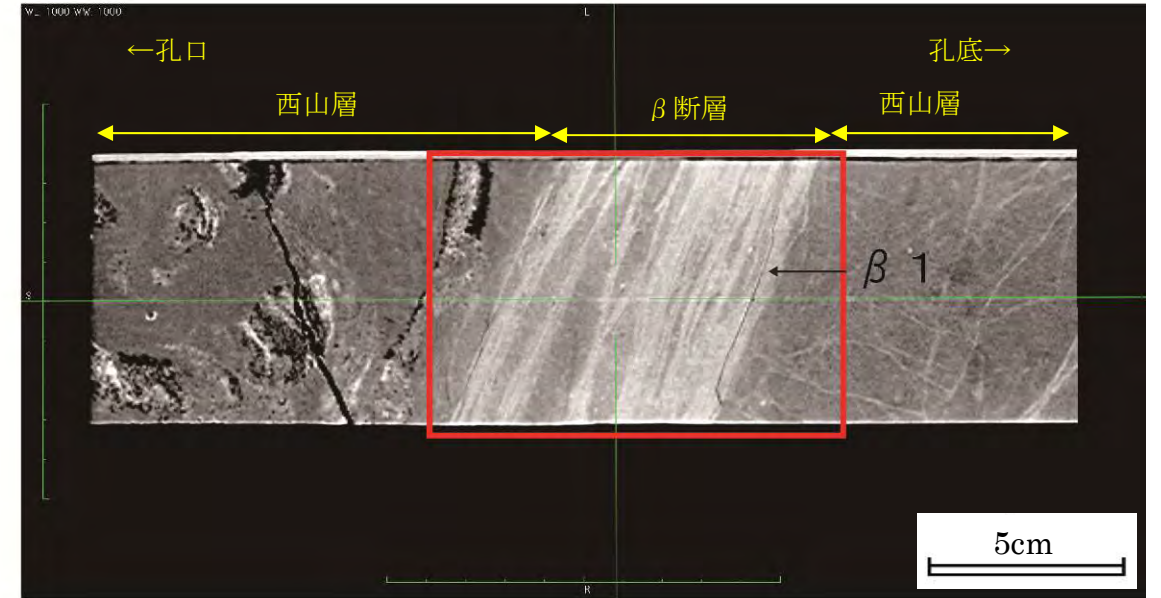
ボアホール 展開画像



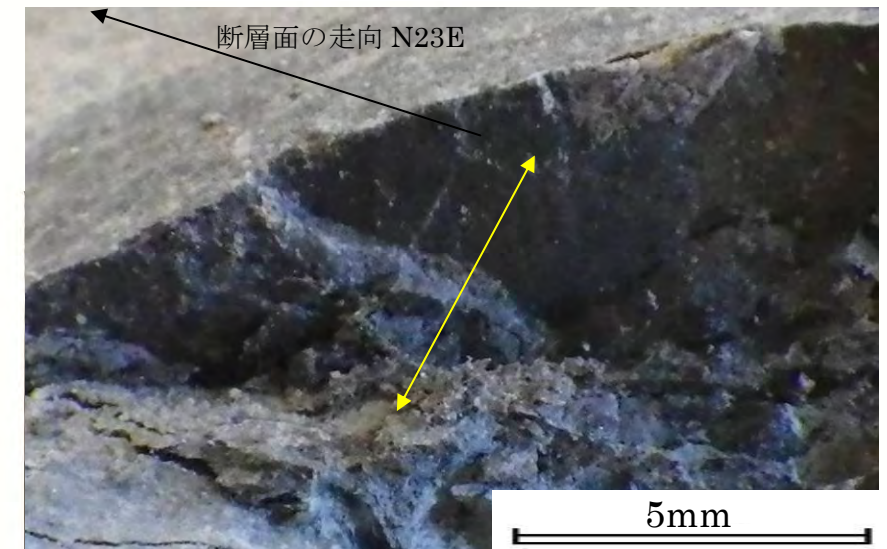
ボアホール 孔壁画像



β 1 の走向・傾斜と条線方向 (シュミットネット 下半球投影)



CT画像

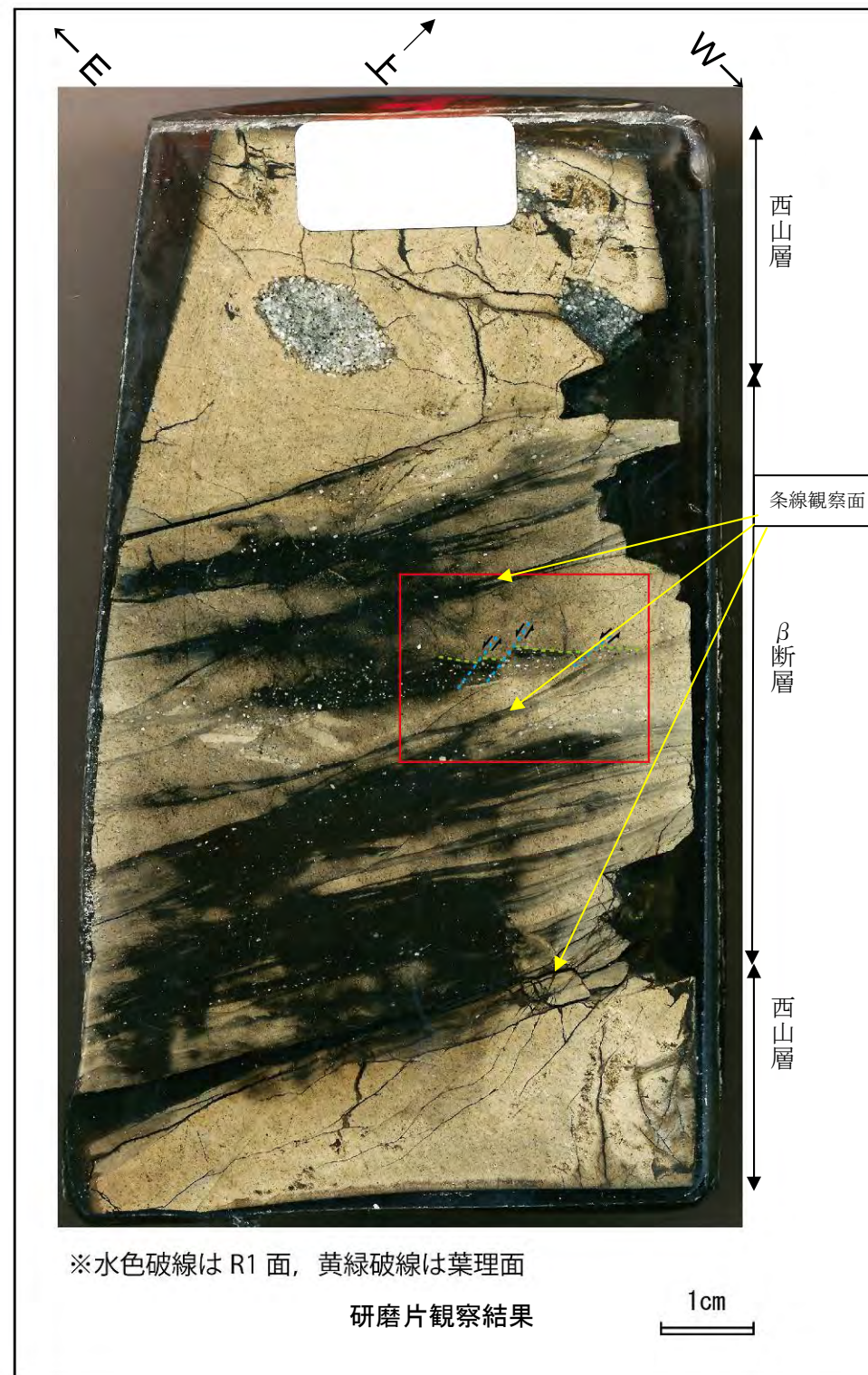
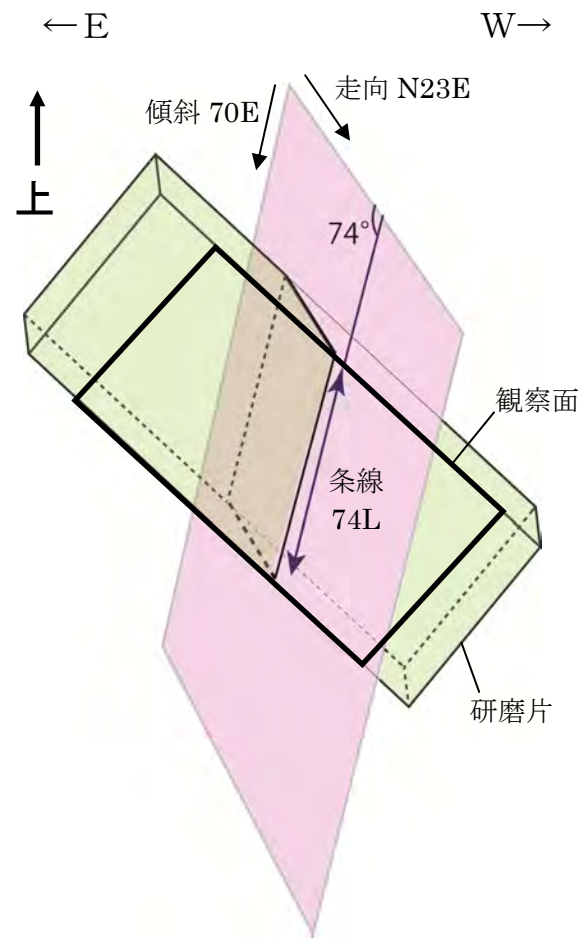


β 断層 (β 1) の条線 (黄色矢印方向)
 断層面の走向・傾斜: N23E70E
 条線のレイク角: 74L

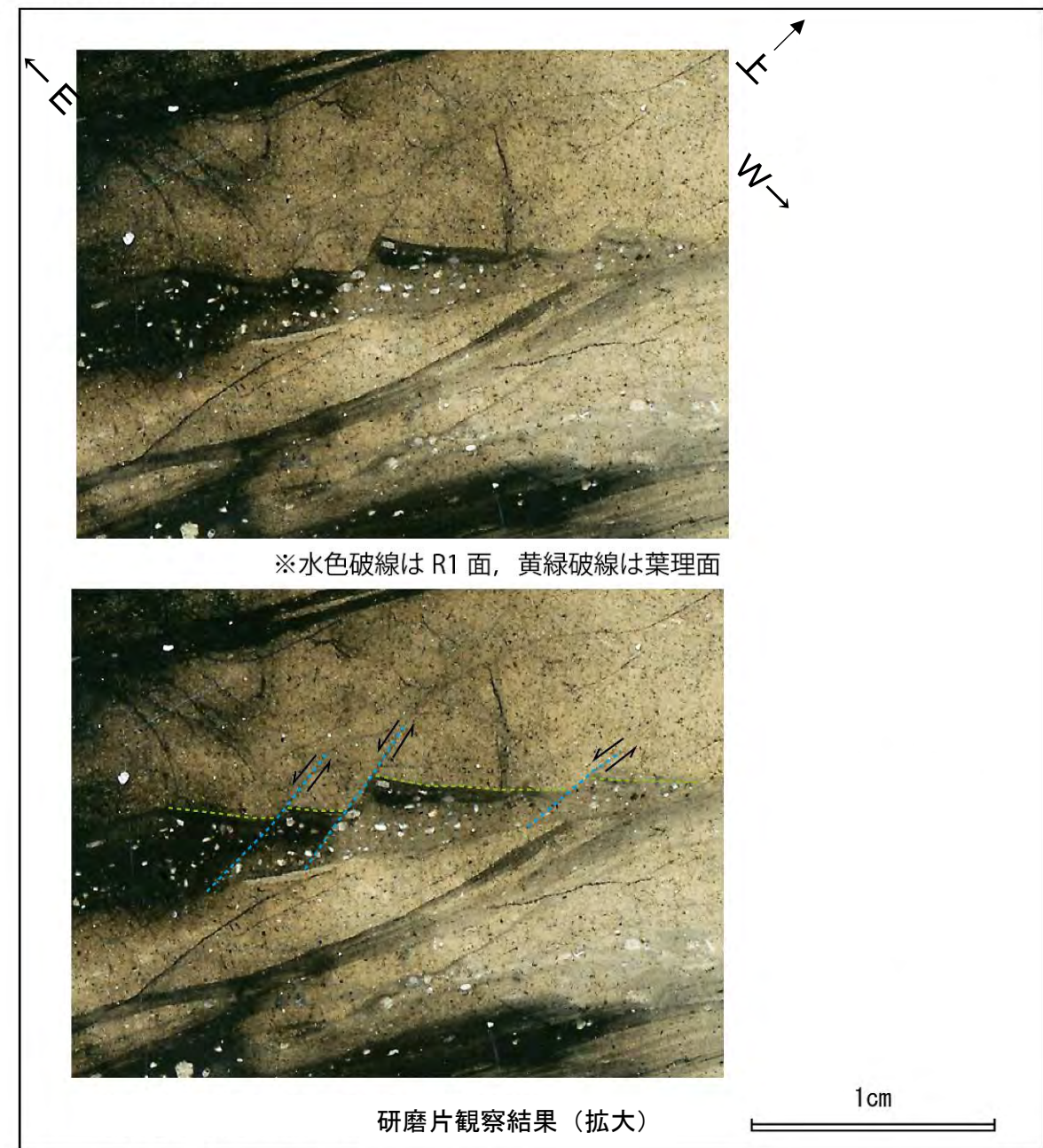
β 1 詳細観察結果

- ボーリングコアでは、幅 1mm~10mm 程度の小断層が密集し、全体として幅 70mm の断層帯をなす。断層部は、固結した粘土からなる。
- コア試料のCT画像では、西山層より明るい色調を呈し、密度が高い。断層面は密着している。
- β断層の粘土上部及び下部には、不明瞭な条線が分布する。条線の方法は、面の走向・傾斜 N23E70E に対してレイク角 74L である。
- 条線は、断層面の走向に対して高角度を示すことから、鉛直成分が卓越する断層と判断される。

β 1 分析結果 (2)



赤枠内の拡大

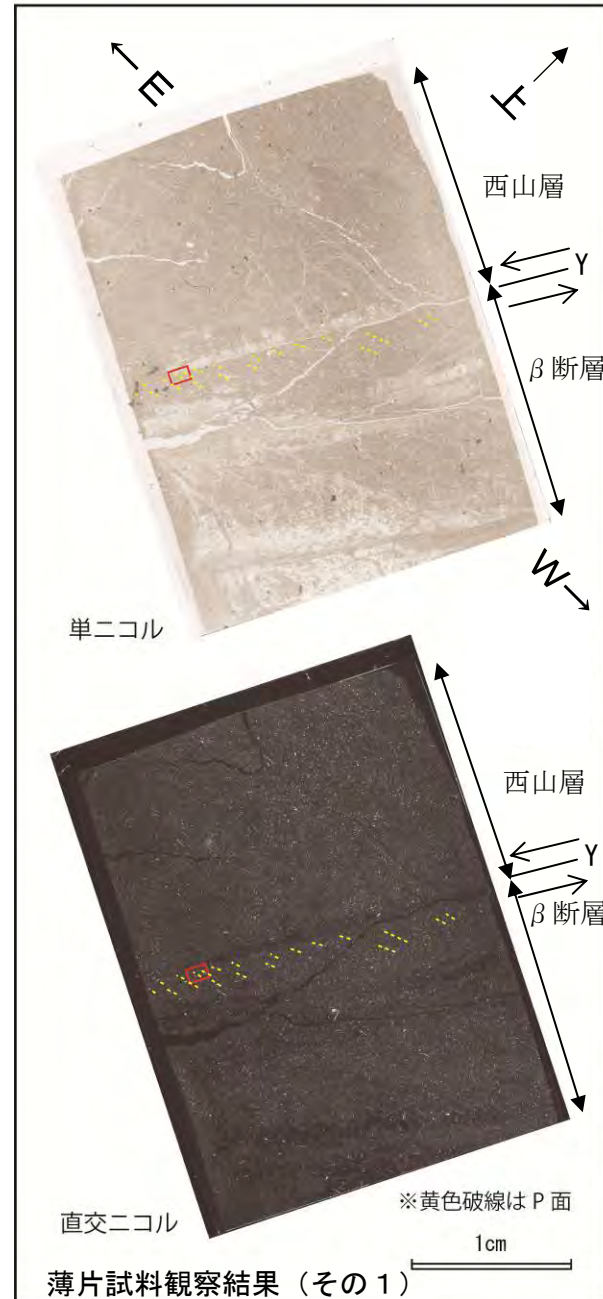


β 1 分析結果 (A-1 孔の研磨片観察結果)
 ○断層面に直交, かつ条線に沿って研磨片を作製した。
 ○β断層粘土部の中上部付近に認められる左下がりの 3 本のせん断面は R1 面と判断され, 断層面との配置から東落ちの変位が推定される。

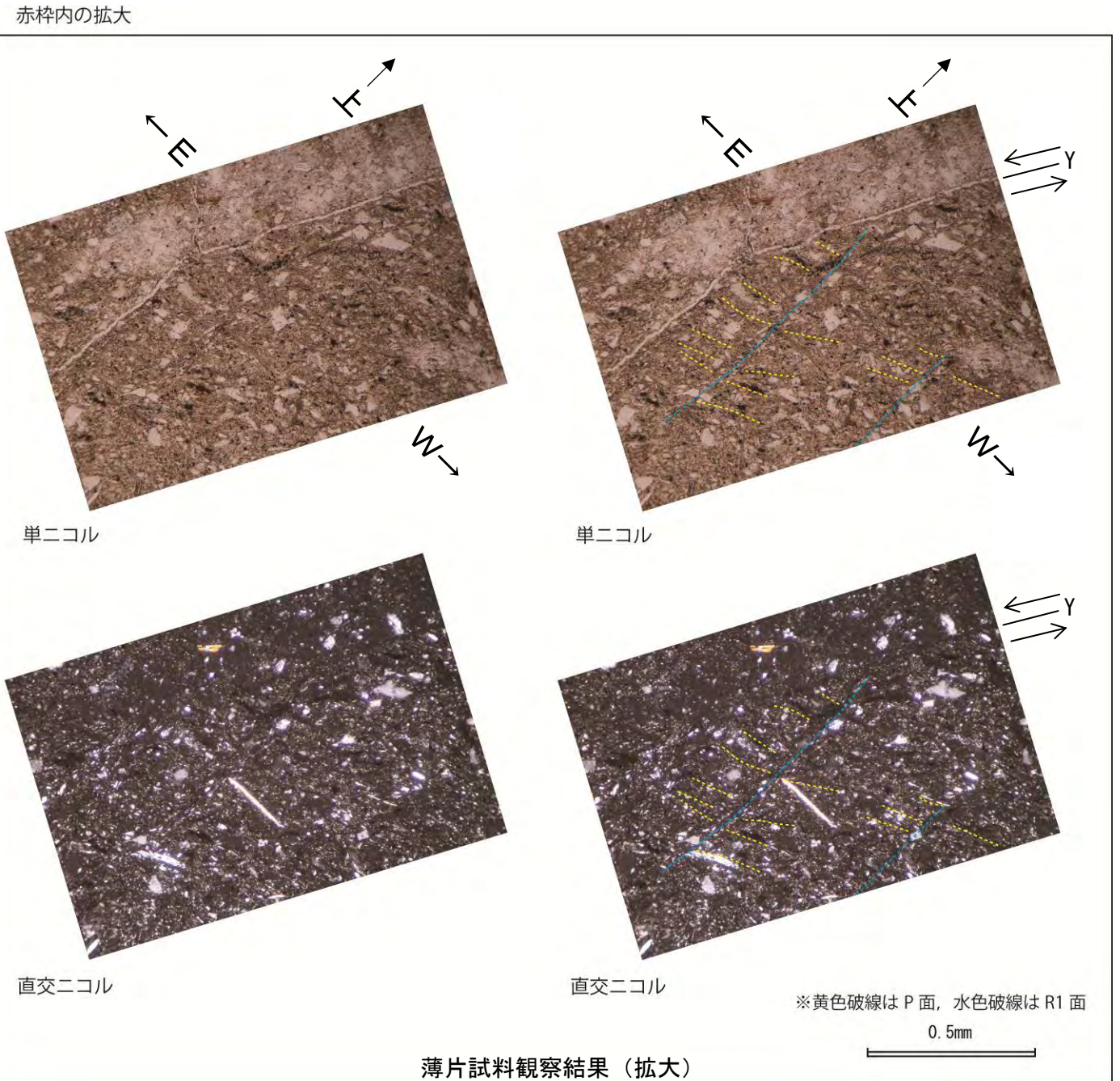
β 1 分析結果 (3)



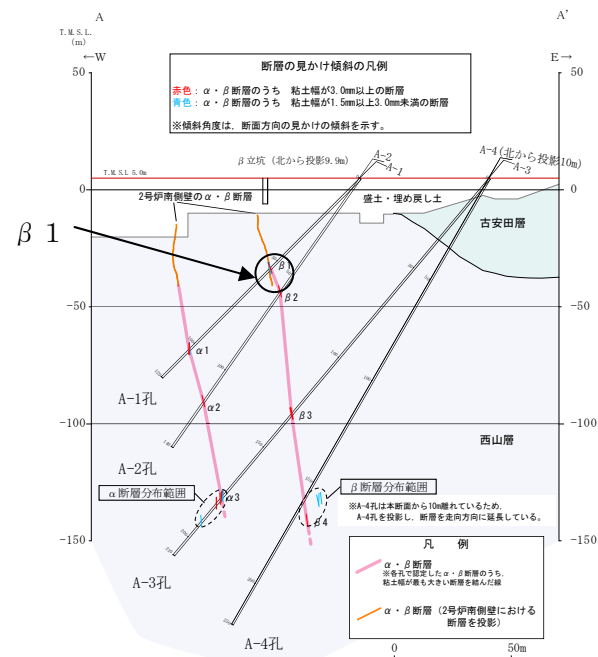
薄片試料採取位置



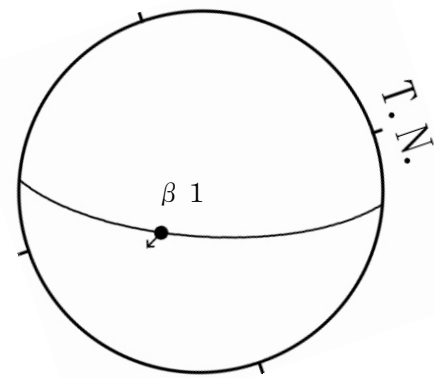
薄片試料観察結果 (その1)



薄片試料観察結果 (拡大)



1・2号炉間地質断面図 (A-A' 断面)



β 1 の走向・傾斜と変位センス
(シュミットネット 下半球投影)

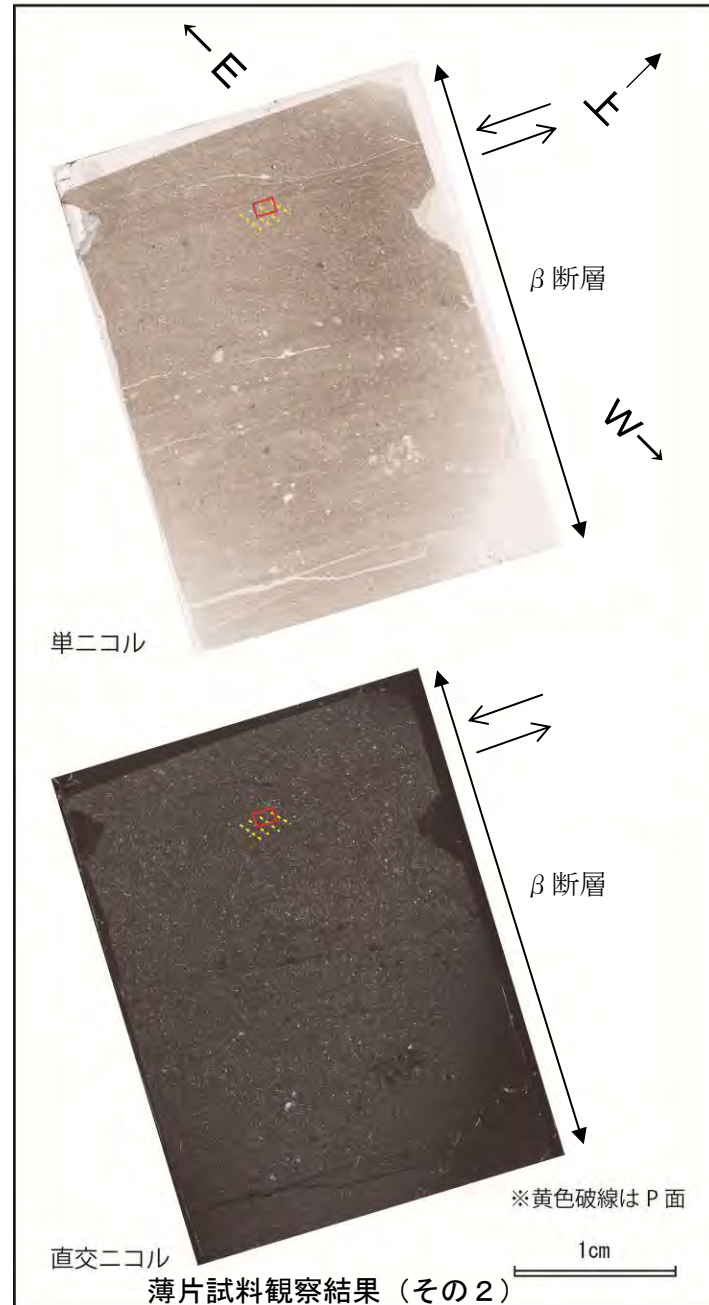
← β 1 上盤側の変位センス

β 1 分析結果 (A-1 孔の薄片観察結果その1)
 ○断層面に直交, かつ条線に沿って薄片を作製した。
 ○β断層粘土部に認められる右下がりの粘土鉱物の配列及びこの構造を切る左下がりのせん断面は, それぞれ P 面, R1 面と判断され, 断層面との配置から東落ちの変位が推定される。

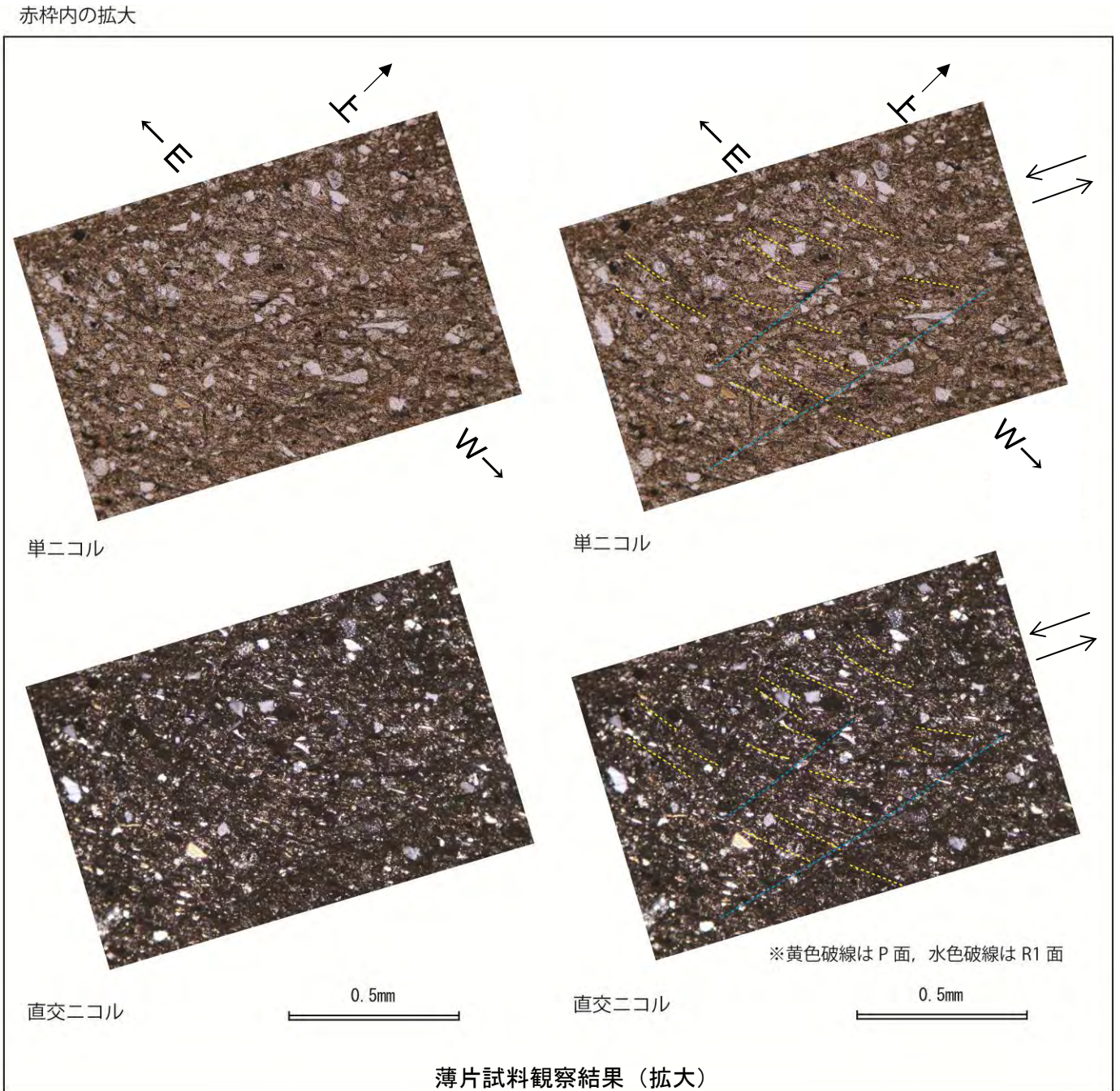
β 1 分析結果 (4)



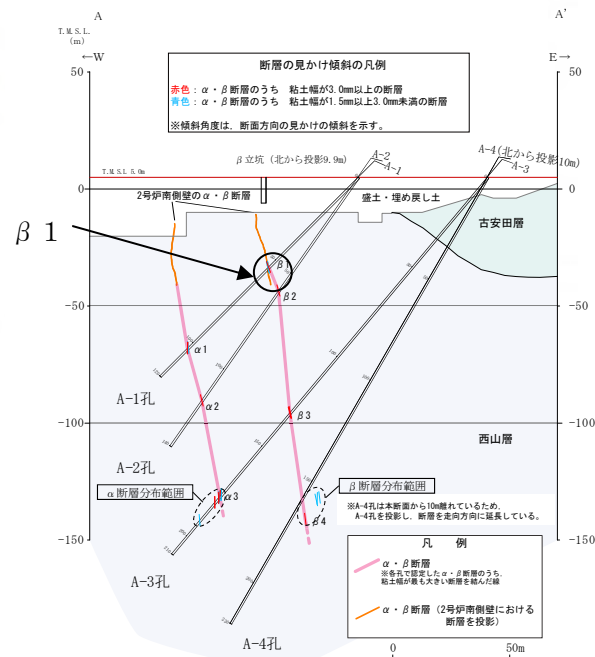
薄片試料採取位置



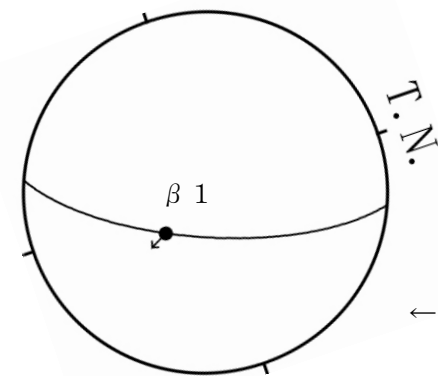
薄片試料観察結果 (その2)



薄片試料観察結果 (拡大)



1・2号炉間地質断面図(A-A' 断面)



β 1の走向・傾斜と変位センス
(シュミットネット 下半球投影)

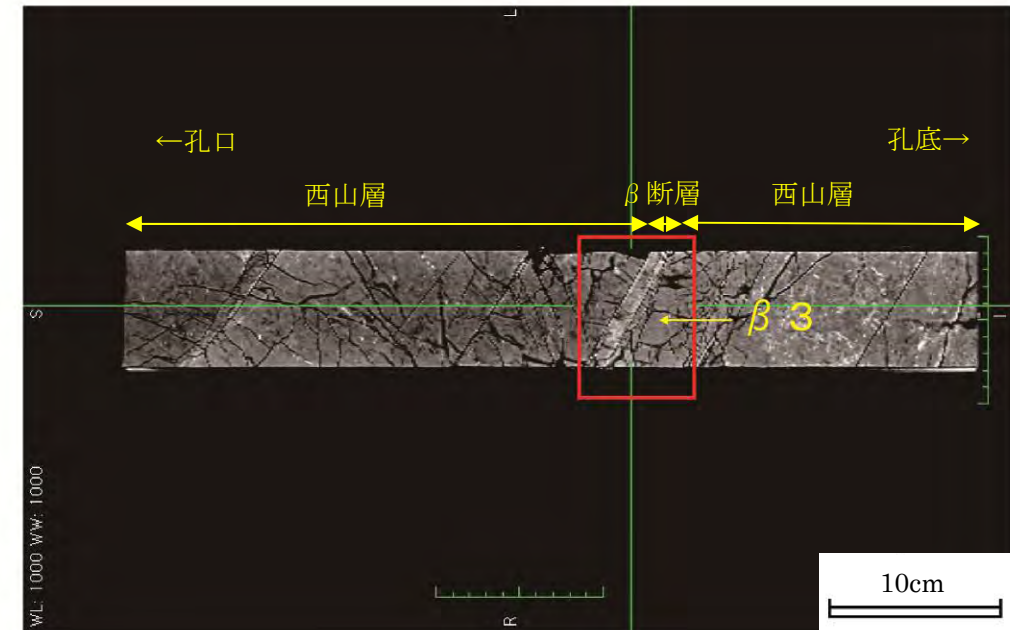
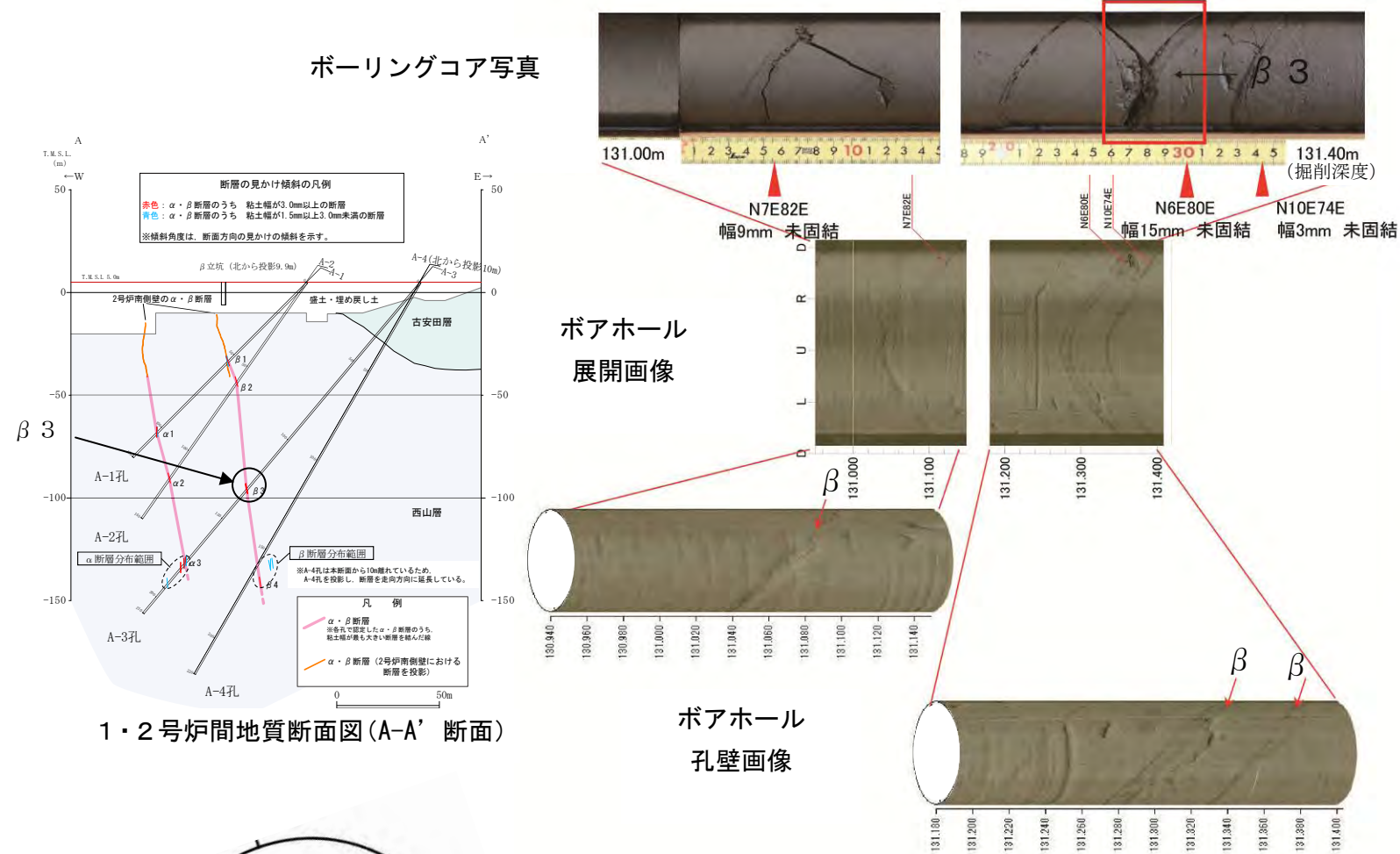
← : β 1 上盤側の変位センス

β 1 分析結果 (A-1 孔の薄片観察結果その2)
 ○断層面に直交、かつ条線に平行な薄片を作製した。
 ○β 断層粘土部に認められる右下がりの石英粒子の長軸及び粘土鉱物の配列及びこの構造を切る左下がりのせん断面は、それぞれ P 面、R1 面と判断され、断層面との配置から東落ちの変位が推定される。

β 3 分析結果 (1)

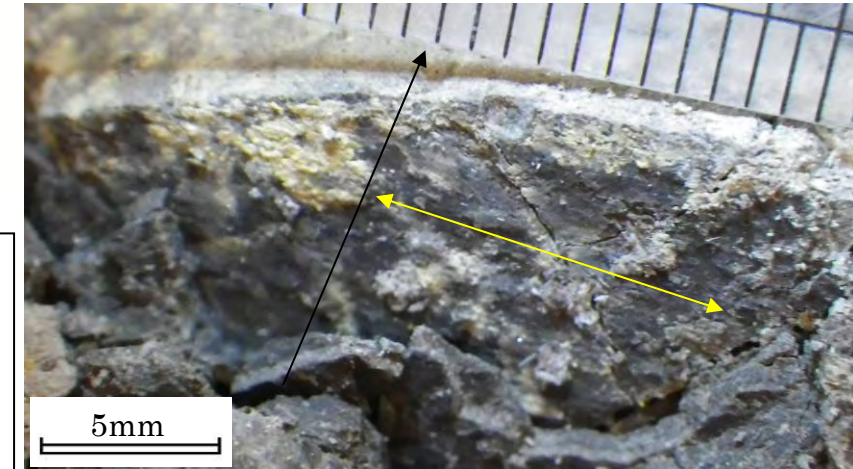
○目的：A-3 孔における β 断層 (β 3) の条線等の詳細分析

○分析内容：ボーリングコア詳細観察, 定方位試料採取, CT画像分析, 条線観察, 研磨片・薄片観察

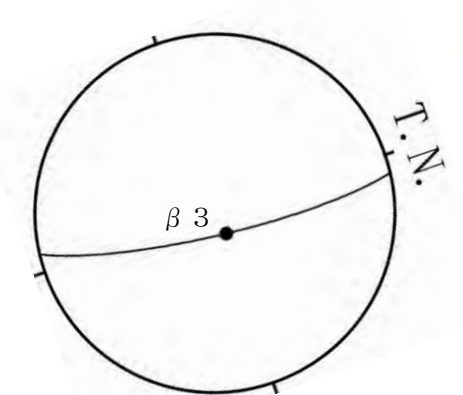


CT画像

断層面の走向 N6E



β 断層 (β 3) の条線 (黄色矢印方向)
断層面の走向・傾斜 : N6E80E
条線のレイク角 : 87R

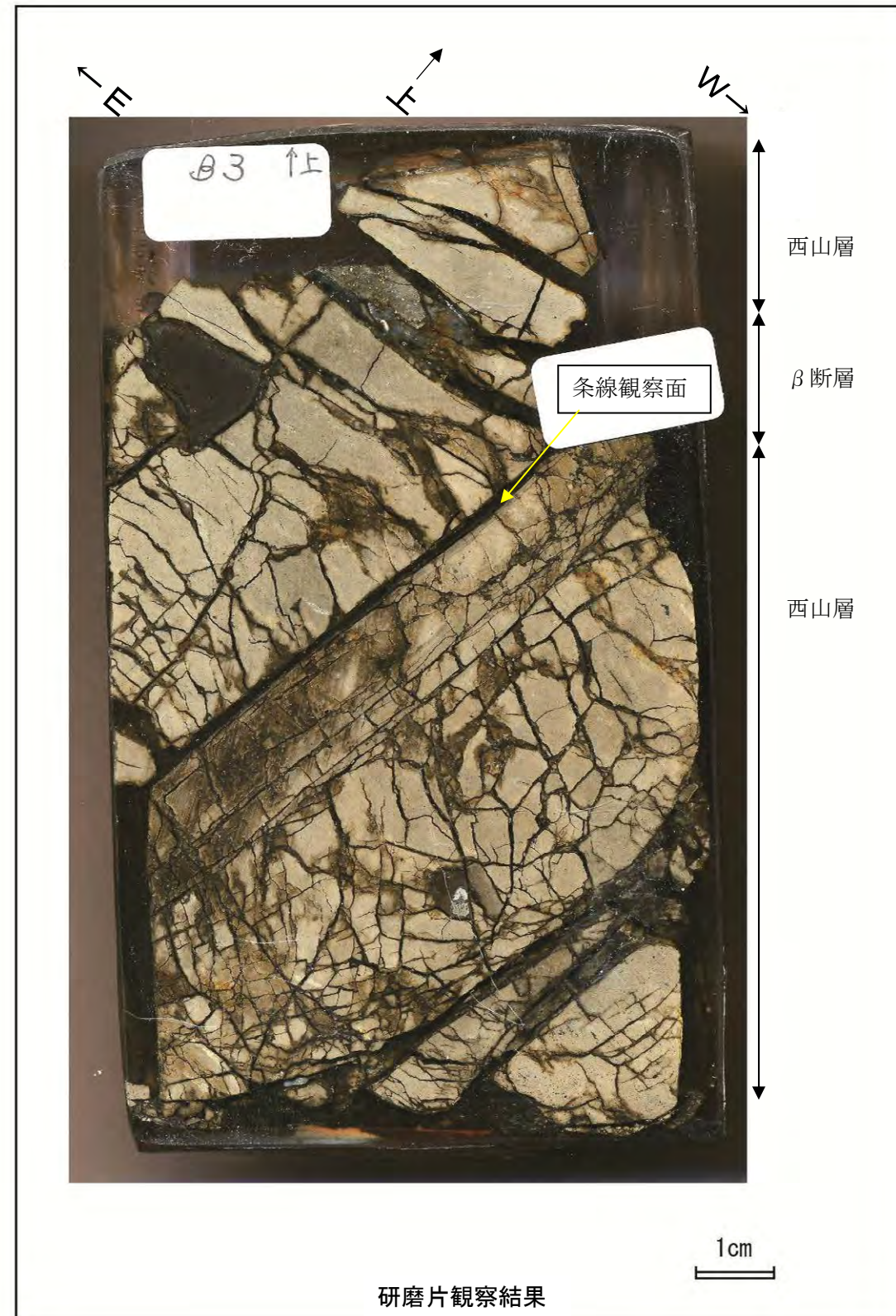
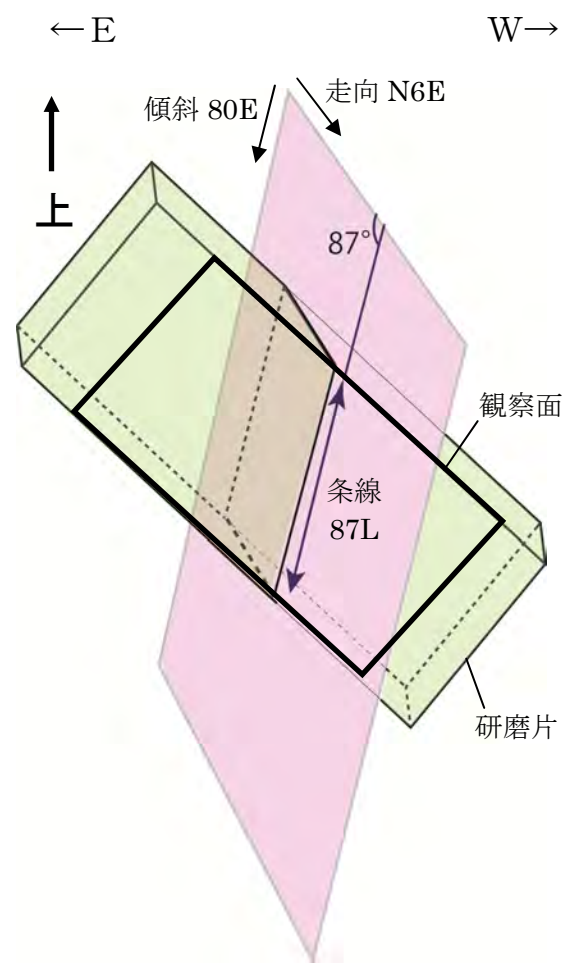


β 3 の走向・傾斜と条線方向
(シュミットネット 下半球投影)

β 3 詳細観察結果

- ボーリングコアでは, 幅 15mm の未固結の粘土からなる。断層面は上下面ともに平滑である。
- CT画像では, 西山層より明るい色調を呈し, 密度が高い。断層面は上下面ともに平滑である。
- β 断層粘土部の下面には, 不明瞭な条線が分布する。条線の方法は, 断層面の走向・傾斜 N6E80E に対してレイク角 87R である。
- 条線は, ほぼ断層面の最大傾斜方向を示すことから, 鉛直成分が卓越する断層と判断される。

β 3 分析結果 (2)



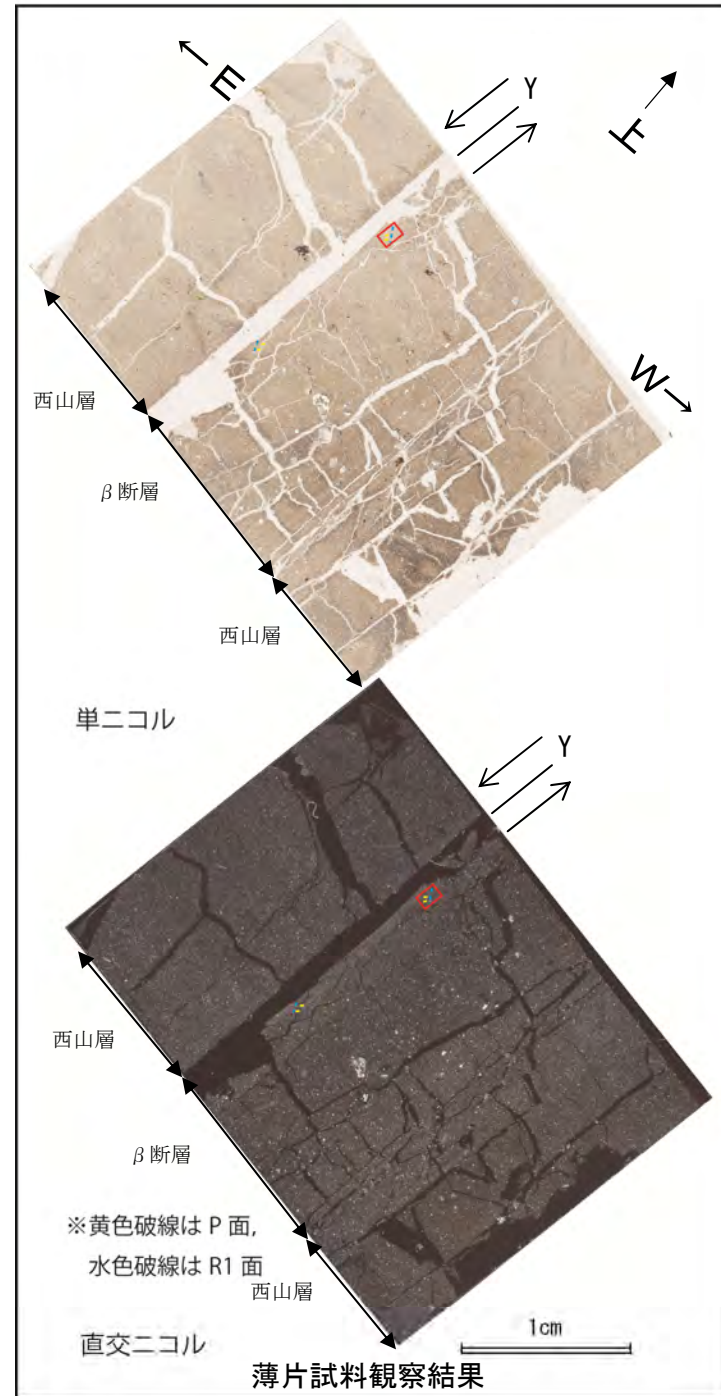
研磨片観察結果

β 3 分析結果 (A-3 孔の研磨片観察結果)
 ○断層面に直交、かつ条線に平行な研磨片を作製した。
 ○研磨片では、β 断層沿いに複合面構造が確認されないため、変位センスは不明である。

β 3 分析結果 (3)

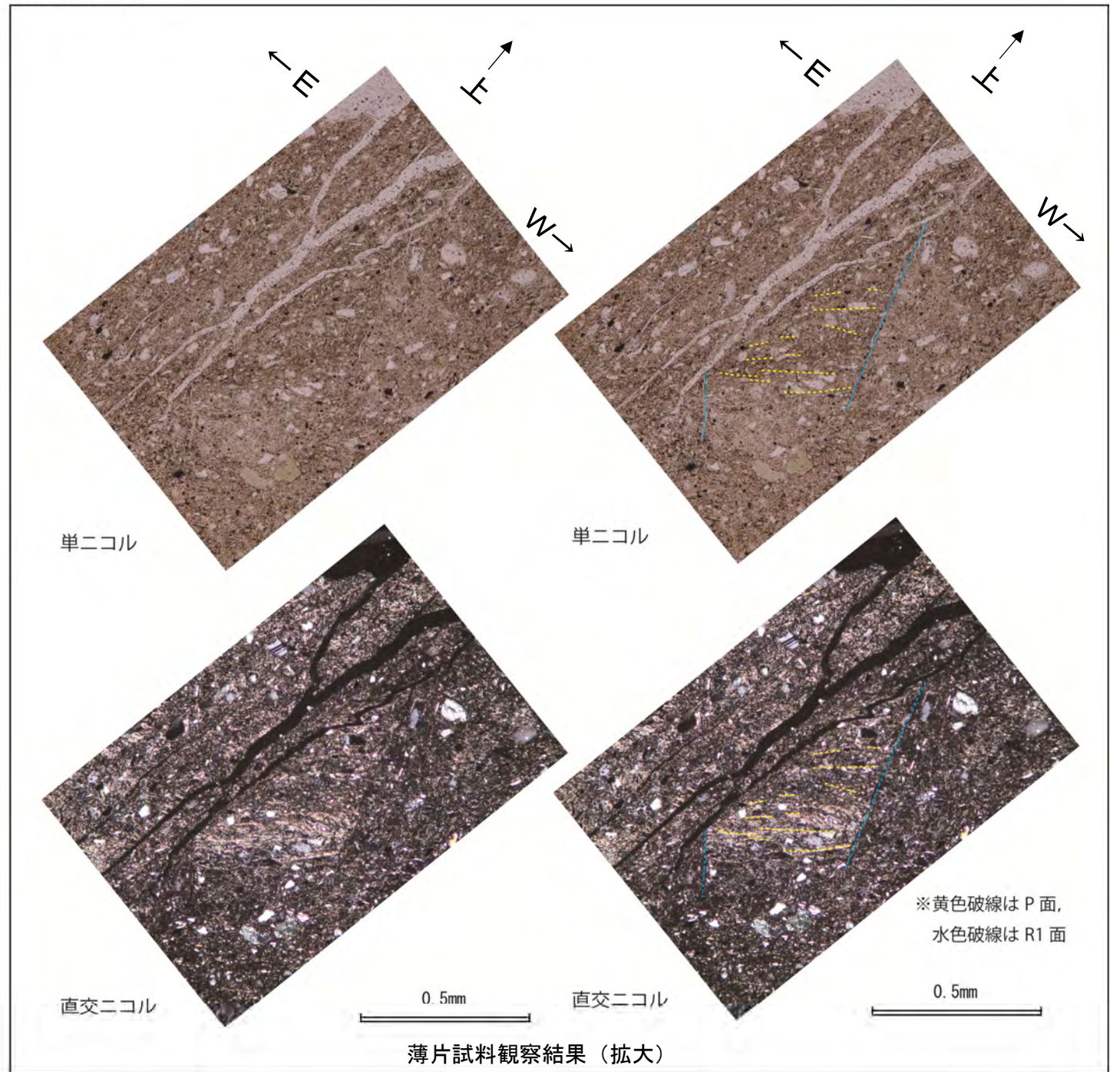


薄片試料採取位置

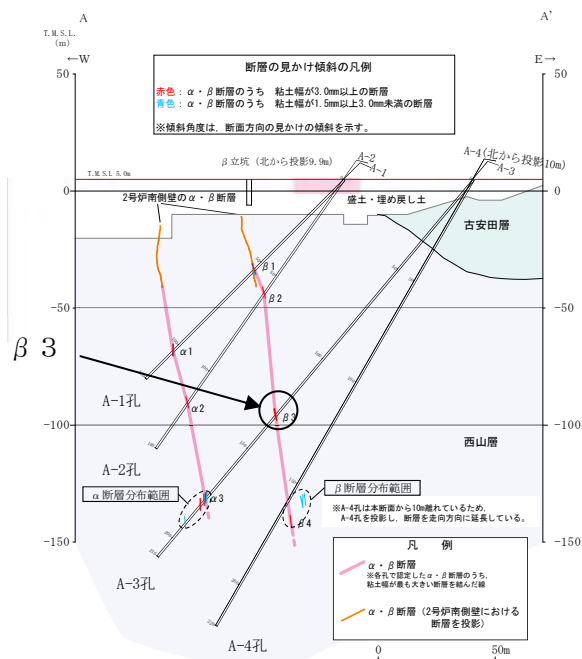


薄片試料観察結果

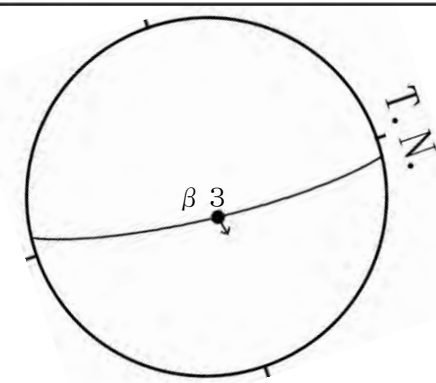
赤枠内の拡大



薄片試料観察結果 (拡大)



1・2号炉間地質断面図(A-A' 断面)



β 3 の走向・傾斜と変位センス
(シュミットネット 下半球投影)

← : β 3 上盤側の変位センス

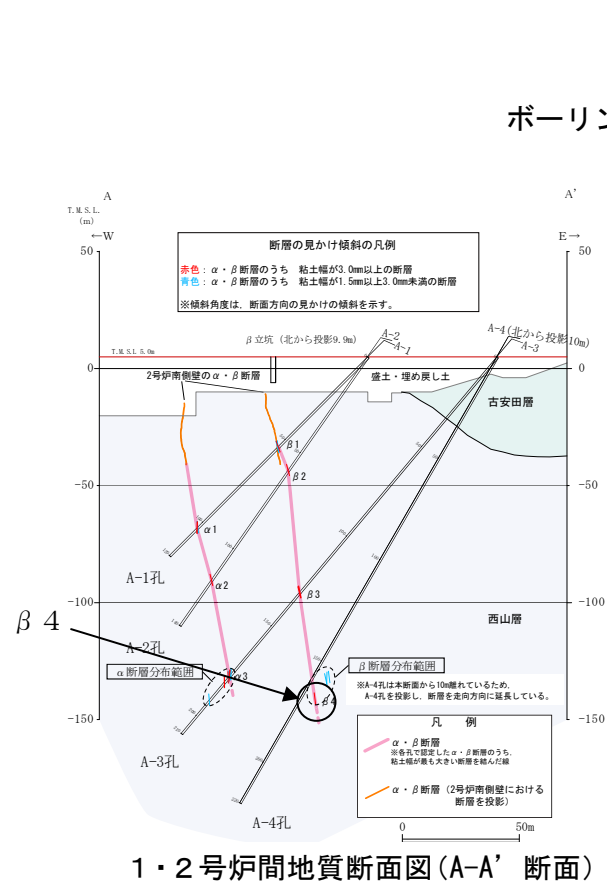
β 3 分析結果 (A-3 孔の薄片観察結果)

- 断層面に直交, かつ条線に平行な薄片を作製した。
- β断層粘土部に認められる右下がりの粘土鉱物の配列及びこの構造を切る左下がりのせん断面は, それぞれP面, R1面と判断され, 断層面との配置から東落ちの変位が推定される。

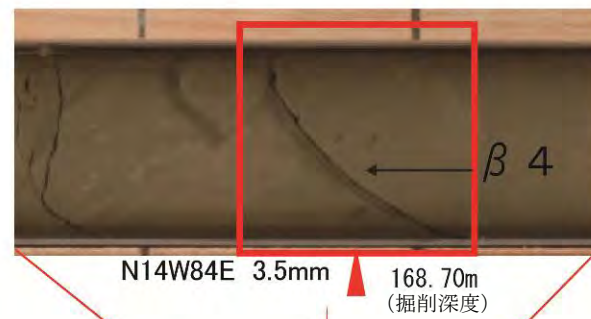
β 4 分析結果 (1)

○目的：A-4 孔における β 断層 (β 4) の条線等の詳細分析

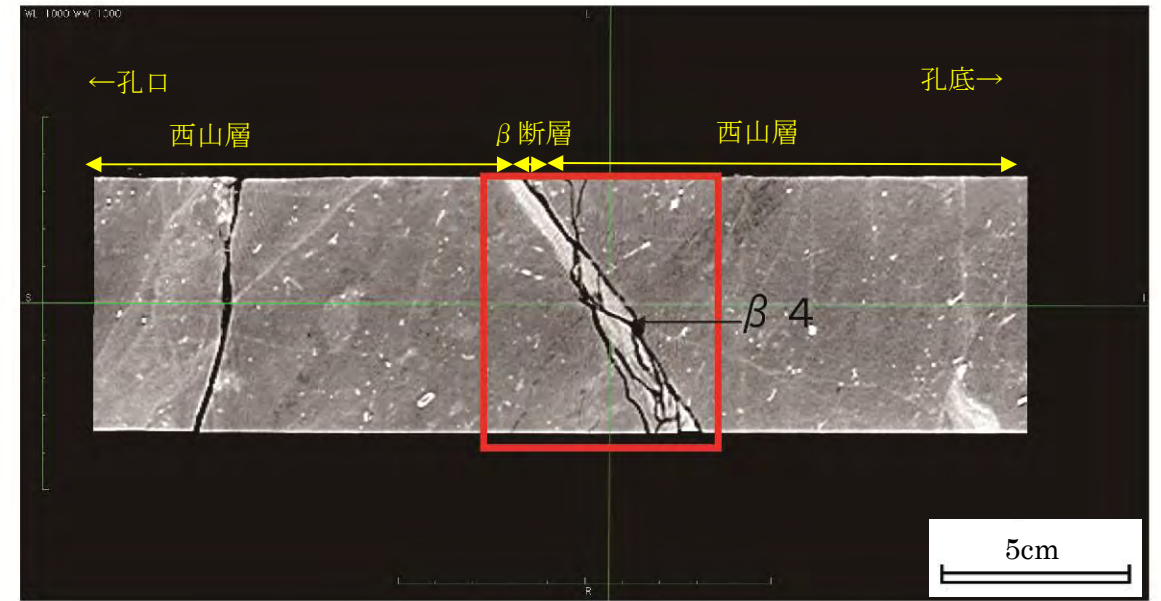
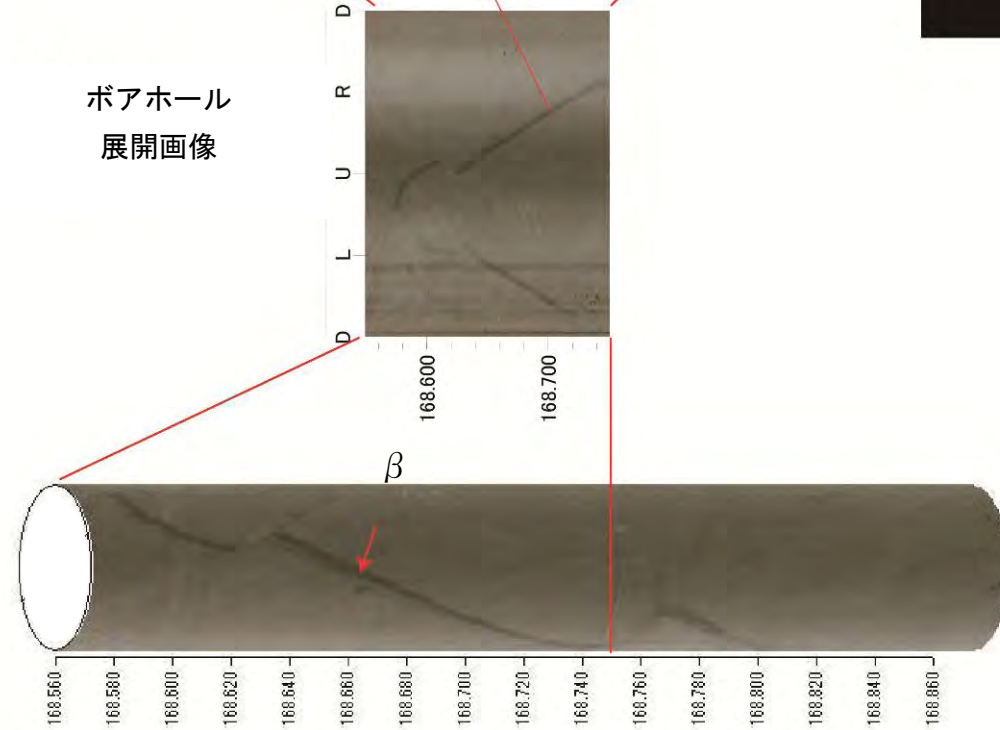
○分析内容：ボーリングコア詳細観察、定方位試料採取、CT画像分析、条線観察、研磨片・薄片観察



ボーリングコア写真



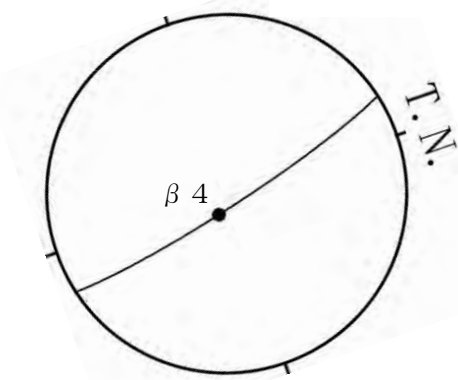
ボアホール展開画像



CT画像



β 断層 (β 4) の条線 (黄色矢印方向)
 断層面の走向・傾斜：N14W84E
 条線のレイク角：83L

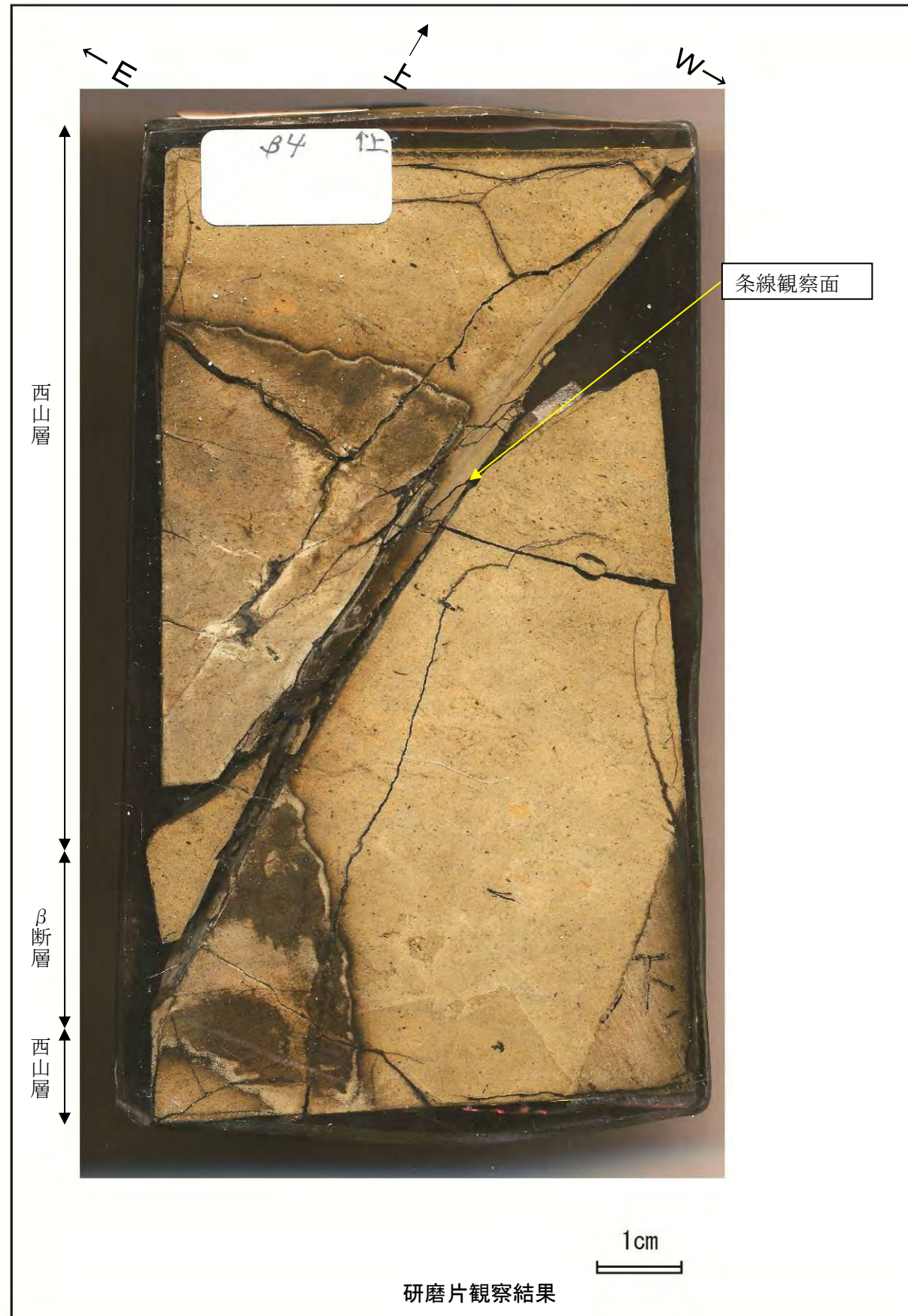
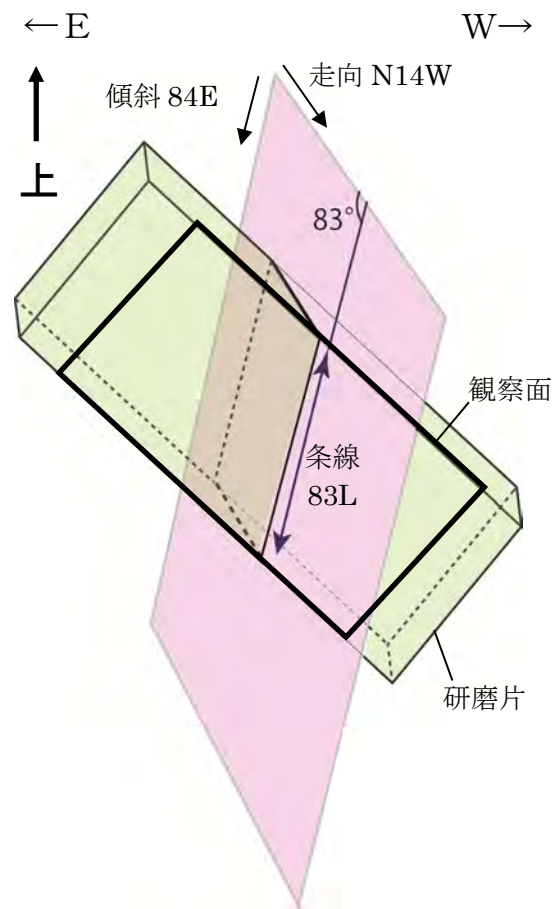


β 4 の走向・傾斜と条線方向
 (シュミットネット 下半球投影)

β 4 詳細観察結果

- ボーリングコアでは、幅 3.5mm の固結した粘土からなる。断層面は下面が平滑である。
- CT画像では、西山層より明るい色調を呈し、密度が高い。断層面は上下面ともに平滑である。
- β 断層粘土部の下面には、不明瞭な条線が認められる。条線の方法は、断層面の走向・傾斜 N14W84E に対してレイク角 83L である。

β 4 分析結果 (2)

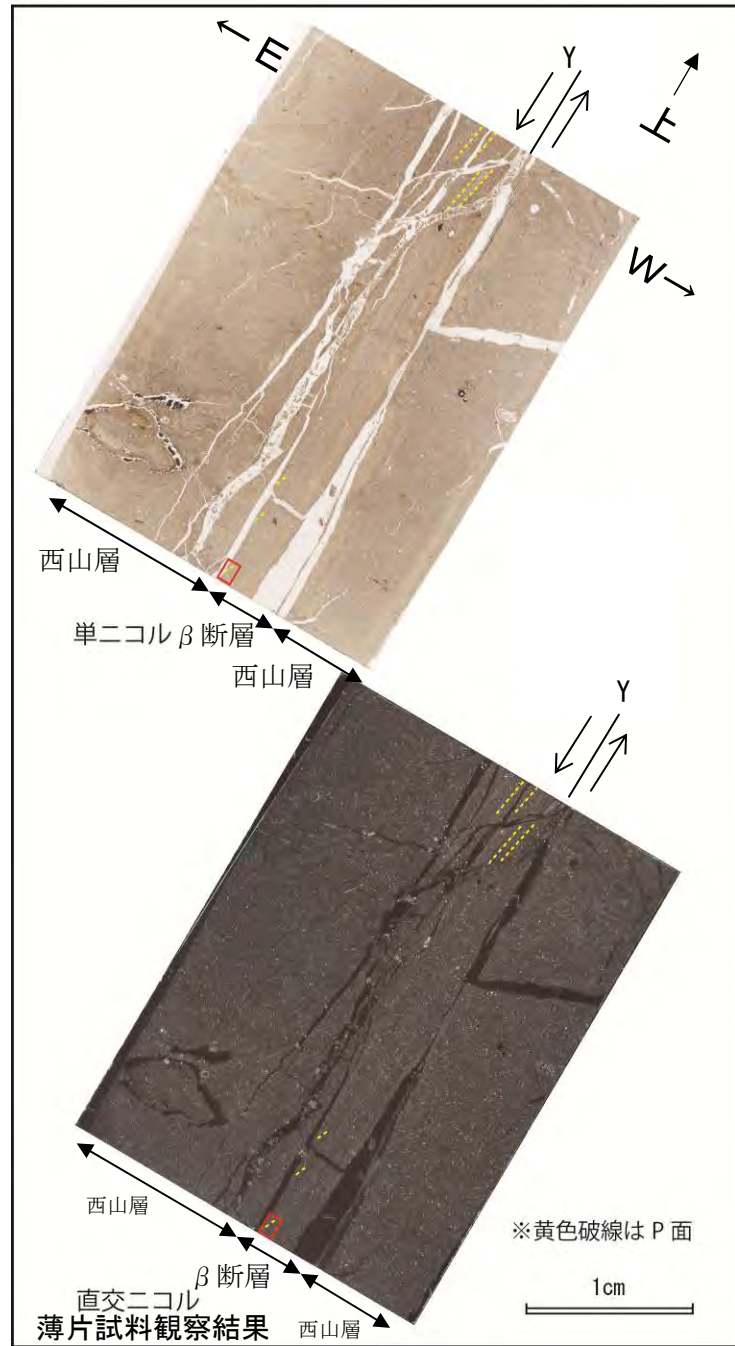


β 4 分析結果 (A-4 孔の研磨片観察結果)
 ○断層面に直交, かつ条線に平行な研磨片を作製した。
 ○研磨片では, β断層沿いに複合面構造が確認されないため, 変位センスは不明である。

β 4 分析結果 (3)

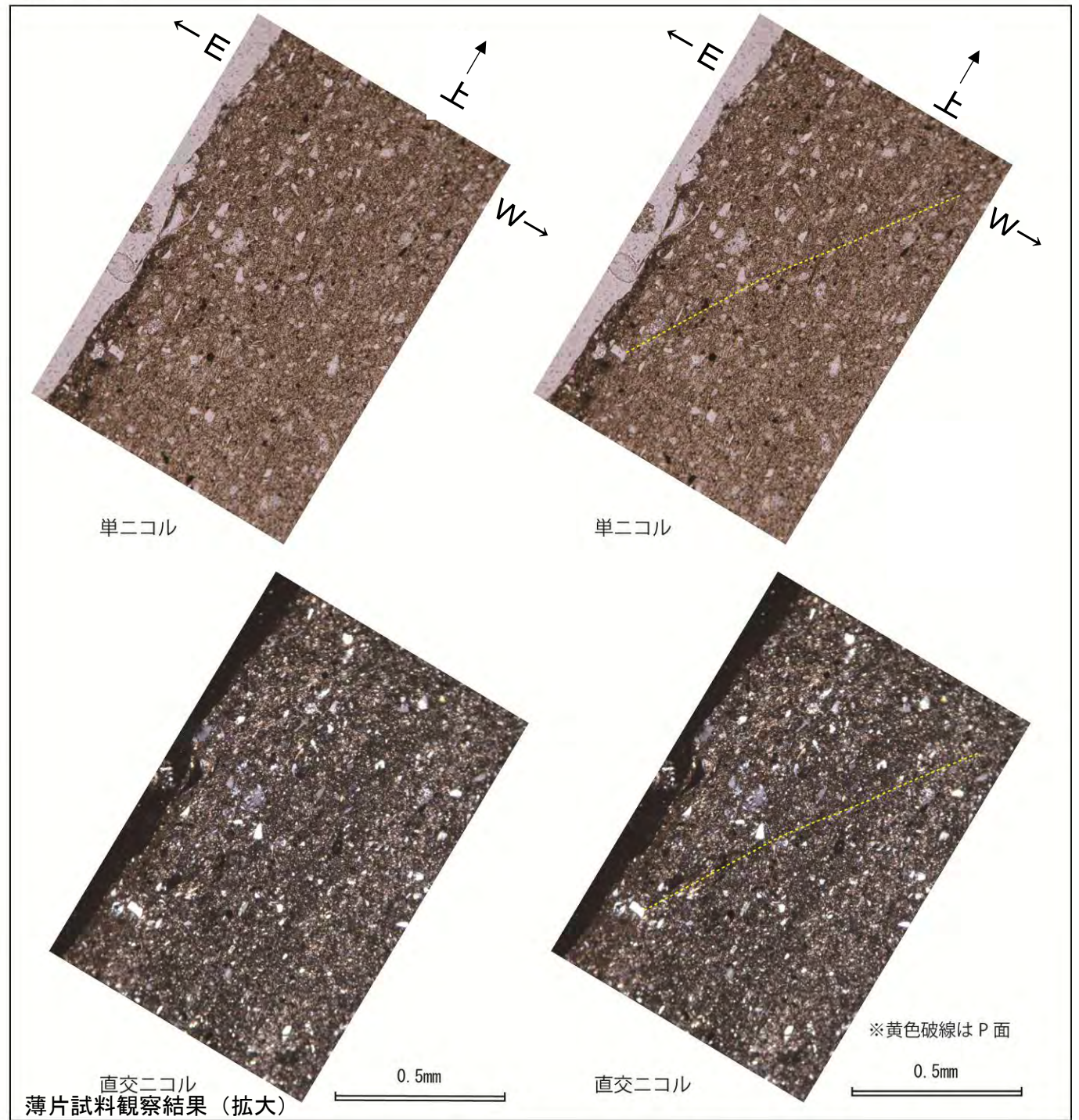


薄片試料採取位置

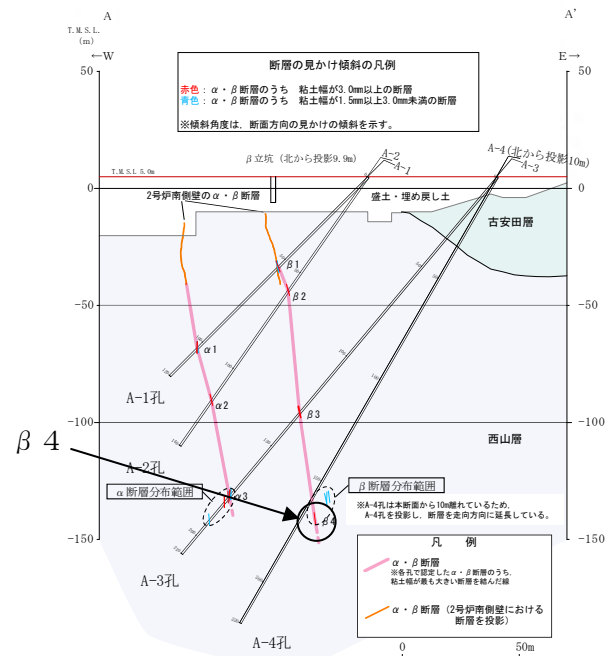


薄片試料観察結果

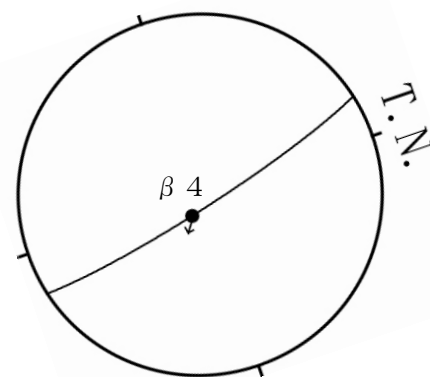
赤枠内の拡大



薄片試料観察結果 (拡大)



1・2号炉間地質断面図 (A-A' 断面)



← : β 4 上盤側の変位センス
β 4 の走向・傾斜と変位センス
(シュミットネット 下半球投影)

β 4 分析結果 (A-4 孔の薄片観察結果)
○断層面に直交、かつ条線に平行な薄片を作製した。
○β 断層粘土部に認められる不明瞭な右下がりの粘土鉱物の配列は P 面と判断され、断層面との配置から東落ちの変位が推定される。